

京都府埋蔵文化財調査報告書

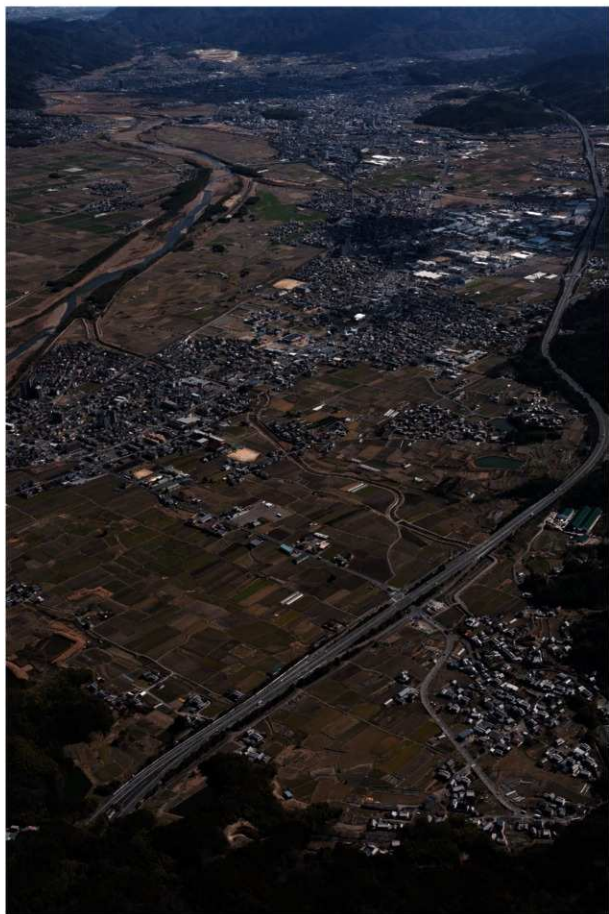
令和4年度

京 都 府 教 育 委 員 会

京都府埋蔵文化財調査報告書

令和4年度

京 都 府 教 育 委 員 会



千代川遺跡遠景空撮写真（北西から）

序

京都府内では、令和4年に221件の発掘調査が行われ、各地で重要な発見が相次ぎました。

京丹後市鶴尾遺跡では、九九の数式を記した奈良時代の木簡が見つかりました。記載された文字数が35個と全国で最多のものです。京都市ながおかきょうせき長岡京跡・淀水垂大下津町遺跡では、平安時代の歴史書『日本後記』などつるおに記された港「淀津」と推定される遺構群が見つかり、京都における物資の流通拠点の実態が明らかになりました。八幡市と京田辺市では、市域内に所在する古墳時代の首長墓群が綴喜古墳群として国史跡に指定されました。当委員会では、史跡くにきゅうせき恭仁宮跡の発掘50周年と文化庁京都移転を記念した講演会「恭仁宮フォーラム」を国立京都国際会館で開催し、京都府内外から多数の参加をいただきました。

今年度も新型コロナウイルス感染症流行の影響が残るなか、文化財の保存・活用に関する取組みを継続し、文化財の次世代への継承に努めてまいりました。

本書は、令和4年度に京都府教育委員会が実施した発掘調査の概要をまとめたものです。この報告書の刊行を含め、発掘調査等に御協力いただいた多くの方々と関係機関に厚くお礼申し上げますとともに、本書が府の歴史や文化を御理解いただく上での一助となり、文化財の保存と活用に役立つこととなれば幸いです。

令和5年3月

京都府教育委員会

教育長 前川 明範

凡 例

- 1 本書は令和2年度、令和4年度に京都府教育委員会が実施した埋蔵文化財調査関係の報告書である。
- 2 本書に収めた調査対象遺跡、執筆担当者は下表のとおりである。

	調査対象遺跡	執筆担当者
1	府営農業農村整備事業関係遺跡	川崎雄一郎
2	国営緊急農地再編整備事業 「亀岡中部地区」関係遺跡	北山大熙・川崎雄一郎・濱喜和子
3	史跡丹後国分寺跡	桐井理揮
4	令和4年府内遺跡試掘・確認調査	北山大熙・川崎雄一郎
5	令和4年における埋蔵文化財の発掘	奈良康正・岡田健吾・濱喜和子

- 3 本書の執筆は各担当者が行い、文資についてはそれぞれ文末に記した。編集は各担当者が行ったものを川崎がまとめた。
- 4 本書に掲載した地図は、国土地理院発行の地形図である。周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲は京都府・市町村共同ポータルサイト (<http://g-kyoto.gis.pref.kyoto.lg.jp/g-kyoto/top/index.asp>) に掲載する文化財GISデータを基に作成した。国土座標・方位のないものは、上位が北である。
- 5 本書で使用している測地系は、府営農業農村整備事業関係遺跡（北野台遺跡第6次調査・女布遺跡第5次調査）及び国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡（千代川遺跡第33・34次調査、西加舎遺跡第8次調査、井手遺跡第8次調査）、史跡丹後国分寺発掘調査は新座標（国土座標2000、平面直角座標系第Ⅵ座標系）である。
- 6 本書に使用した遺構番号の前にはSA（築地・塀・柱列）、SB（掘立柱建物）、SD（溝）、SK（土坑）、SX（その他）等の記号を付した。
- 7 本書で使用した方位記号は、矢羽根記号は座標北を表し、線書き記号で磁北を表している。
- 8 本書に掲載している当課撮影の写真等の転載については、これを許可する。ただし、使用した場合は出典を明記すること。

目 次

1	府営農業農村整備事業関係遺跡令和4年度発掘調査報告	1
[1]	北野台遺跡第6次調査	2
[2]	女布遺跡第5次調査	15
2	国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡令和2年度～令和4年度発掘調査報告	17
[1]	令和2・3年度の調査（千代川遺跡第33・34次調査）	20
[2]	令和4年度の調査（西加舎遺跡第8次調査・井手遺跡第8次調査）	57
3	史跡丹後国分寺跡第2次調査報告	61
4	令和4年府内遺跡試掘・確認調査等報告	63
[1]	高津遺跡試掘・確認調査	65
5	令和4年における埋蔵文化財の発掘	66
[1]	令和4年の動向	66
[2]	府内の主な発掘調査	68

CONTENTS

1	Overview of the excavation of the sites caused by pref-managed improvement in agricultural infrastructure for raising an agriculture manager (june 2022)	1
2	Overview of the excavation of the sites caused by government-managed urgent farmland reorganization maintenance project "Kameoka center district" (from 2020 to 2022)	17
3	Overview of the excavation of Tango-kokubunji temple (from october 2022 to december 2023)	61
4	Overview of the trial excavation (from 2021to 2022)	63
5	General view of excavation in Kyoto prefecture (from 2021 to 2022)	66

挿図目次

1 府営農業農村整備事業関係遺跡

[1] 北野台遺跡（第6次調査）

第1図	調査地周辺の遺跡（1/25,000）	2
第2図	トレンチ配置図（1/4,000）	3
第3図	遺構平面図（1/150）	5
第4図	調査区東壁断面図（1/60）	6
第5図	土坑SK 01、土坑SK 02 遺構平面・断面図（1/40）	6
第6図	溝SD 03、溝SD 10 遺構平面・断面図（1/60、1/20）	7
第7図	柱穴SP 05・06、土坑SK 09 遺構平面・断面図（1/40）	8
第8図	溝SD 12、溝SD 13、溝SD 14 遺構平面・断面図（1/80、1/20）	9
第9図	第6次調査出土遺物（1/4）	10
第10図	土器採集地点位置図（1/5,000）	11
第11図	北野台遺跡採集遺物（1/4）	12

[2] 女布遺跡（第5次調査）

第12図	女布遺跡調査位置図（国土地理院1/25,000） 「西舞鶴」「梅迫」	15
第13図	女布遺跡第5次調査区配置図（1/1,000）	16

2 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」

関係遺跡

[1] 令和2・3年度の調査（千代川遺跡（第33・34次調査））

第14図	調査対象遺跡及び周辺遺跡（1/60,000）	19
第15図	千代川遺跡第33次調査トレンチ配置図（1/12,000）	23
第16図	第1～8トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	25
第17図	第9～16トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	26
第18図	第17～24トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	27
第19図	第25～31トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	29
第20図	第32・33トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	30
第21図	SX335303出土骨	30

第22図	第34～37トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	31
第23図	第38～45トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	32
第24図	第46～53トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	33
第25図	第54～61トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	34
第26図	第62～65トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	35
第27図	第66～69トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	36
第28図	第70～77トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	37
第29図	第78～85トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	38
第30図	第86～93トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	39
第31図	第94・95トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	40
第32図	第96～99トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	41
第33図	第33次調査出土遺物（1/4・1/2）	42
第34図	千代川遺跡第34次調査トレンチ配置図（1/12,000）	44
第35図	第1～6トレンチ平面図・土層断面図（1/80）	46
第36図	第34次調査出土遺物（1/4）	47
第37図	千代川遺跡第33・34調査エリア区分（1/12,000）	49

[2] 令和4年度の調査（西加舎遺跡第8次調査井手遺跡第8調査）

第38図	調査対象遺跡及び周辺遺跡（1/10,000）	59
第39図	西加舎遺跡第8次調査地点（1/1,000）	60
第40図	井手遺跡第8次調査地点（1/1,000）	60

3 史跡丹後国分寺跡 第2次調査報告

第41図	史跡丹後国分寺位置図	61
第42図	調査地位置図（1/1,500）	62

4 府内遺跡試掘・確認調査等

第43図 令和4年度試掘・確認調査等位置図	63
-----------------------	----

[1] 高津遺跡試掘・確認調査

第44図 高津遺跡位置図（国土地理院1/25,000）	65
第45図 調査区配置図（1/1,000）	65
第46図 土層柱状図（1/40）	65

5 令和4年における埋蔵文化財の発掘

[2] 府内の主な発掘調査

第47図 法貴北5号墳完掘状況	69
第48図 鶴尾遺跡出土九十九木簡	70
第49図 佐屋利遺跡方形居館跡完掘状況	70
第50図 伏見城跡石垣検出状況	71
第51図 妙法院庫裡下層竈跡検出状況	71

付表目次

府営農業農村整備事業関係遺跡	
付表1	令和4年度調査遺跡一覧……………1

〔1〕北野台遺跡（第6次調査）

付表2	第6次調査出土遺物観察表……………14
付表3	北野台遺跡採集遺物観察表……………15

国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」 関係遺跡

付表4	令和4年度調査遺跡一覧……………18
-----	--------------------

〔1〕令和2・3年度の調査（千代川遺跡（第33・34次調査）

付表5	千代川遺跡第33次調査 トレンチャー一覧……………52
付表6	千代川遺跡第34次調査 トレンチャー一覧……………54
付表7	千代川遺跡第33次調査遺物観察表……………54
付表8	千代川遺跡第34次調査遺物観察表……………55

令和4年度府内遺跡試掘・確認調査等報告

付表9	令和4年試掘・確認調査等一覧……………64
-----	-----------------------

令和4年における埋蔵文化財の発掘

付表10	平成31・令和元～3年度埋蔵文化財専門職員及び埋蔵文化財包蔵地数市町村別一覧……………72
付表11	令和3年度埋蔵文化財関係届出・通知件数市町村別一覧……………73
付表12	土木工事等による発掘届出・通知件数一覧……………74
付表13	埋蔵文化財発掘調査届出・報告件数一覧……………74
付表14	埋蔵文化財認定件数一覧……………74
付表15	令和4年度埋蔵文化財国庫補助事業一覧……………75
付表16	令和4年度（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター委託事業一覧……………76
付表17	令和3年度発掘調査報告書等刊行状況……………78
付表18	令和3年度埋蔵文化財発掘調査届出・報告一覧……………81

巻頭図版目次

国営緊急農地再編整備事業（千代川遺跡）

巻頭図版第1	千代川遺跡遠景空撮写真（北西から）
--------	-------------------

図版目次

府営農業農村整備事業関係遺跡

〔1〕北野台遺跡（第6次調査）

- 図版第1 (1) 調査区遠景（南西から）
(2) 調査区遠景（南から）
- 図版第2 (1) 調査区全景（北東から）
(2) 調査区東壁断面（南西から）
- 図版第3 (1) 土坑SK01断面（西から）
(2) 土坑SK02断面（南西から）
(3) 溝SD03完掘（南西から）
- 図版第4 出土遺物

- 図版第12 (1) 第4トレンチ全景（南から）
(2) 第6トレンチ全景（南から）
(3) 第6トレンチ遺構検出状況
（北東から）

図版第13 出土遺物

国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」 関係遺跡（千代川遺跡第33次調査）

- 図版第5 (1) 調査区遠景（垂直）
(2) 調査区遠景（南東から）
(3) 第6トレンチ全景（東から）
- 図版第6 (1) 第12トレンチ全景（南から）
(2) 第25トレンチ全景（南から）
(3) 第29トレンチ全景（南から）
- 図版第7 (1) 第33トレンチ全景（南から）
(2) 第35トレンチ全景（西から）
(3) 第53トレンチ全景（北から）
- 図版第8 (1) SX335303半截（南東から）
(2) 第61トレンチ全景（北から）
(3) 第66トレンチ全景（東から）
- 図版第9 (1) 第75トレンチ全景（南から）
(2) 第89トレンチ全景（南から）
(3) 第95トレンチ全景（南から）
- 図版第10 出土遺物

国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」 関係遺跡（千代川遺跡第34次調査）

- 図版第11 (1) 調査区遠景
（北東から、第1～3トレンチ）
(2) 調査区遠景
（南東から、第6トレンチ）
(3) 第1トレンチ全景（南から）

1 府営農業農村整備事業関係遺跡

令和4年度発掘調査報告

京都府教育委員会では、府農林水産部が進める府営農業農村整備事業に係る埋蔵文化財の取扱いについて同部農村振興課と協議を行い、埋蔵文化財の保護と同事業との調整を図っている。事業着手前には、事業地内における埋蔵文化財包蔵地に対して試掘・確認調査を実施して遺構・遺物の広がり等の詳細な内容を把握するとともに、やむを得ず本発掘調査が必要な部分については、それぞれ関係する府及び各市町埋蔵文化財所管部局と協力して、本発掘調査を実施している。

令和4年度の府営農業農村整備事業にかかる発掘調査は、京都府教育委員会及び綾部市教育委員会、舞鶴市、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターが実施した。その内訳は、本発掘調査6件である（付表1）。

令和4年度の調査組織及び調査期間は以下のとおりである。調査期間中にご協力いただいた関係機関及び関係者の皆様には記して感謝したい。

《調査組織》

令和4年度

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部文化財保護課長 森 正

調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物係課長補佐兼係長 藤井 整

主 査 奈良 康正

技 師 北山 大熙

技 師 川崎 雄一郎

付表1 令和4年度調査遺跡一覧

1 京都府教育委員会が実施した調査

遺跡名	所在地	現地調査期間
北野台遺跡（第6次）	綾部市位田町地内	令和4年6月1日～令和4年6月29日
女布遺跡（第5次）	舞鶴市女布	令和4年8月9日～令和4年9月30日

2 その他の機関が実施した調査

遺跡名	所在地	調査機関
北野台遺跡（第5次）	綾部市位田町地内	綾部市教育委員会
北野台遺跡（第7次）	綾部市位田町地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
女布遺跡（第6次）	舞鶴市女布	舞鶴市
女布遺跡（第7次）	舞鶴市女布	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

きたのだい [1] 北野台遺跡 第6次調査

1 はじめに

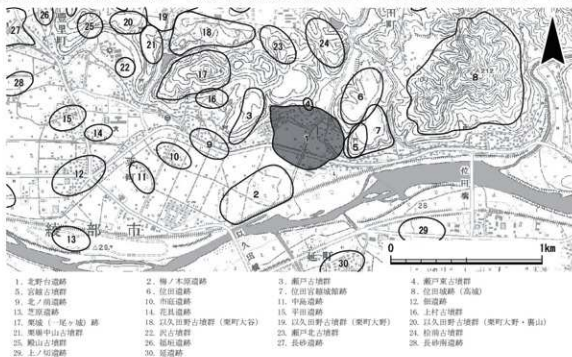
綾部市位田町地内で府営農地中間管理機構関連農地整備事業が計画されることから、令和2年度に事業予定地で分布調査を行ったところ、新たに北野台遺跡の存在が明らかとなった。分布調査の結果を受けて実施した梅ノ木原遺跡・北野台遺跡第1次調査及び令和3年度の北野台遺跡第3次調査では、一辺3m四方のグリッド調査区を設定し発掘調査を行った。調査の結果、北野台遺跡では、事業予定地の北側にあたる現集落と水田の境界付近に遺構が密に存在することが明らかになった。今回の第6次調査では、前年度までの発掘調査で遺構が検出された水田区画に調査区を設定し、発掘調査を実施した。調査期間は令和4年6月1日から令和4年6月29日である。調査面積は合計で196㎡である。

2 位置と環境

北野台遺跡は、由良川右岸に位置する綾部市位田町に所在する。町域の中央を由良川水系の瀬戸川が南流し、町域の南端で由良川に合流する。

北野台遺跡は、現在の位田町北野台の集落が立地する丘陵の裾部と丘陵から一段低くなった水田域にまたがるように所在する。遺跡の北側に斑れい岩帯と洪積層によって形成された丘陵が存在する。周知の埋蔵文化財包蔵地の中央を瀬戸川が流れ、その両岸で遺構・遺物の広がりが確認されている。

令和3年度までに、京都府教育委員会及び綾部市教育委員会により実施された発掘調査は第4次を数え、京都府教育委員会が第1・3次、綾部市教育委員会が第2・4次調査を実施した。第1・2次調



第1図 調査地周辺の遺跡（1/25,000）

（国土地理院 1/25,000「福知山東部」を加工して作成）



第2図 トレンチ配置図 (1/4,000)

査では、周知の埋蔵文化財包蔵地の北端にあたる水田域の北側を中心に遺物包含層及び遺構の存在が明らかになり、第3次調査では、瀬戸川の右岸で溝及び土坑等の遺構を検出した⁽¹⁾。第4次調査では、瀬戸川の左岸で、現在の段丘の縁に沿って南流する中世の流路が検出された⁽²⁾。また、令和3年度に実施した分布調査及び地元住民からの資料提供により埋蔵文化財包蔵地の範囲がさらに北側の現集落域にまで広がることが明らかになった。この結果を受けて、京都府教育委員会と綾部市教育委員会による現地協議を経て、周知の埋蔵文化財包蔵地が拡張された。

北野台周辺に旧石器・縄文時代の遺跡は確認されておらず、弥生時代から奈良時代の散布地として周知されている位田遺跡が最も古く位置づけられる。北野台遺跡の北方を取り囲む丘陵上には、瀬戸古墳群、瀬戸東古墳群、宮越古墳群が存在する。北西に位置する瀬戸古墳群は、前方後円墳を含む計21基の古墳によって形成される。北野台遺跡の西に位置する北ノ前遺跡は、瀬戸古墳群の立地する丘陵の麓にあたり、古墳時代後期の散布地であることから、丘陵上に墓域として利用し、低地部に集落域が広がっていたものと考えられる。

遺跡が存在する位田町域は、古代何鹿郡に含まれる。平安時代の『倭名類聚抄』によると何鹿郡は16の郷で構成されていたとされ、位田町域を文井郷に比定する説が存在するが、現時点で古代の集落の詳細は明らかではない。中世に入ると、寛正2（1461）年の何鹿郡代広戸九郎左衛門尉の下知状に上位田・下位田の地名が確認できる。

中世には、北野台遺跡の北東に位置する丘陵上が城館として利用され、位田宮越城館跡や位田城跡^{あやこし}が所在する。位田城は何鹿郡でも最大規模の山城であり、『傍敝寺縁起』によると、延徳2（1489）年の位田の乱の際には、何鹿郡の国大槻氏^{おぎの}や荻野氏の拠点であったとされる。明智光秀による丹波平定の際も織田方の進攻に対して、荻野肥前守が位田城を拠点に対抗したとされる。位田宮越城館跡は城主が不明ながらも、隣接する位田城^{やまが}との関連が想定されており、現在は氏神社が鎮座している。近世において、位田町は山家藩および旗本谷家の領地であった。

3 令和4年度調査の概要

（1）調査の経過

今回の調査では、工事予定地内で切土施工とされている範囲のうち、令和3年度に実施した第3次調査で遺構が検出された水田区画に調査区を設定した。第6次調査区は、第3次調査でK3-14trが設定されていた区画である。第3次調査では、弥生土器や須恵器等を含む遺物包含層とその下層で遺構面を検出している。調査区は水田区画に沿って設定し、南北幅最大約10.7m、東西幅最大約25.8mである。ただし、耕作用機械の搬入口となるコンクリート製のスロープは撤去が困難であることから調査区から除外した。

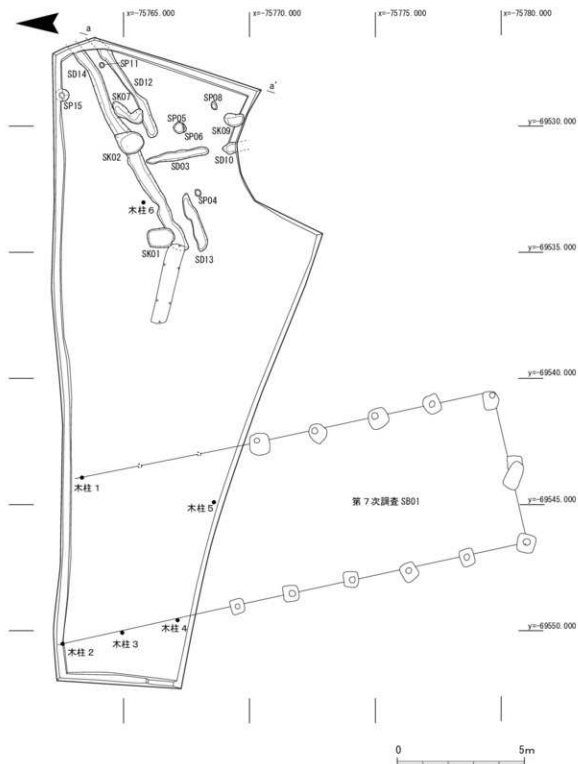
調査は、まず、重機により表土及び近世の堆積土の除去を行った。その後、人力にて遺物包含層を掘削した後、遺構の検出を行った。

（2）調査区の基本層序（第4図）

調査区の基本層序は第1層が現代の水田に伴う耕作土である。第2層は、シルトを含む砂質土である。第2層掘削中に近世以降の所産とみられる染付が出土していることから、近世以降の旧耕作土と推定する。第3層は中世の遺物包含層である。第3次調査の際に、中世の遺物包含層と判断した土層であり、今回の調査でも中世の瓦器碗の破片が出土している。その下層は、径0.1cmまでの礫を多量に含む砂質土層である。第3次調査では、無遺物層であると判断したが、今回の調査では、この第4層に奈良時代までの遺物が含まれることが明らかになった。第5層はしまりの良いシルト及び粘土を含む砂質土層で、奈良時代の遺構のベースを形成する土層である。第5層の断削から遺物は検出されず、無遺物層と判断した。第5層中には、部分的に径5cmまでの礫を多量に含む箇所が存在する。この礫を大量に含む堆積土は、第3次調査の際も部分的に検出しており、谷地形の堆積土であると判断したものである。この礫層については、第6次調査区が瀬戸川に近接する位置にあることから、河川の氾濫等により、部分的に堆積した礫を含む堆積土である推定する。

（3）主な遺構

今回の調査で検出した主な遺構は柱穴、土坑、溝、木柱である。遺構はいずれも第5層上面で検出されている。遺構は調査区の東側に集中しており、西側は遺構の密度が希薄である。柱穴は合計6基



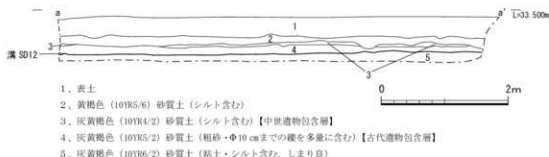
第3図 遺構平面図 (1/150)

を検出したが、建物跡を復元することはできなかった。

本報告では、遺物が出土しており、帰属時期の明確な遺構について記載する。

土坑 SK 01

土坑 SK 01 は、平面形が不整形円形の土坑である。第3次調査で柱穴 SP 031401 としていた遺構

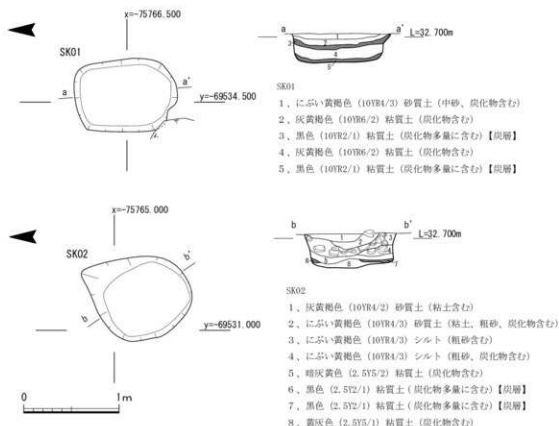


第4図 調査区東壁断面図 (1/60)

は、この土坑の南西隅部分であったことが判明した。土坑は長軸が1.08m、短軸0.76mを測る。残存する深さは0.31mであり、ほぼ垂直に掘り込まれる。遺構埋土は5層に分層でき、最下層から、炭化物を多量に含む炭層と炭化物をわずかに含む粘質土層が交互に堆積する。最上層にのみ、下層と土質の異なる砂質土の堆積が確認できた。壁面の上部は被熱により硬化している。炭層の存在から、土坑内で何らかのものを燃やした焼土坑と判断した。炭層が2層検出されたことから少なくとも2時期の燃焼が行われた後に、土坑が埋没したものとする。遺構埋土より古代とみられる土師器片や須恵器片が出土した。出土した遺物は細片であり、時期を特定できるものではなかったが、包含層との関係から、奈良時代の遺構と判断した。

土坑SK02

土坑SK02は、平面形が不整楕円形の土坑である。土坑SK01よりやや不整形であるが、規模は



第5図 土坑SK01、土坑SK02遺構平面・断面図 (1/40)

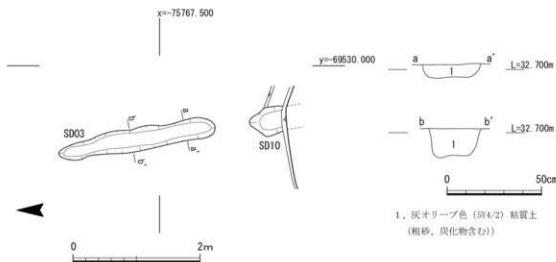
近似しており、最大径は1.19mを測る。深さは0.36mである。土坑S K 01と同様に、遺構埋土に炭層を伴い、壁面上部が被熱により硬化することから、同じく焼土坑と判断した。ただし土坑S K 02は遺構埋土の第2～4層に礫を含む点が異なる。礫の大きさは0.1～0.15m程度であり、一部に被熱による表面の変色が確認できた。ただし、礫の全面が被熱しているものは少なく、被熱による変色を伴わない礫を含む。遺構の断面観察の結果、礫は遺構中心部に向かって落ち込むように堆積していることから、土坑内に礫がある状態で燃焼を伴う作業を行ったのではなく、作業時には遺構外にあった礫が土坑の埋没過程で土坑内に落ち込んだものと判断した。遺構埋土より弥生土器片及び須恵器杯の口縁とみられる破片が出土している。遺構の特徴が類似することや、須恵器片の存在から土坑S K 01とはほぼ同時期の焼土坑と判断した。

溝S D 03・10

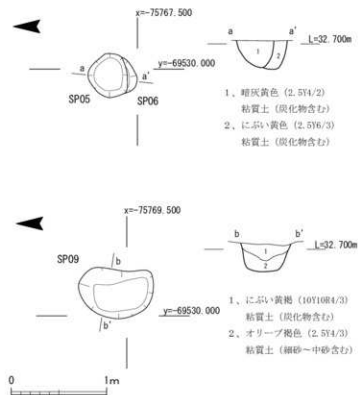
溝S D 03及び10は、途切れている部分があるが、本来は一連の溝であった可能性を考慮して、一括して報告する。溝S D 03は、延長2.52m、最大幅0.37m、深さ0.15mを測る。延長方向はほぼ南北方向であるが、座標北に対して西に約10°振る。溝底は北に向かって傾斜している。埋土はわずかに炭化物を含む粗砂まじりの粘質土1層のみで、流水があったとは考えにくい。溝S D 10は、検出長0.51mである。南側が調査区外に伸びており、正確な規模は定かではないが、溝S D 03の延長上に位置することから、同一の溝と判断した。ただし、溝S D 03の南端とS D 10の北端は約0.54m離れている。溝が途切れている部分について、意図的な掘り残しかどうかは判断出来ない。溝S D 03の埋土からは、奈良時代の土師器が出土している。溝S D 10の埋土からは、土師器皿や須恵器杯Bを含む複数の須恵器片が出土している。溝S D 03・10の延長方向は第7次調査で検出された掘立柱建物の長軸と一致しており、同時期の区画溝である可能性がある。溝S D 03からSB01の東側柱までの距離は11.7m（約40尺）である。

柱穴S P 05

柱穴S P 05は、円形の柱穴であり、径0.41m、深さ0.28mを測る。先行する柱穴S P 06の上から



第6図 溝S D 03、溝S D 10遺構平面・断面図 (1/60、1/20)



第7図 柱穴SP 05・06、土坑SK 09 遺構平面・断面図 (1/40) い。

溝SD 12・13

溝SD 12・13は、いずれも北東から南西方向に延びており、溝SD 12の延長線上に溝SD 13が位置する。遺構埋土の質がやや異なるものの、両遺構とも幅が約0.45m程度、深さ約0.1m未満と、ほぼ同等の規模を持つことから、一連の遺構と判断した。溝SD 12の検出長は4.47mであり、調査区外へと延びている。溝SD 13の延長は、2.42mである。遺構埋土は共に、1層のみであり、流水の有無は判然としない。溝底の標高はほぼ水平であるが、わずかに北東側が低くなる。溝SD 12より弥生土器片が出土し、溝SD 13より弥生土器片及び古代と見られる土師器片が出土している。

溝SD 14

溝SD 14は、溝SD 12・13に並行する。溝の検出長は、9.35mであり、北東端は調査区外に延びている。南西端は徐々に浅くなり、並行する溝SD 13の南西端とほぼ同じ箇所で見切れている。幅は約0.5m程度であり、溝SD 12・13よりやや大きいものの、深さは約0.1m未満と同程度である。遺構埋土は1層のみで溝SD 12・13の堆積状況と近似する。遺構埋土から古式土師器とみられる厚手の土器片が出土している。溝SD 12は、土坑SK 01・02・07との切り合い関係により、これらの土坑に先行する時期のものと判断した。溝SD 12・13との切り合いはなく、先後関係は不明であるが、延長方向や規模、埋土の堆積状況が近似することから、同様の性格を有する遺構と推定する。溝底の標高は、ほぼ水平であり、明確な傾きは認められない。

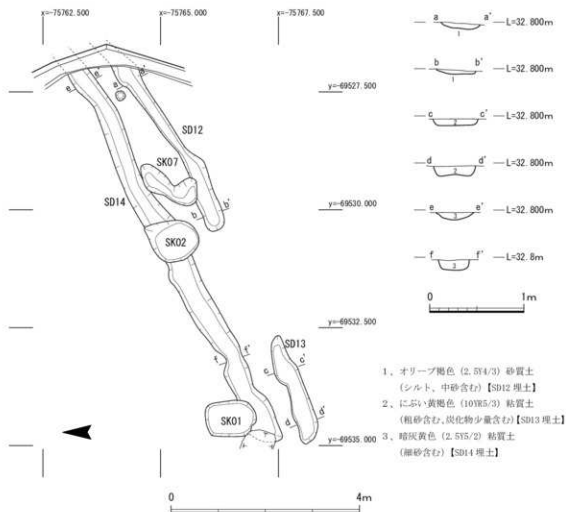
木柱1～6

調査区内で6本の木柱を検出した。調査時には、遺構掘方を検出できなかったことから、遺構面より上部から打ち込まれた時期不明の杭と判断したが、第7次調査で古代の掘立柱建物（SB 01）に

重複するように掘り込まれており、柱抜取穴の可能性もある。遺構埋土からは古代の土師器甕の口縁が出土している。

土坑SP 09

土坑SP 09は、不整楕円形の柱穴であり、最大径が0.76mを測る。深さは0.3mであり、遺構埋土は上層と下層の2層に分かれている。遺構埋土より土師器、須恵器、弥生土器が出土している。柱穴SP 05・06の中心との距離は約2.2mで、7尺（2.1m）に近似する値をとる。ただし、周囲にこの2つの柱穴に関連する別の柱穴は他に無く、建物を復元することは出来ない。



第8図 溝SD12、溝SD13、溝SD14 遺構平面・断面図 (1/80、1/40)

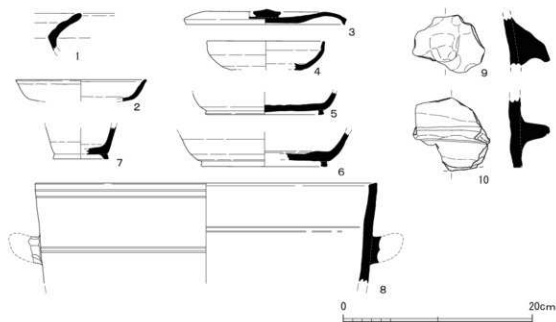
伴う木柱であることが判明した（第3図）⁽³⁾。この掘立柱建物SB01は、第6次調査検出の木柱1から4を含めると、東西2間、南北8間以上となる。建物西側の柱（木柱2から4）は、柱間が約2.3mであり、8尺（約2.4m）に近似する値をとる。建物の東側柱は木柱1のみを検出した。第7次調査SB01から等間隔で柱が並んでいると想定すれば、木柱1の南側にさらに2本分の柱穴を想定することができる。しかし、今回の調査ではこの箇所の柱を検出することはできなかった。

木柱5・6に関しては、関連する木柱または遺構がなく、性格は不明である。

(5) 出土遺物

今回の調査では、弥生時代から中世にかけての遺物がコンテナ5箱分出土した。中世の遺物は、第3層より瓦器碗の細片が出土している。遺物包含層である第4層は、調査区全面に広がることを確認したが、遺物の出土は遺構が密集する調査区の東側に集中する。今回は、遺物包含層から出土した土器と遺構埋土から出土した遺物のうち、遺存状態が良好であり、遺構・遺物包含層の時期を示すものを中心に報告を行う。

1は、土師器甕の口縁部である。口縁内外面ナデ調整を施し、特に口縁内面に強いナデ調整を施す。



第9図 第6次調査出土遺物（1/4）

飛鳥時代から奈良時代のもものとみられる。柱穴 S P 05 の埋土から出土した。

2 は、土師器杯 C である。口径 13.6cm で残存高が 2.3cm である。口縁端部は僅かに外反する。内外面ともにナデ調整であり、暗文は確認できない。器高が低いことから皿のようにも見えるが、口径の小ささから杯と判断した。8 世紀後半とみられる。溝 S D 03 の埋土から出土した。

3 は、須恵器杯 B の蓋である。口径は 17.2cm である。器高は 1.6cm であるが、中央部が大きく歪んでいる。8 世紀後半とみられる。第 4 層から出土した。

4 は、須恵器杯である。底部は平底であり、体部は内湾する。口径は 12.4cm である。溝 S D 10 の埋土から出土した。

5・6 は、いずれも須恵器杯 B の底部である。いずれも奈良時代の包含層である第 4 層から出土している。5 は、底部をヘラ削りの後、高台を付している。底部径は 12.5cm である。体部は大部分が失われている。8 世紀後半と見られる。6 は、底部をヘラ切りした後、高台を付している。高台はやや外反気味であり、底部径は 13.4cm である。詳細な時期は不明であるがおおよそ 8 世紀代と推定する。今回の調査区から出土した遺物で、図化に耐えない遺物も含めると、須恵器杯 B の底部破片の出土が目立つ。

7 は、須恵器壺の底部である。底部はヘラ削りの跡、高台を付している。体部の大半が失われているが、残存部から体部の湾曲は小さいものと推定できる。

8 は、甌とみられる大型の須恵器である。口縁部から把手にかけての部分が残存するが、体部下半を欠損する。口径は 36.0cm である。

9・10 は、土師質の甕と推定される土製品である。把手と底部分が出土している。この 2 点に接合関係は認められないが、胎土や焼成の度合いから、同一個体と考えられる。



第10図 土器採集地点位置図（1/5,000）

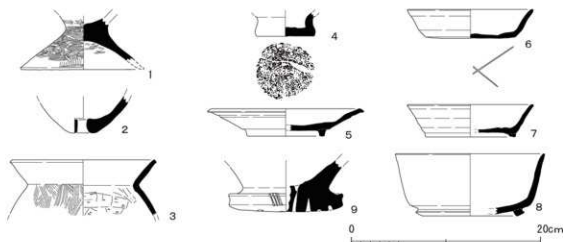
電子地形図 25,000（国土地理院）を加工して作成

（6）北野台遺跡内採集土器

北野台遺跡が周知の埋蔵文化財包蔵地として認識されたのは、令和2年度に京都府教育委員会が実施した分布調査以降である。その後、府宮ほ場整備に伴う発掘調査が毎年実施されてきたが、発掘調査の実施によって、遺跡の存在を初めて知った地域住民より、北野台遺跡内でこれまで採集・保管されていた土器等の寄贈を受けた。上記の資料は、当該事業に伴う発掘調査によって検出された遺構・遺物の理解に欠かせない資料であり、今回は採集者の了解を得てその一部を報告する。

遺物が採集されたのは、第10図で図示した範囲とされる。出土状況の詳細は不明であるが、合計コンテナ1箱分の遺物が採集されている。採集された遺物は弥生時代から中世にかけての遺物が中心であり、一部に現代のガラス片等を含む。遺物の多くは弥生時代後期と奈良時代から平安時代にかけてのものであり、これまでの発掘調査で出土した遺物の時期と共通している。そのため、寄贈を受けた遺物は、北野台遺跡の出土遺物であると判断した。

- 1は、弥生土器台付甕である。脚部のみ残存する。脚部外面は横方向のヘラ磨きが全面に施される。
- 2は弥生土器有孔鉢の底部である。底部中央に径1.0cmの焼成前穿孔を有する。
- 3は土師器甕である。体部外面はハケ調整、内面はケズリ調整が施される。口縁部は内外面ともにナデ調整が施される。古墳時代に属するものと考えられる。



第11図 北野台遺跡採集遺物（1/4）

4は須恵器壺の底部である。底部に糸切りによる痕跡が残る。焼成が著しく悪く土師器のような色合いを呈す。

5は、須恵器皿である。口縁端部は外反する。底部はヘラ切りの後、高台を貼り付けている。9世紀代のものとみられる。

6は、須恵器杯Aである。口径は13.4cm、器高は3.1cmである。底部にヘラ書きの記号を有する。記号は直線2本を交差させたものである。

7・8は須恵器杯Bである。7の口径は13.4cm、器高は3.4cmである。底部はヘラ切りの後、低い高台を貼り付けている。8は、口径が15.8cm、器高が10.0cmである。底部の外縁から0.5cmの箇所に高台を貼り付けるが、高台は大きく外反している。7は平安時代、8は8世紀後半と考えられる。

9は須恵器鉢Fの底部である。全面にナデ調整が施され、底部側面にハケ状の工具が当たった痕跡が残る。底部外面には無数の刺突が施され、刺突の一部は、底部を貫通し内面にまで達する。

（7）まとめ

今回の第6次調査では、主に奈良時代を中心とする時期の遺構に関する成果を得られた。主な遺構は溝と土坑、柱穴である。第6次調査終了時点では、性格不明の遺構が大半であったものの、調査後に南側隣接地にて実施された第7次調査で、大型掘立柱建物が発出されたことから、第6次調査で検出された溝SD 03・10や木柱の一部が、この大型掘立柱建物に伴う遺構と判明した。

SD 03・10の延長方向は掘立柱建物の主軸と並行しており、建物に伴う区画溝である可能性が指摘できる。一方、溝SD 12・13・14は、溝SD 03・10と規模の近似した直線的な溝であり区画溝の可能性はあるが、溝の延長方向は異なる。溝SD 12・13・14と溝SD 03・10に切り合い関係はなく、出土遺物からも有意な時期差を認めることは出来ない。そのため、溝の掘削時期の前後関係は不明確ながら、奈良時代に溝SD 03・10とは異なる区画割が存在した可能性が考えられる。

溝以外に、注目すべき遺構は焼土坑SK 01・02である。焼土坑の用途としては、土師器焼成坑や木炭焼成坑などが挙げられ、木炭焼成土坑は、小型で壁がほぼ直立し、床面と壁面への炭素吸着や被

熱層が薄いという特徴が指摘される⁽¹⁾。今回の土坑 S K 01・02 についても、ほぼ垂直に掘り込まれており、壁の上端部の一部に被熱による硬化面があるなど、木炭焼成坑との類似が認められる。そのため土坑 S K 01・02 は、木炭焼成坑と判断した。

その他の柱穴や土坑に関して、今回の調査区内で建物跡等の復元にはつながらなかったが、遺物や遺構が調査区東側に範囲に集中すること、また溝 S D 12・14 が調査区外に延びていくことを考慮すると、調査区外にも関連する遺構が存在する可能性は高く、何らかの建物等に伴う遺構である可能性も残されている。

最後に、北野台遺跡の立地と古代の遺構の広がりについて検討することで、第6次調査区の位置付けについてまとめる。今回の調査区は、現在の集落が立地する丘陵裾から標高が1mほど下がった耕作地内に位置する。前述の通り、第6次調査区の東半に遺構が集中することから、調査区のさらに東側に関連遺構が存在する可能性が高い。その一方で、調査区の東側を流れる現在の瀬戸川の左岸では、奈良時代の遺構面及び包含層は検出されていない。古代における瀬戸川の旧流路については明らかではないものの、地形的に現在と大きく異なることは考え難い。そのため、調査区の東側には、第6次調査に関連する遺構が広がるものの、その範囲は現在の瀬戸川を越えることはないと推定する。調査区の南側については、第7次調査で古代の遺構面の広がり確認されたが、そのさらに南側に隣接する区画を調査した第3次調査の K3-17tr では、弥生土器等を含む礫層が検出されたのみで、遺構面は検出されなかった。そのため、奈良時代の遺構面は第7次調査区を南限としている可能性が高い。第6次調査区の西側は、第3次調査の K3-16tr で、今回の調査区の奈良時代の遺構面と同一とみられる砂質土層を検出しているが、遺構は確認できなかった。ただし、今回の調査で、調査区の西側ほど遺構密度が低いことを確認しており、狭小なグリッド調査区では、遺構を捉えられていない可能性がある。そのため第6次調査区の西側隣接地にも遺構面が広がっていく可能性は十分に想定し得る。調査区の北側は、現在の集落の中心部となっており、住宅地として利用されている。北野台遺跡は、今回のほ場整備事業を機に新たに見つかった遺跡であり、既存の住宅建設等に伴う調査は行われていない。そのため、地下遺構の実態はほぼ不明であるが、今回報告した、地域住民による採集資料から、現在の集落域が古代における北野台遺跡の中心地であった可能性が指摘できる。寄贈された採集資料には、奈良時代から平安時代までの遺物が複数含まれ、今回報告した遺物以外にも完形に近い状態の土器が多数含まれる。これらの資料は、第6次調査で出土した遺物に比べて、極めて遺物の遺存状態が良い。この資料については、考古学的な発掘調査に伴うものではないため、発見した際に、状態の良い土器のみを取り上げて保管していた可能性が考えられる。そのため、採集された土器が、必ずしも遺跡の実態を客観的に示すものとは断言できない。ただし、その点を考慮しても、採集された土器の質と量は特筆すべきものであり、調査区北側に位置する現集落域と古代の遺構群の中心域が重複している可能性は高い。

以上をまとめると、奈良時代から平安時代にかけての古代の遺構群は、現在の集落が立地する丘陵裾部に立地している可能性が高く、その東限は現在の瀬戸川と考えられる。つまり、第6次調査区は、古代の遺構群が広がる範囲の南東端に位置しており、瀬戸川の川岸に隣接するような場所であったと

推定する。奈良時代における土地利用の方法としては、第7次調査で検出された長大な掘立柱建物が官衙的な性格を有するものと考えられるならば、第6次調査区も同じく官衙関連施設の一部と評価できるだろう。溝S D 03・10が建物の東側を区画する溝であるならば、建物の西側で、同様の溝が検出されていないことから、さらに西側へ官衙関連の施設が広がっている可能性も想定できる。また、今回出土した土器に、須恵器の供膳具が目立つ点、また採集土器も含めると須恵器甗や鉢など、須恵器に豊富な器種が確認できる点も、一般的な集落との違いを表しているものと考えられる。この他に、建物との時期関係が不明であるが、木炭焼成坑が存在することから、木炭の生産を行う生産域として利用された時期もあったのであろう。

（注）

（1）京都府教育委員会 2022『京都府埋蔵文化財調査報告書（令和3年）』

（2）綾部市教育委員会 2022『京都府綾部市文化財調査報告』第47集

（3）公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2023『京都府遺跡調査報告集』第192冊

（4）文化庁文化財部記念物課 2010『発掘調査の手引き—各種遺跡調査編—』

参考文献

綾部市史編さん委員会 1976『綾部市史』上巻 綾部市役所

綾部市教育委員会 2018『綾部市遺跡地図改訂版』

三好博喜 2005「円墳群を伝える前方後円墳—綾部市瀬戸18号墳—」『太邇波考古』第22号

両丹考古学研究会

京都府教育委員会 2013『京都府中世城館跡調査報告書』第2冊丹波編

付表2 第6次調査出土遺物観察表

掲載 番号	種類	器種	出土地点・ 層位	法量（cm）			残存率	胎土	焼成	色調		備考
				口径	器高	底径 （高台）				外面	内面等	
1	土師器	甕	柱穴S P 05	—	—	—	< 1/12	やや粗	良	75YR7/4 にぶい橙	75YR7/4 にぶい橙	
2	土師器	杯身	溝S D 03	136	23	—	—	密	やや軟	25YR6/8 橙	25YR6/8 橙	
3	須恵器	杯蓋	第4層	172	1.6	—	4/12	やや粗	良	N6/0 灰	5PB6/1 青灰	
4	須恵器	杯身	第4層	—	24	125	3/12	やや粗	良	25YR6/8 橙	25YR6/8 橙	
5	須恵器	杯身	溝S D 10	—	3.1	124	—	やや粗	良	5PB7/1 明青灰	5PB7/1 明青灰	
6	須恵器	杯身	第4層	—	3.7	134	2/12	やや密	良	5PB7/1 明青灰	5PB7/1 明青灰	
7	須恵器	小壺	第4層	—	3.4	5.9	—	やや密	良	5B6/1 青灰	5PB7/1 明青灰	
8	須恵器	甗	第4層	360	10.6	—	1/12	やや密	良	5PB7/1 明青灰	5PB7/1 明青灰	
9	土師器	甕	第4層	—	6.1	—	< 1/12	やや粗	良	75YR6/6 橙	把手	
10	土師器	甕	第4層	—	7.4	—	< 1/12	やや粗	良	75YR6/6 橙	底部	

付表3 北野台遺跡採集遺物観察表

掲載 番号	種類	器種	出土地点・ 層位	法量 (cm)			残存率	胎土	焼成	色調		備考
				口径	器高	底径 (高台)				外面	内面等	
1	土師器	台付 甕	採集	—	5.4	—	10/12	やや密	良	75YR8/3 浅黄橙	75YR8/3 浅黄橙	
2	土師器	鉢	採集	—	3.3	—	11/12	密	良	75YR6/6 橙	10YR7/2 にぶい黄橙	
3	土師器	甕	採集	15.5	5.7	—	5/12	やや密	良	10YR8/4 浅黄橙	10YR7/6 明黄橙	
4	須恵器	壺	採集	—	2.5	6.2	12/12	密	軟	75YR8/4 浅黄橙	75YR8/4 浅黄橙	
5	須恵器	皿	採集	16.6	2.9	—	5/12	やや密	良	5PB5/1 青灰	5PB5/1 青灰	
6	須恵器	杯身	採集	13.2	3.4	—	5/12	密	良	N5/0 灰	N5/0 灰	
7	須恵器	杯身	採集	13.4	3.1	—	6/12	密	良	5PB6/1 青灰	5PB6/1 青灰	
8	須恵器	杯身	採集	15.8	6.6	—	3/12	密	良	5PB7/1 明青灰	5PB7/1 明青灰	
9	須恵器	鉢	採集	—	5.4	12.1	5/12	やや粗	良	N7/0 灰白	N7/0 灰白	

〔2〕^{によ}女布遺跡第5次調査

1 はじめに

女布遺跡は、舞鶴市女布に所在する複合遺跡である。同遺跡内において府宮農業競争力強化農地整備事業が計画されたことから、関係部局との調整を経て、事業地内で切土施工が予定される区画に調査区を設定し、発掘調査を実施した。今回の調査は、遺構面の検出及び遺構の時期および性格を明らかにすることを目的とした小規模調査である。現地調査期間は令和4年8月9日から令和4年9月30日で、調査面積は113㎡である。第5次調査区は、来年度以降に本発掘調査を行う予定であり、本発掘調査の報告に合わせて今年度の発掘調査成果を報告することとし、今年度の報告では、概要のみ記す。

2 調査の概要

今年度の調査は、発掘調査の同意を得られた耕作地に、調査区を設定し、遺構面の検出を行った。重機で耕作土及び近世以降と推定される旧耕作土を除去した後、人力で遺構面の検出を行った。遺構面は1面であり、最も標高の高い箇所は約17.4mである。主な遺構は、柱穴と溝である。明確な建物跡は検出できなかったが、



第12図 女布遺跡調査位置図(国土地理院 1/25,000)

「西舞鶴」「梅迫」

柱穴の一部は、現在の水田区画に沿って列をなしており、柵などの区画施設と推定できる。また溝も柱列と並行または直交する方向に伸びており、区画施設の一部の可能性がある。遺構埋土及び遺構検出時に、古墳時代後期から古代を中心とする時期の土師器、須恵器などが出土している。

3 まとめ

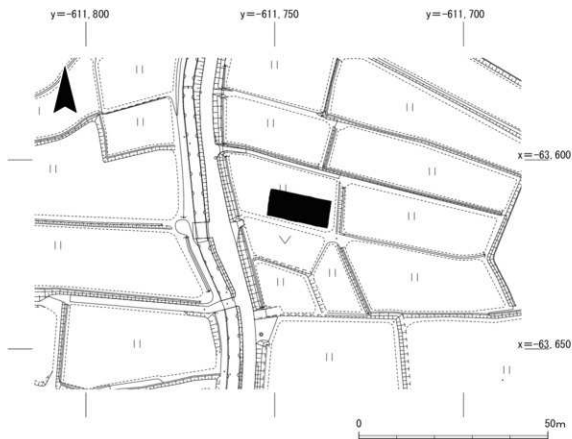
今回の調査では、古墳時代後期から古代とみられる遺構を検出した。検出した遺構の一部は、特定の方位を意識して敷設された区画施設の可能性がある。女布遺跡第3次調査では、柵によって区画された範囲内に複数の総柱建物が検出されている。第5次調査区と第3次調査区は直線距離で約400メートル離れており、区画施設の方位も異なるため、直接的な関係は想定しづらい。ただし、今回の調査区でも、第3次調査区と同様に、区画施設で囲繞された空間に関連する建物遺構が存在する可能性は高く、工事施工にあたっては事前に本発掘調査を行う必要があると判断した。

（川崎雄一郎）

参考文献

舞鶴市教育委員会 2002『舞鶴市文化財調査報告書』第37集

舞鶴市 2020『舞鶴市文化財調査報告書』第52集



第13図 女布遺跡第5次調査区配置図（1/1,000）

2 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」

関係遺跡令和2年度～令和4年度発掘調査報告

亀岡盆地の中央を流れる桂川（大堰川）の右岸で、近畿農政局による国営緊急農地再編整備事業が計画された。対象となったのは、亀岡市千代川町、大井町、本梅町、曾我部町、余部町、蔦田野町、迫分町にまたがる農地である。事業対象地では、多くの埋蔵文化財が調査対象となることが予想されたことから、近畿農政局、京都府、京都府教育委員会、亀岡市、亀岡市教育委員会の間で協議を重ね、切土施行等によりやむを得ず影響を受ける部分について、発掘調査を実施することで合意に達している。

平成26年度には、平成27年2月12日付けで近畿農政局、京都府知事、亀岡市長の3者間において「国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」における埋蔵文化財の発掘調査に関する覚書」を交換した。今年度は、この覚書に基づき、令和4年4月1日付けで近畿農政局長、京都府教育委員会教育長、亀岡市長の3者間において「令和4年度国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」における埋蔵文化財の発掘調査に関する協定書」を締結した上で、京都府教育委員会、亀岡市教育委員会、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの3機関において発掘調査を分担して実施することとなった。

令和2年度から4年度の調査組織及び調査機関は以下のとおりである。調査期間中、調査に参加していただいた方々、ご協力をいただいた関係機関の方々及び土地所有者の皆様には記して感謝したい。

《調査組織》

令和2年度

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部文化財保護課長 森下 衛

調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物担当副課長 石崎 善久

主 査 奈良 康正

主 任 岡田 健吾

技 師 北山 大熙

技 師 川崎 雄一郎

令和3・4年度

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部文化財保護課長 森 正

調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物係課長補佐兼係長 藤井 整

主 査 奈良 康正

副主査 岡田 健吾

主 任 桐井 理揮

技 師 北山 大熙

技 師 川崎 雄一郎
技 師 濱 喜和子(令和4年度～)

調査事務局 京都府教育庁指導部文化財保護課

調査協力 亀岡市教育委員会、亀岡市経済部国営事業推進課、亀岡市千代川町自治会、
千代川町圃場整備委員会、近畿農政局、京都府農林水産部農村振興課、
京都府南丹広域振興局、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

また、現地調査、ならびに整理作業に当たっては、多数の方々の協力を得た。心より感謝したい。
今年度は、令和2年度から令和3年度に実施した千代川遺跡第33・34次調査の成果を報告する。

なお、令和3年度に実施した西加舎遺跡第5次調査及び坪田14号墳第1次調査、令和4年度に実施した西加舎遺跡第8次調査、井手遺跡第8次調査の成果は、現在整理作業中であるため、本書では令和4年度調査の概略のみを報告することとし、詳細は次年度以降に報告する。

付表4 令和4年度調査遺跡一覧

1 京都府教育委員会が実施した調査（令和4年度）

遺跡名	所在地	現地調査期間
西加舎遺跡（第8次）	亀岡市本梅町西加舎地内	令和4年8月1日～令和4年10月31日
井手遺跡（第8次）	亀岡市本梅町西加舎地内	令和4年11月1日～令和4年11月30日

2 その他の機関が実施した調査（令和4年度）

遺跡名	所在地	調査機関
穴太遺跡（第2次）	亀岡市曾我部町犬飼川北6	亀岡市教育委員会
犬飼遺跡（第13次）	亀岡市曾我部町法貴二ノ坪11	亀岡市教育委員会
春日部遺跡（第7次）	亀岡市曾我部町春日部東垣内5	亀岡市教育委員会
興野遺跡（第3次）	亀岡市曾我部町寺上下垣内7	亀岡市教育委員会
西加舎遺跡（第7次）	亀岡市本梅町西加舎地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
井手遺跡（第7次）	亀岡市本梅町井手地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
興野遺跡（第2次）	亀岡市曾我部町寺	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
春日部遺跡（第6次）	亀岡市曾我部町中	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
犬飼遺跡（第12次）	亀岡市曾我部町法貴	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

[1] 令和2・3年度の調査

ちよかわ (千代川遺跡第33・34次調査)

1 はじめに

千代川遺跡では、昭和55年度から平成29年度にかけて32次にわたる発掘調査が実施されている。本書では、令和2年度に実施した第33次調査及び令和3年度に実施した第34次調査の成果を報告する。

2 位置と環境

(1) 地理的環境

千代川遺跡が立地する亀岡市は、京都府のほぼ中央に位置し、北は南丹市、東は京都市、南は大阪府高槻市・茨木市、西は大阪府豊能郡に接する。面積は約224.9km²で、東西約24.6km、南北約20.5kmの広さをもつ。北東部に若丹山地、南西部を摂丹山地の両山地に囲まれて、中央部に亀岡盆地が広がっている。これらの山地は丹波帯と呼ばれ、泥質岩、砂岩、チャートを主とした堆積岩で、一部に石灰岩を含んでいる。盆地内には多数の断層が存在し、現在の亀岡市の地勢に大きく影響している。特に亀岡断層、神吉・越畑断層、猪倉断層、殖生断層など西北から東南に弓なりに曲がって形成された断層が多く、さまざまな地点で断層崖を確認することができる。それらの断層に沿うように桂川水系の大堰川が流れ、兩岸に河岸段丘が発達している。大堰川は淀川の一支流であり、京都盆地を経て大阪湾へと注ぐ。盆地内では大堰川に直交するように北東から南西方向に流れる大小の支流が複数存在し、河岸段丘を形成している。このような地理的環境によって亀岡盆地内は山麓の傾斜面から大堰川に向かって断層崖と扇状地、平坦な河岸段丘というように階段状の地形をなす。

調査地である千代川町は亀岡市の北部、大堰川西岸に位置し、南丹市に隣接している。西側には行者山（標高431m）、南丹市八木町の境界にあたる城山（標高330m）が控える。山麓斜面には扇状地が広がり、千々川などによって段丘状をなしている。亀岡市の最低所（大堰川保津橋地先三角点）が標高約90mであり、千代川遺跡から南東部に向かって徐々に標高が低くなる。

(2) 歴史的環境

千代川遺跡は亀岡盆地の北端の千代川町に位置する、縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。^①縄文時代草創期の有舌尖頭器や縄文時代早期の押型文土器が出土しており、亀岡盆地の中では最も古くから継続している遺跡の一つである。また、第16次調査では縄文時代中期末から後期前半、第11次調査では晩期の凸帯文期の土器がまとまって出土しており、今後近隣で居住域が検出されることも期待される。特に第11次調査では凸帯文土器と少量の弥生時代前期の土器が出土しており、

亀岡盆地における弥生文化の成立を考える上で貴重な成果である。弥生時代の遺構の広がりには不明瞭な点が多く残るが、現在の府道 73 号線付近の調査では畿内第Ⅳ様式並行期の方形周溝墓、住居跡等が確認され、この付近の微高地上に集落が形成されていたものと考えられる。弥生時代後期から古墳時代にかけての遺構も、千原・拝田地区を中心に遺跡地内の広い範囲で確認され、古墳時代前期の堅穴建物等が検出されている。千代川遺跡では、縄文時代以降、地点を変えながらも継続的に土地利用が行われたことをうかがうことができる。

古代の律令制下では、亀岡盆地は丹波国のうち桑田郡南部にはほぼ相当する。千代川遺跡の範囲内に位置していたと推定される桑寺廃寺は、郡名を冠する「桑田寺」が転訛したものとする説があり、古くから注目されてきた。過去の調査では西端の基壇状の高まりと東端の櫛列の可能性がある遺構が検出されたのみで、その詳細は明らかではない。ただし、出土した多くの瓦は素弁蓮花文をもち、丹波地域でも最古級と評価でき、白鳳期に寺院等の施設が存在した可能性は高い。また、千代川町内には「国司牧」「国主ヶ森」「大門」「学堂」などの国府に関連すると考えられる小字が存在することや、正方位の地割がみられることなどから、木下良らによって古代丹波国府の有力候補とされてきた。丹波国府の所在地については大堰川東岸の池尻遺跡や南丹市の屋賀とする考えもあり、未だ意見の一致をみておらず、今後の調査研究が期待される。

中世以降の千代川遺跡では、耕作に伴う溝や柱穴等が多数検出され、遺物包含層も広い範囲で確認されているものの、集落の実態は明らかではない。丹波国府も 12 世紀代には大堰川東岸に移動したという説が定説となっており、相対的に遺物の密度は低くなったと考えられる。

近世以降には遺跡の東端には南北方向に近世山陰道が、北端には東西方向に愛宕道が通り、おおよそ現在の景観が形成されたと考えられる。遺跡の北側の山麓斜面に位置する小松寺は、寺伝では平重盛の寵臣がその弔いに養和元（1181）年に観音堂を建立したことに始まるとされており、境内には街道沿いに設置されていた高平塔婆が移設されている。

次に、千代川遺跡が位置している大堰川流域を中心に、亀岡盆地の遺跡を概観する。

縄文時代では早期の押型文土器とされる土器片が千代川遺跡や南条遺跡などで出土しているものの、中期以前の遺構が検出された遺跡数はまだ寡少である。遺跡数の増加がうかがわれるのは縄文時代後期以降であり、とくに凸帯文土器は千代川遺跡、北金岐遺跡などでまとまって出土している。北金岐遺跡では、出土土器の 6 割近くが角閃石を多量に含むいわゆる生駒山西麓産胎土とされるもので、当該期の地域間交流を考える上で重要な資料である。

弥生時代前期の集落として太田遺跡が挙げられる。太田遺跡では全長約 40 m、幅約 2～4 m の環濠が検出され、東西 130 m、南北 100 m の範囲が数条の環濠で囲まれた環濠集落であったと推定される。土坑、方形周溝墓及び環濠からは多量の土器、石器、木器などが出土した。出土土器には東海系土器や無文土器系土器が含まれ、広範囲に及ぶ交流があったことを示唆する。千代川遺跡の約 2.5km 南東に位置する余部遺跡では、堅穴建物、方形周溝墓などが検出された。また、南丹地域では数少ない弥生時代の玉作りを行った集落であり、中期中頃における大堰川西岸の中心的な遺跡である。

古墳時代になると、有力な前期古墳は盆地東南部に多くみられ、中期以降には大堰川東岸に比較的

大型の前方後円墳が築造されるようになる。亀岡盆地ではこれまで前期の前方後円墳は未発見であるが、園部盆地では園部垣内古墳や中堰古墳が継続して築造されており、この時期の南丹地域の中心は園部盆地にあったと考えられる。中期以降、亀岡盆地でも保津車塚古墳や千歳車塚古墳など大型の前方後円墳が築造される。坊主塚古墳は一辺 38 m の中規模の方墳ながら、鉄製武器類を中心に豊富な副葬品が出土した。大堰川西岸で古墳の築造が盛んになるのは古墳時代中期末以降であり、中小規模の群集墳が多数確認されている。200 基以上の古墳からなり、府内最大の群集墳とされる小金岐古墳群や大堰川西岸最大の前方後円墳である拝田 16 号墳を擁する拝田古墳群、あるいはウィリアム・ガウランドによって調査された鹿谷古墳群など、石室に石棚や石障を伴う特異な古墳が多くみられ、当地域の古墳文化の特徴の一つとなっている。集落遺跡も中期から後期において多く存在し、100 棟を超える竪穴建物が出土された鹿谷遺跡をはじめ、余部遺跡などを挙げることができる。

古代の亀岡盆地内では、先述の桑寺廃寺をはじめ複数の古代寺院の存在が知られており、大堰川西岸でも野寺廃寺や興能廃寺を挙げることができるが、古代における大堰川西岸の様相については不明瞭な点が多い。他方、大堰川東岸では国営農地再編整備事業や丹波国分寺跡・国分尼寺跡の範囲確認調査が行われ、その実態の一部が判明している。池尻廃寺では奈良時代後半の瓦積基壇や礎石建物が検出され、寺院あるいは官衙的な施設の存在が想定される。池尻廃寺の約 2.5km 南東では奈良時代中頃に国分寺・国分尼寺が造営された。丹波国分寺跡では約 220 m 四方の寺域が復元され、三彩火舎等の鎮壇具が出土したほか梵鐘鋳造遺構も検出され、国史跡に指定されている。

池尻遺跡、時塚遺跡、車塚遺跡では奈良・平安時代的大型掘立柱建物が多数検出されており、池尻廃寺、丹波国分寺・国分尼寺の建立に伴い地域の開発が進展したと評価される。生産遺跡としては、国分寺・国分尼寺の創建瓦が焼成された三日市遺跡や、盆地東南部の篠窯業生産遺跡群が挙げられる。7 世紀に操業を開始した篠窯業生産遺跡群は 9 から 10 世紀に最盛期を迎え、篠窯産の須恵器及び緑釉陶器は、平安京を中心に宮城県多賀城跡から宮崎県小山尻東遺跡までの広域で確認されている。

中世の遺構は大堰川西岸の広い範囲で検出されている。国道 9 号バイパス建設工事に伴い調査が行われた北金岐遺跡や太田遺跡では、多数の掘立柱建物、井戸等が見つかり、中世に継続的に利用されたことが判明している。これらの遺跡から出土した瓦器碗は「丹波型瓦器碗」と呼称されるものであり、当地域の中世土器の編年の基準資料となっている。

室町時代以降には市内北部・西部を中心に山城が多く築造された。千代川遺跡の北側の城山にある八木城跡は丹波守護代内藤氏の拠点として機能しており、規模は畿内でも最大級を誇る。その後、丹波平定の命を受けた明智光秀によって拡張・整備された。明智光秀の丹波平定以降、丹波の拠点は八木城から亀山城へと移ることとなる。江戸時代には岡部長盛が丹波亀山藩主として封じられ、「天下普請」によって近世城郭として亀山城を大改修し、現在の亀岡市街の礎が築かれた。

このように千代川遺跡周辺は縄文時代以降継続的に利用され、とくに古代においては寺院や官衙の存在が想定されるなど、丹波地域の中核地として機能してきたといえる。当遺跡は地域の歴史を語る上では欠くことのできない重要な遺跡である。

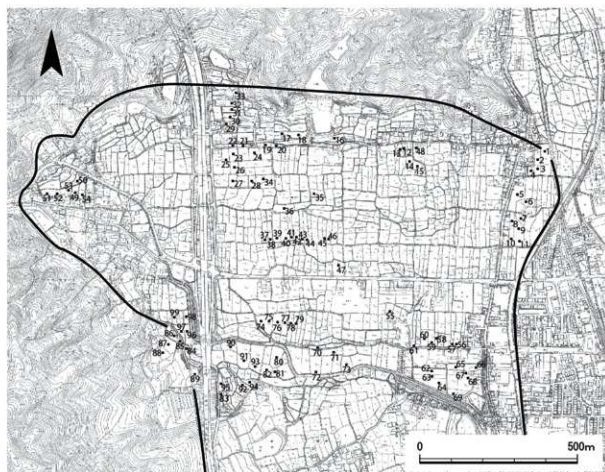
（北山大照）

3 令和2年度の調査（千代川遺跡第33次調査）

第33次調査では、遺構の有無と遺構面までの深さを確認するため、調査の同意の得られた耕作地に1辺3m四方のグリッドを設定した。千代川遺跡における同様のグリッド調査は第27・28・31次調査で実施しており、今回は過去に調査を行っていない耕作地を選んで、合計99箇所の調査区を設置した（第15図）。調査面積は約891㎡である。調査にあたっては、耕作土を重機で除去した後、床土以下を人力によって掘削し、遺構面の検出を進めた。調査地は来年度以降の作付を行うため、埋戻しを考慮して調査区全面を掘り下げず、約0.3m幅の断割を実施して、遺構面の有無や層序の把握に努めた。調査期間は令和3年12月1日から令和4年2月26日までである。

（1）第1から99トレンチの調査（第16から20、22から29図）

第1トレンチ 中世の遺物包含層である第3層の褐色の砂質土を検出した。第4層からは弥生土器及び須恵器が出土しており、古代以降の遺物包含層とみられる。第4層上面で南北方向に延びる3条の溝S D 330101、S D 330102、S D 330103を検出した。溝S D 330101の埋土は第3層と同一であり、中世の耕作に伴う素掘り溝と推定する。



第15図 千代川遺跡第33次調査トレンチ配置図（1/12,000）

第2トレンチ 第3層を除去すると、その下層で無遺物の黄褐色砂質土である第4層を検出した。第4層上面で、時期不明の柱穴S P 330201と列石を検出した。列石は、円礫の長軸を南北方向に合わせ、第4層上面に配置している。第3層からは現代の廃棄物に混ざって土師器、須恵器、瓦器などの中世の遺物が出土している。

第3トレンチ 無遺物層の第3層を除去すると、その下層で中世遺物包含層である第5層を検出した。第5層上面では、南北方向に延びる4条の溝S D 330301からS D 330304を検出した。溝S D 330301からS D 330303の3条は、規模及び埋土が共通しており、中世以降の耕作に伴う素掘り溝と考えられる。溝S D 330304は、他の溝に先行する時期の溝であり、幅は1m以上である。第6層からは、須恵器の細片が出土しており、中世以前の遺物包含層と判断した。

第4トレンチ 表土・床土の下層で、中世遺物包含層である第5層を検出した。第5層上面では、溝S D 330401を検出した。第5層上面では、土師器や須恵器など中世遺物に混じって、近世とみられる陶器や瓦片が出土したことから、近世の溝と判断した。第4トレンチと第3トレンチの第5・6層は同一層である。

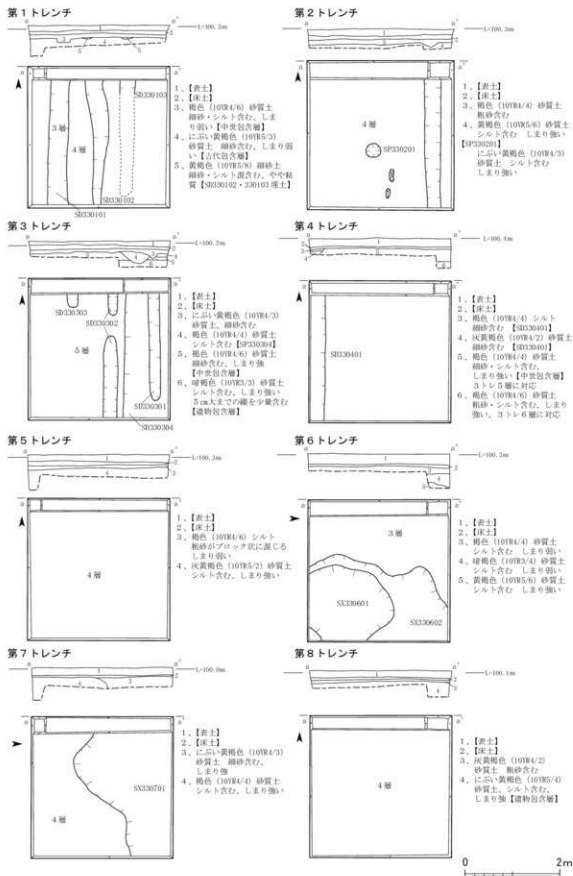
第6トレンチ 床土直下の第3層上面で不明遺構S X 330601及びS X 330602を検出した。S X 330601はS X 330602の上層から切り込んでおり、相対的に新しい時期の遺構と考えられる。いずれの遺構も検出面で須恵器が埋土中に含まれることを確認しており、中世以前の遺構と判断した。第4・5層は無遺物であり、第4トレンチの第4層に近似する。

第7トレンチ 第4層上面で不明遺構S X 330701を検出した。遺構検出中に、遺構埋土及びベースとなる第4層中に含まれていたものと考えられる須恵器、瓦器、サヌカイトの剥片などの中世以前の遺物が出土している。

第12トレンチ 近世遺物を含む第3層を除去すると、その下層で土師器、須恵器、緑釉陶器等を含む中世の遺物包含層である第4層を検出した。第4層の下層は黒色シルトの第5層であり、第5層上面で柱穴S P 331201を検出した。柱穴内から瓦器碗の破片が出土したため、柱穴は中世のものと判断した。

第17トレンチ 表土直下で黒褐色の粗砂から細砂を含む堆積土（第2層）を検出した。第2層中から弥生土器及び中世の土師器、瓦器が出土した。その下層である第3層も同じく黒褐色の砂質土であり、中世の土師器、瓦器などが出土した。第2層は、断割の断面観察の結果、現在の水田に伴う床土と判断したが、この床土は本来の遺物包含層である第3層を掘削・整地したものと推定され、含まれる遺物は第3層に由来するものと考えられる。第3層を除去するとその下層で第5層である黒色シルトを検出した。第5層上面で、1条の溝S D 331701を検出した。溝は中世以降の耕作に伴う素掘り溝とみられ、溝の延長方向は現在の水田区画に一致する。

第19トレンチ 床土の下層で、第3層及び第4層の砂質土が面的に堆積している状況を確認した。断割の断面観察の結果、第4層は北東側に沈み込む様に堆積しており、その上層に第3層が堆積している状況を確認した。遺物は表土・床土、及び第3層上面で検出され、弥生土器、中世の土師器、白磁碗などが含まれるが、同時に近世以降の遺物も含むことから、現在の水田形成の際に包含層の一部

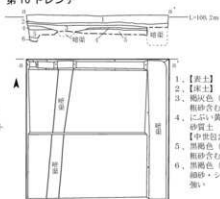


第16図 第1～8トレンチ 平面図・土層断面図 (1/80)

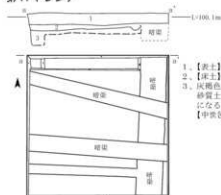
第9トレンチ



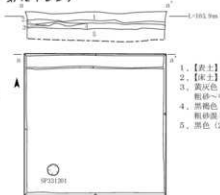
第10トレンチ



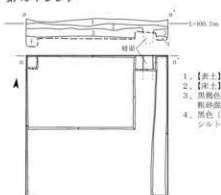
第11トレンチ



第12トレンチ



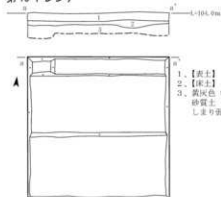
第13トレンチ



第14トレンチ



第15トレンチ



第16トレンチ



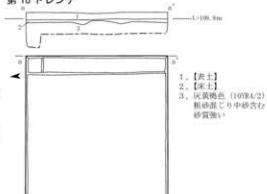
0 2m

第17図 第9～16トレンチ 平面図・土層断面図（1/80）

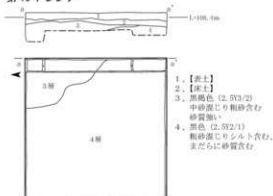
第17トレンチ



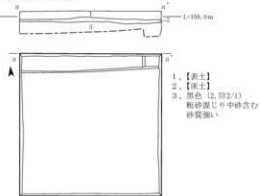
第18トレンチ



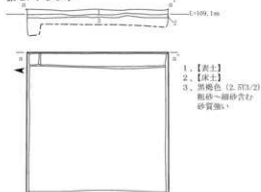
第19トレンチ



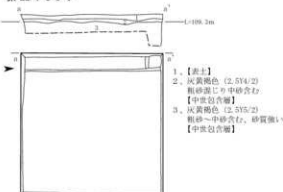
第20トレンチ



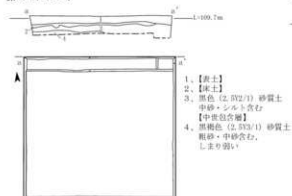
第21トレンチ



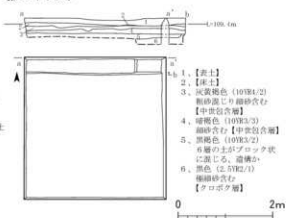
第22トレンチ



第23トレンチ



第24トレンチ



第18図 第17～24トレンチ 平面図・土層断面図 (1/80)

がかく乱を受けているものと考える。

第24 トレンチ 中世包含層である第3・4層を検出した。その下層は第6層である黒色のクロボク土である。第5層はトレンチの北側で部分的に検出された。壁断面の観察の結果、第5層は、下層の第6層を切り込むように堆積しており、遺構埋土の可能性もある。

第25 トレンチ 床土直下で大量の遺物を含む第3・4層を検出した。第3層からは、土師器、須恵器、瓦器、瓦、青磁、鉄滓など中世以前の遺物に加えわずかに近世の磁器が出土した。瓦は布目瓦痕のある古代瓦である。第4層からは弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、灰軸陶器などの中世以前の遺物が出土しており、中世の遺物包含層と判断した。第4層の下層で、第6層である黒灰色の砂質土を検出した。第6層の上面が遺構面であり、第4層が埋土となる溝 S D 332501 と、黒色砂質土を埋土とする土坑 SK332502 を検出した。溝 S D 332501 は、南北方向に延びる2条の素掘り溝と東西方向に延びる1条の素掘り溝が交差しているが、切り合い関係は明確ではなく、今回は、一体の遺構とみなした。中世の耕作に伴う溝と推定する。土坑 SK332502 は、第4層堆積以前の遺構であり、中世以前の遺構と判断した。

第28 トレンチ 第28 トレンチは、著しい後世のかく乱を受けている。ただし、南北方向に走る暗渠の北東側の一部のみ、かく乱を免れており、床土の下層に黒褐色砂質土（第5層）と、黒色砂質土（第6層）を検出した。北側に調査区を拡張して堆積状況の確認を行った結果、北に向かって第5層が広がっていることを確認できたため、第6層が北側に沈み込み、その上層に第5層が堆積しているものと判断した。第5・6層から遺物の出土は無かったが、床土・盛土内から中世以前の遺物が出土している。

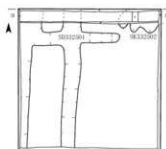
第29 トレンチ 表土及び第2層を除去すると中世と見られる土師器を含む遺物包含層である第3層を検出した。第3層上面では2基の土坑及び5基の柱穴を検出した。第2層及び第3層上面では近世の磁器などが出土しており、遺構は中世から近世のものと判断した。第3層の下層では、無遺物層である褐色粘質土（第4層）と黒褐色砂質土（第5層）の堆積を確認した。

第30 トレンチ 近世までの遺物を含む第2層を除去すると、その下層で第5層の灰黄褐色砂質土を検出した。第5層上面では、東西方向に延びる溝と推定できる溝 S D 333001 から 333003 を検出した。溝埋土及びベースとなる第5層以下から遺物の出土は無く、遺構の燐属時期は不明である。

第33 トレンチ 第33 トレンチは、坪田14号墳の前方部と推定される区画であり、調査対象地の西側に後方部が残存する。床土直下では、中世の遺物包含層である第3層を検出した。その下層でシルトまじりの砂質土（第4層）の堆積を検出した。第4層上面で、不明遺構 S X 333301 及び12基の柱穴を検出した。遺構の埋土は共通して黒褐色の砂質土であるが、柱穴 S P 333306 及び S P 333307 は S X 333301 の上から掘り込まれており、S X 333301 は柱穴群に先行するものと考えられる。S X 333301 からは土師器皿（第33図17）及び須恵器鉢、壺（第33図7・23）などが出土した。出土遺物から遺構はいずれも中世段階のものと考えられる。包含層から古墳に伴う埴輪片が出土している。

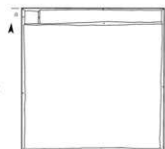
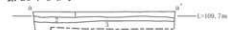
第35 トレンチ 第2層上面で、南北方向に延びる4条の溝 S D 333501 から 333504 を検出した。また、南北方向の溝に切られる東西の溝 S D 333505・333506 と柱穴 S P 333507・333508 を確認した。出土

第25 トレンチ



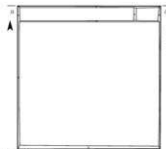
1. 【表土】
2. 【床土】
3. 母イラージュ褐色 (2.5Y3/3) 中砂混じり細砂含む
4. 黒褐色 (10YR2/2) 細砂含む 【中世包含層】
5. 黒色 (10YR2/1) 極細砂含む まだらに粗砂が混じる 【5K32502 埋土】
6. 黒灰色 (10YR/7) 砂質土・細砂含む

第26 トレンチ



1. 【表土】
2. 【床土】
3. 黒褐色 (7.5YR2/2) 砂質土 中砂・シルト含む 【中世包含層】

第27 トレンチ



1. 【表土1】
2. 【表土2】 1と同一層か
3. 黒褐色 (5YR2/1) 砂質土 粗砂含む 【中世包含層】

第28 トレンチ



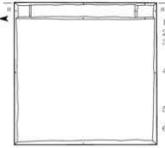
1. 【表土】
2. 【カタラン層（埋土）】
3. 【床土】
4. 【カタラン層】
5. 黒褐色 (2.5YR3/1) 砂質土 粗砂・シルト含む
6. 黒色 (7.5YR2/1) 砂質土 シルト・粘土含む 【遺構土】

第29 トレンチ



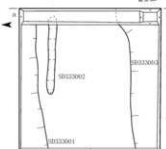
1. 【表土】
2. 黒褐色 (10YR2/3) 砂質土 粗砂混じる
3. 黒色 (10YR2/2) 砂質土 粗砂・シルト含む 【中世遺構面】
4. 黒灰色 (10YR4/1) 粘質土 細砂含む
5. 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土 細砂含む、しりり弱い 【遺構面土】
- 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土

第31 トレンチ



1. 【表土】
2. 【床土】
3. 母黄褐色 (2.5Y4/2) 砂質土 粗砂・中砂含む、しりり弱い
4. 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質土 粗砂・中砂含む、しりり弱い、32トレンチ層に对应
5. 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土 粗砂・細砂・シルト含む
6. 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土 粗砂・中砂含む、しりり弱い

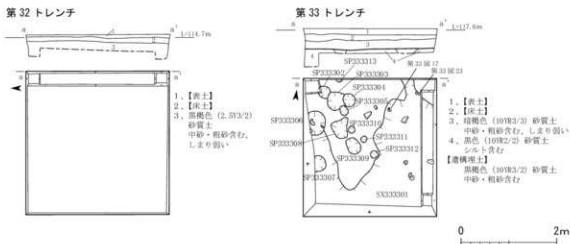
第30 トレンチ



1. 【表土】
2. 褐色 (10YR4/2) 粘質土 中砂・シルト含む
3. 母褐色砂質土 (10YR3/4) 粗砂・中砂・シルト含む 【5K333001】
4. 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土 ブロック状に粘土含む 【5K333003】
5. 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土 中砂・ブロック状の粘土含む
6. 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂質土 粗砂含む、しりり弱い
7. 母褐色 (10YR3/3) 砂質土 中砂含む



第19図 第25～31 トレンチ 平面図・土層断面図 (1/80)



第20図 第32・33 トレンチ 平面図・土層断面図（1/80）

遺物はなく、時期は不明である。

第49 トレンチ この調査区では、顕著な遺構、遺物を検出できなかったが、後述する第53 トレンチで検出した縄文時代及び中世の遺構のベースと同一の堆積土（第6層）を検出した。第6層中には、円礫が含まれており、近くから骨と見られる白色で多孔質の物質を検出した。明確な掘方は確認できなかったが、第53 トレンチ S X 335303 と同様の遺構が第49 トレンチまで広がっている可能性が考えられる。

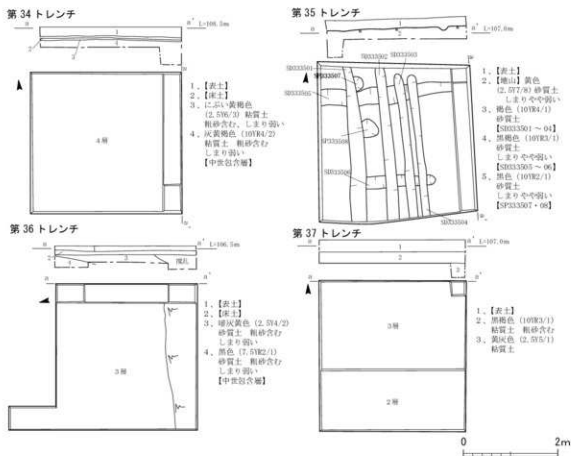
第53 トレンチ 表土直下で、暗褐色砂質土（第2層）を確認した。第2層上面では、柱穴 S P 335301・335302・335306 と土坑 S K 335305・335307 を検出した。また同一の面で、列石を伴う不明遺構 S X 335303・335304 を検出した。列石は、大きさが10から30cm程度で、S X 335303では遺構の縁に沿う様に3石が配置される。S X 335304では、遺構の縁に沿って円形に礫が並ぶ。S X 335303を半截したところ、埋土の上層から縄文土器片と哺乳類目とみられるの骨片が出土した⁽²⁾（図21）。検出面で確認された石については、短面を下にして立石していることから、人為的な列石と判断した。また、S X 335304の検出時に縄文土器が出土している（第33図1）。柱穴 S P 335301・335302は埋土が他の柱穴と埋土の色調やしまりが大きく異なる点から中世以降の遺構と考えられる。

縄文時代と中世の遺構が同一の面から検出されており、縄文時代の遺構形成後に第2層の上層が大きく削平された可能性が高い。

第55 トレンチ 表土直下で、中世遺物を含む黄灰色砂質土（第2層）を検出した。調査区東側を部分的に掘り下げたところ、明緑灰色シルトの地山（第3層）を確認した。地山検出面では幅約0.7m以上の不明遺構 S X 335501 を検出した。遺構に伴う遺物はなく、遺構の帰属時期は不明である。



第21図 S X 335303 出土骨
（方眼は1mm）



第22図 第34～37 トレンチ 平面図・土層断面図 (1/80)

第59 トレンチ 中世遺物を含む褐灰色砂質土（第3層）を確認した。調査区北側を部分的に第4層まで掘り下げたところ、柱穴 S P 335901 を検出した。中世包含層の下層に位置しているため遺構は中世以前のものである。

第61 トレンチ 黒褐色砂質土（第3層）を確認した。第3層中より弥生時代から中世までの幅広い時期の遺物が出土した。また、第3層中からは石帯の石製丸軋（第33図27）が出土している。断割断面の観察から第3層が遺構の埋土の可能性があるため、一部、断割を拡張したが、遺構の掘方は確認できなかった。

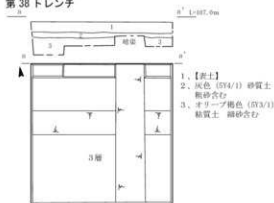
第63 トレンチ 第3層上面で、2基の柱穴を検出した。第3層からは古代から中世の遺物が出土しており、中世以降の遺構である。

第65 トレンチ 弥生土器や須恵器を含む明黄褐色土（第3層）を検出し、さらに下層の第4層上面で柱穴を検出した。遺構の時期については古代以前と考えられる。第4層を一部掘り下げたところ、弥生土器が出土している。

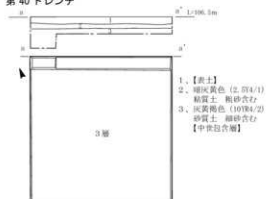
第66 トレンチ 第65 トレンチと同様に古代以前の遺物を含む第3層を検出し、その下層の第4層上面で不明遺構 S X 336601 を検出した。また、第4層中からは弥生土器が出土している。遺構の一部を断割ったところ、深さ0.15 mと浅いことが判明した。遺構から遺物の出土は無かった。

第68 トレンチ 第3層中から、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器等が出土したことから、中世の遺

第38 トレンチ



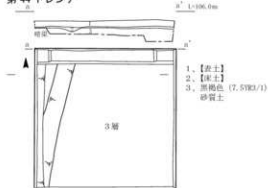
第40 トレンチ



第42 トレンチ



第44 トレンチ



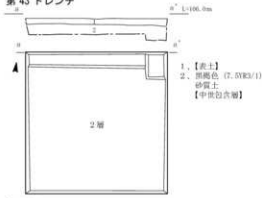
第39 トレンチ



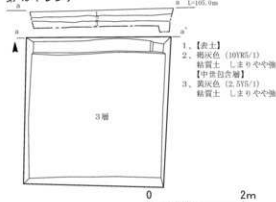
第41 トレンチ



第43 トレンチ



第45 トレンチ

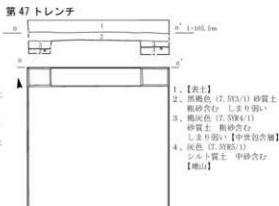


第23図 第38～45 トレンチ 平面図・土層断面図（1/80）

第 46 トレンチ



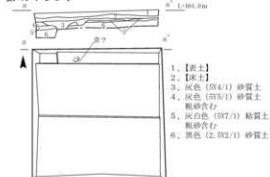
第 47 トレンチ



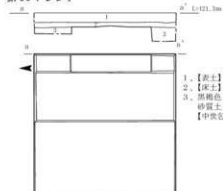
第 48 トレンチ



第 49 トレンチ



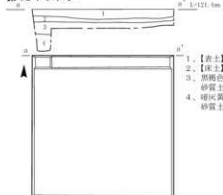
第 50 トレンチ



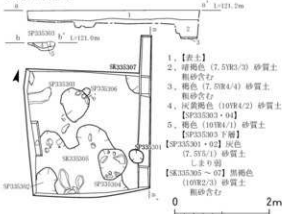
第 51 トレンチ



第 52 トレンチ

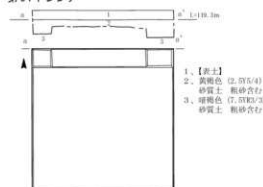


第 53 トレンチ



第 24 図 第 46～53 トレンチ 平面図・土層断面図 (1/80)

第54 トレンチ



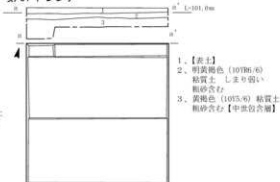
第55 トレンチ



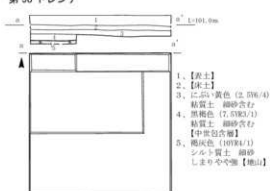
第56 トレンチ



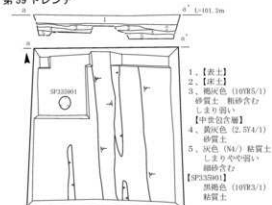
第57 トレンチ



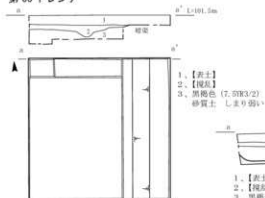
第58 トレンチ



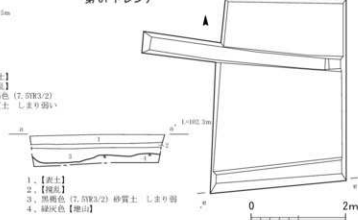
第59 トレンチ



第60 トレンチ

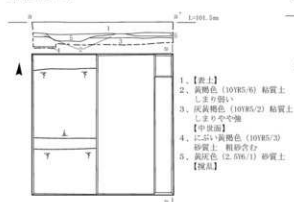


第61 トレンチ

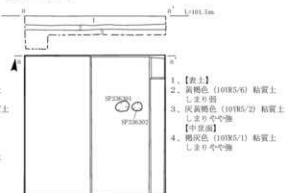


第25図 第54～61 トレンチ 平面図・土層断面図 (1/80)

第 62 トレンチ



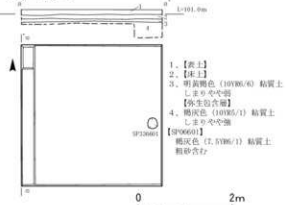
第 63 トレンチ



第 64 トレンチ



第 65 トレンチ



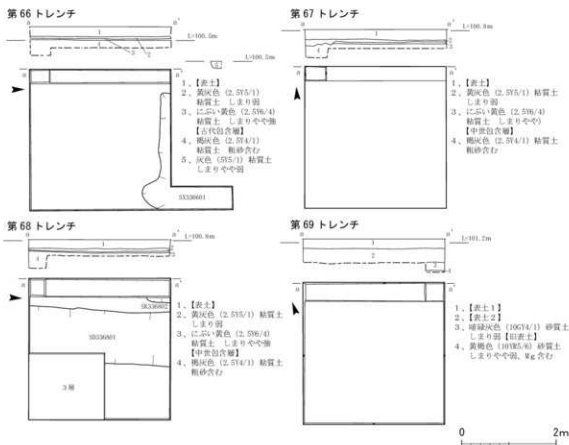
第 26 図 第 62～65 トレンチ 平面図・土層断面図 (1/80)

物包含層であると判断した。第3層を除去すると、その下層の第4層上面で、南北方向に延びる溝 S D 336801、及び土坑 S D 336802 を検出した。溝 S D 336801 は、幅 1 m と大型の溝であり、直線的に延びている。遺物包含層との関係から中世以前の遺構と判断した。

第 70 トレンチ 床土直下で、溝 S D 337001 を検出した。溝は無遺物層である第3層に切り込んでおり、帰属時期は不明である。床土からは、弥生土器や土師器片、近世の磁器が出土している。

第 74 トレンチ 床土直下で、溝 S D 337401 を検出した。溝幅は幅 0.4 から 0.5m 程度である。床土からは、近世以降の遺物に混ざって弥生土器、須恵器、縄目叩きのある瓦、鉄滓が出土しているが、遺構が掘り込まれる第4層以下から遺物の出土はなく、溝の帰属時期は判然としない。

第 75 トレンチ 表土・床土を除去すると、第7層上面で柱穴及び溝を検出した。柱穴 S P 337501 は平面形楕円形の柱穴であり、長径が約 0.3m である。柱穴の中央には礎が据えられている。柱穴 S P 337501 は溝 S D 337502 の上面から掘り込まれている。溝 S D 337502 は、北西方向に広がる溝である。埋土は砂質土であり、埋土中から土師器皿 (第 33 図 9 から 15)、土師器碗 (第 33 図 19)、瓦器碗 (第 33 図 20 から 22) が出土している。出土した瓦器碗から 13 世紀後半の遺構とみられる。溝 S D 337503・337504 は、南北方向に延びる溝であり、この 2 本はほぼ並行しているものと推定する。溝 S D 337505 は、溝 S D 337502 を切り込んで掘り込まれる。検出面で瓦質土器羽釜が出土している (第 33 図 24)。埋土は、下層の S D 337502 と近似している。



第27図 第66～69 トレンチ 平面図・土層断面図（1/80）

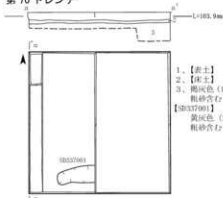
第77 トレンチ 床土直下で、溝 S D 337701 を検出した。溝は中世包含層である第4層を掘り込んでおり、中世以降に属するものと考えられる。北壁断面で溝の断面を確認できるため、溝はさらに北側に続くものとみられる。第4層を掘削すると、その下層で黒褐色の砂質土からなる第5層を検出した。第5層上面では、溝 S D 337702 を検出した。溝 S D 337702 の埋土は第4層と同一であることから、中世段階に埋没したものと判断した。第4層からは土師器、須恵器、瓦器などが出土している。

第78 トレンチ 床土直下で、中世の遺物包含層である第3層を検出した。第3層からは、弥生土器、土師器、瓦器に混ざって、古代瓦が出土している。第3層を除去すると第4層上面で溝 S D 337801 を検出した。溝は西側の肩のみが検出され、幅は不明である。溝の西側では、ベースとなる第4層上面で土師器皿（第33図16）を検出した。第4層の断割から、瓦器碗の破片が出土しており、第4層も中世の遺物包含層と判断した。

第79 トレンチ 表土直下で、中世の遺物包含層である第3層を検出した。第3層からは土師器、須恵器などが出土している。第3層上面では、長方形の土坑 S K 337901 を検出した。土坑埋土から遺物の出土はなかった。第3層の下層では、第4層の黒褐色シルトの堆積を確認した。第4層上面を精査している際に、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、古代瓦が出土しており、第4層は中世の遺物包含層であると判断した。

第83 トレンチ 表土を除去するとその下層で、古代から近世の遺物が大量に含まれる第3層を検出した。調査区の南側には、東西方向に延びる近世の溝が掘り込まれている。第3層を除去し、その下

第70トレンチ



第71トレンチ



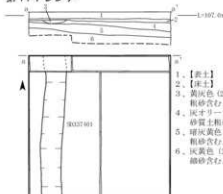
第72トレンチ



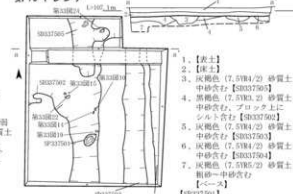
第73トレンチ



第74トレンチ



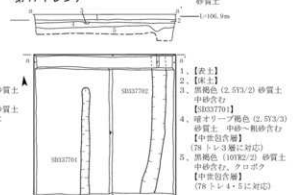
第75トレンチ



第76トレンチ

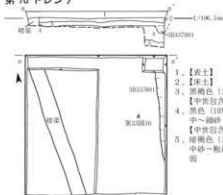


第77トレンチ

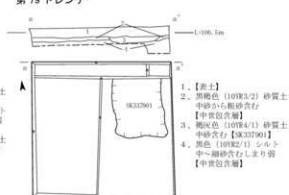


第28図 第70～77トレンチ 平面図・土層断面図 (1/80)

第 78 トレンチ



第 79 トレンチ



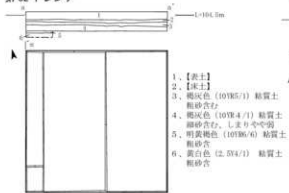
第 80 トレンチ



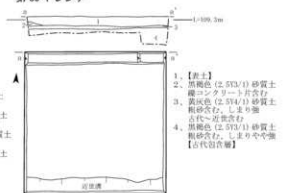
第 81 トレンチ



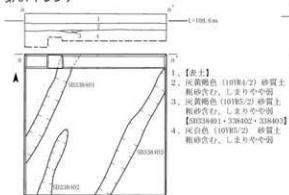
第 82 トレンチ



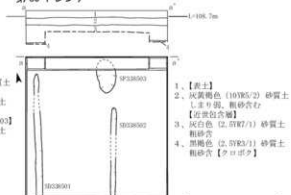
第 83 トレンチ



第 84 トレンチ



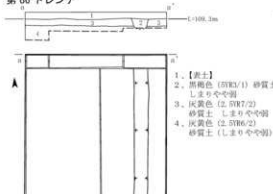
第 85 トレンチ



0 2m

第 29 図 第 78 ～ 85 トレンチ 平面図・土層断面図（1/80）

第 86 トレンチ



第 87 トレンチ



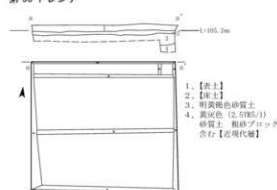
第 88 トレンチ



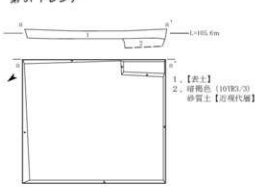
第 89 トレンチ



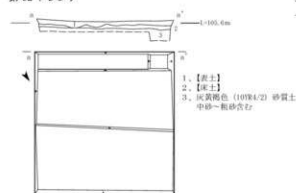
第 90 トレンチ



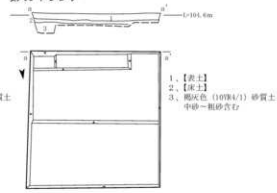
第 91 トレンチ



第 92 トレンチ

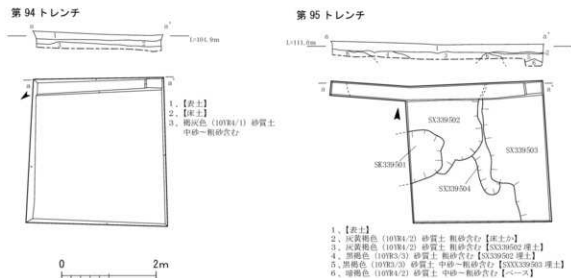


第 93 トレンチ



0 2m

第 30 図 第 86～93 トレンチ 平面図・土層断面図 (1/80)



第31図 第94・95トレンチ 平面図・土層断面図（1/80）

層にあたる第4層を断ち割ると、第4層中から、弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

第84トレンチ 第2層を除去すると、耕作溝とみられる浅い素掘り溝3条を検出した。この調査区では、排土中に須恵器細片が1点出土しているのみであり、溝の帰属時期は判然としない。

第85トレンチ 近世遺物を含む堆積土である第2層を除去すると、その下層にあたる第3層上面で溝及び柱穴を検出した。第3層以下から遺物の出土はなく、遺構の帰属時期は判然としない。

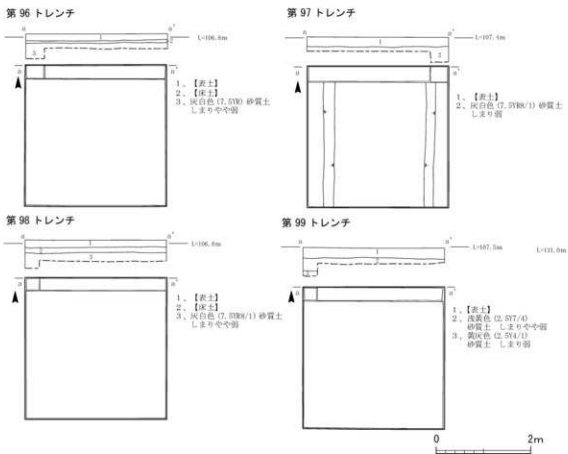
第89トレンチ 中世までの遺物を含む第3層を検出した。第3層を掘削し第7層上面で遺構を精査したところ、調査区の東半で溝と思われる大型の遺構を検出した。溝S D 338901は、先行する時期の溝S D 338902の上面から掘り込まれており、埋土の上層は第3層と同一である。溝の東側の肩が確認出来ないことから、第3層全体が遺構埋土の可能性も残る。埋土から瓦器碗の破片が出土していることから中世の遺構と判断した。溝S D 338902は西側の肩のみ検出している。埋土は上層と下層の2層で、遺構埋土からは古墳時代の土師器甕の体部や須恵器等が出土している。上層から切り込んでいる溝S D 338901の下層からは、溝S D 338902由来の遺物と考えられる布留形甕の口縁（第33図5）や須恵器杯身（第33図6）が出土していることから、古墳時代中期に遡る遺構と判断した。

第95トレンチ 第2層を除去すると、その下層で土坑等の遺構を検出した。このうち不明遺構S X 339502からは弥生土器（第33図3・4）が出土しており、弥生時代の遺構と判断した。S X 339502に切られるS X 338903は弥生時代以前の遺構と考えられる。土坑S K 339501及び不明遺構S X 339503から遺物の出土はなく、遺構の帰属時期は不明である。

（北山大熊・川崎雄一郎）

（2）出土遺物

第33次調査は、広大な千代川遺跡のほぼ全域を調査したため、各トレンチから、土器、石器・石製品、瓦、銭貨、埴輪など多種多様な遺物が出土した。ただし、遺構面の検出を目的とした調査の性格から、掘削範囲は狭く、遺構及び包含層の掘削は最低限度に留めたため、遺物量に反して、遺存状態が良く図化に耐える出土遺物の点数は限られる。本報告では、遺構に伴い出土した遺物を中心に図化を行



第32図 第96～99 トレンチ 平面図・土層断面図 (1/80)

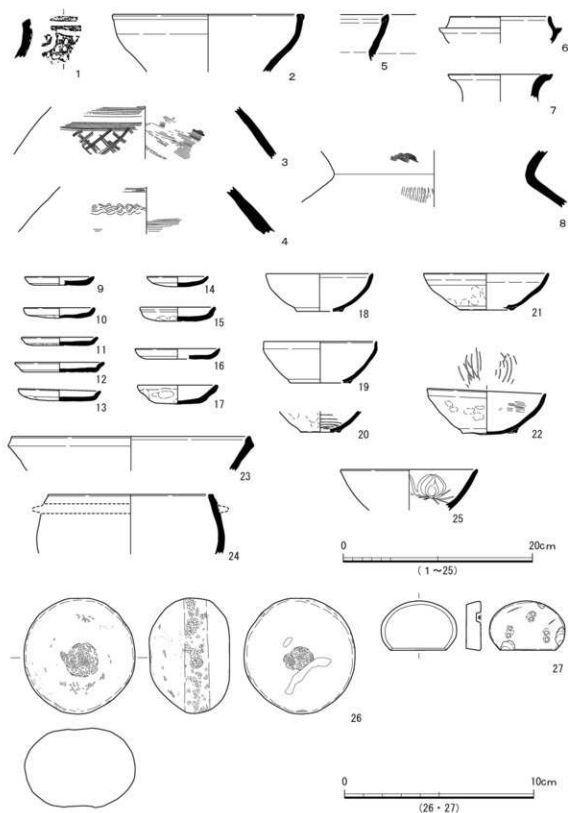
い、詳細を報告する。なお、今回出土した遺物のなかでも、特に出土が目立った土師器皿の編年については平尾政幸の編年案を参考にし、瓦器碗の編年は桐井理揮の編年を参考にした。⁽³⁾

1は縄文土器である。第53 トレンチ S X 335304 の検出中に、出土したものである。深鉢の口縁部の破片であり、棒状工具を用いた沈線と刺突文が確認できる。沈線は口縁端部に平行する直線状のものと大きく湾曲するものの2種が確認され、直線状の沈線の下部及び湾曲した沈線の内部に刺突文を施す。湾曲した沈線は楕円形の区画文の一部と推定する。型式は北白川C式土器と考えられる。第53 トレンチでは、このほかに遺構検出時及びS X 335303 半裁時に数点の縄文土器が出土しているが、型式を特定できるのはこの1点のみであった。

2から4は弥生土器である。2は第65 トレンチの第4層から出土している。広口壺の口縁部とみられ、口縁端部が肥厚する。3・4は壺の体部であり、第95 トレンチのS X 339502 から出土している。3は内面にハケメ及びナデ調整を施し、外面はナデ調整の後、櫛描文を施す。施文は櫛描波状文の上下に櫛描直線文を施す。4は、内面にハケメを施し、外面に櫛描直線文と棒状工具を用いた斜格子文を施文する。いずれも断片的な資料ではあるが、IV様式に属するものと考えられる。

5は、古墳時代の土師器である。口縁端部を折り返す布留形甕と考えられる。第89 トレンチ第4層の一部を断割った際に出土している。

6から8は須恵器である。6は古墳時代の須恵器杯身の口縁部である。口縁の立ち上がりは強くな



第33図 第33次調査出土遺物（1/4・1/2）

いものの、口径は10.8cmと小さく、古墳時代後期とみられる。第89トレンチの断割から出土しており溝SD 338902に伴う遺物と見られる。7は須恵器壺の口縁である。第33トレンチのSX 333301から出土している。7はおおよそ9世紀代と考えられ、遺構の埋没時期より古い時期を示す。8は須

恵器甕の頸部である。頸部内面にナデ調整を施し、外面に櫛描波状文を施す。体部外面にはタタキを施す。8は近世以降の堆積土である第4トレンチ第4層から出土している。

9から17は土師器の皿である。9から16は溝S D 337502の検出面から出土している。いずれも在地産と考えられ、特に9から13・16は器高が低く、平坦な底部から口縁が急角度で立ち上がるという共通した特徴を有する。時期は13世紀代と考えられる。17は白色系の胎土の有するやや厚手の皿である。第33トレンチのS X 333301から出土しており、13世紀後葉から14世紀初頭と考えられる。

18・19は土師器の椀である。三角形の貼り付け高台を有し、器形は瓦器椀に類似する。18は第26トレンチ第3層から古代から中世の遺物に混じって出土した。19は第75トレンチ溝S D 337502から出土している。共伴する土師器皿と同様に13世紀代のものと推定する。

20から22は瓦器椀である。いずれも第75トレンチ溝S D 337502から出土している。20は底部のみ残存している。内面にミガキを施し、外面には指頭圧痕が残る。21・22はいずれも丹波型瓦器椀である。21は、口縁部にナデ調整を施し、外面には指頭圧痕が残る。22は内面にミガキ及び暗文を施し、外面に指頭圧痕が残る。口径は21が13.0cm、22が12.5cmである。時期は13世紀後半である。

23は、須恵器の鉢である。体部は直線状に開き、口縁端部を上方に拡張する。13世紀代と推定する。

24は瓦質土器の羽釜である。鏝の部分欠損する。第75トレンチ溝S D 337503から出土している。

25は青磁の椀である。内面に花文を有する。第53トレンチ第2層から出土している。

26は、凹石である。表面中央、側面、裏面中央に使用痕である敲打による潰れがみられる。特に表面中央と裏面中央は、敲打痕が集中し0.1cm程度凹む。敲打痕のない箇所は平滑であり、磨り面と判断した。第26トレンチの第2層から出土している。石材は安山岩とみられる火山岩が使用される。凹石は縄文時代から弥生時代にかけて存在するため、正確な帰属時期は不明である。27は石製丸甕である。表面と側面は、光沢が出るまで平滑に研磨される。裏面には、石帯にくくりつけるためのくぐり穴が3箇所を開けられる。石材は粘板岩と見られる黒色の緻密な石材である。第61トレンチの第3層精査中に出土した。

（3）小結

過去の調査では、遺跡内の広範囲で遺物包含層および遺構が検出される一方、旧地形の復元から、千々川以北については、遺構・遺物の希薄な谷地形が入り組み、現在より起伏に富んだ地形が広がっていたことが明らかになっている。今回の調査でも、千々川以北を中心に広範囲にわたるグリッド調査を行った結果、遺構および良好な包含層はいくつかの地点でまとまって検出される状況が明らかになった。調査地点ごとの様相については、第34次調査の成果と合わせて、章末でまとめることとして、ここでは、第33次調査における注目すべき遺構・遺物について記載する。

まず最も古い時期の遺構として、縄文時代中期の遺構が検出された。特に、第53トレンチのS X 335303からは、縄文土器と骨が検出された。骨は細片化しており、人骨と断定出来なかったことから、現時点で墓と断定することは難しい。遺構に伴う列石については、人為的なものであることは確実であるが、表土直下で検出された遺構であり、遺構上面が削平されている可能性を考慮すると、土坑状

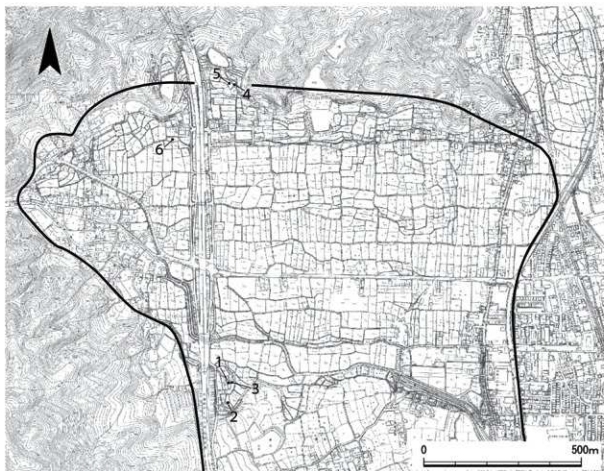
の遺構内に埋没していた地下施設であるのか、地表に露出していた配石遺構であるのかの区別も難しい⁽⁴⁾。そのため、遺構の性格についての判断は保留せざるを得ないが、千代川遺跡内において数少ない縄文時代の遺構の所在が明らかになったことは重要な成果である。

また、これまで調査歴のなかった北ノ庄砂子田・井根口周辺の調査では、行者山から延びる尾根を中心として弥生時代から古墳時代の遺構が検出された（第89・95トレンチ）。また尾根の南側に所在する谷地形内を調査した第83トレンチでは、緑軸陶器を含む古代の土器が出土しており、遺構の存在も示唆される。一方、千々川南岸の低地部には遺構は無く、遺物の出土も希薄であることが判明した。

注目すべき遺物は、第61トレンチ出土の石製丸軋である。第12から15次調査で、平安時代の掘立柱建物が検出された拝田登井谷周辺でも石製丸軋・巡方が出土しているが⁽⁵⁾、今回は、そこから950m離れた北ノ庄相寄で出土した。過去の調査では、谷地形の存在が推定されている地域であり⁽⁶⁾、国府推定地からも外れた地域である。周辺は弥生時代の遺構・遺物が目立つ地点であり、古代の建物跡は見つかっていないが、今回の成果から、官衙関連の施設が存在する可能性が考えられる。

4 令和3年度の調査（千代川遺跡第34次調査）

第34次調査では、第33次調査に引き続き、遺構の有無と遺構面までの深さを確認するため、調



第34図 千代川遺跡第34次調査トレンチ配置図（1/12,000）

査の同意の得られた耕作地に1辺3m四方のグリッドを設定した。第34次調査は過去に調査を行っていない耕作地を選んで、合計6箇所の調査区を設置した（第33図）。調査面積は約54㎡である。調査にあたっては、耕作土を重機で除去した後、床土以下を人力によって掘削し、遺構面の検出を進めた。調査地は来年度以降の作付を行うため、埋戻しを考慮して調査区全面を掘り下げず、調査区の一部に断割を実施して、遺構面の有無や層序の把握に努めた。調査期間は令和3年12月1日から令和3年12月17日までである。

（1）第1から6トレンチの調査（第35図）

第1トレンチ 表土及び第2層から、近現代の遺物に混ざって弥生時代から中世にかけての遺物が少量出土している。その下層では、地山とみられる無遺物の砂質土を検出した。

第2トレンチ 表土及び、近世の遺物を含む第2層を除去するとその下層で、黒褐色の砂質土からなる第3層を検出した。第3層中からは、中世とみられる土師器皿の細片が出土しており、中世の遺物包含層と判断した。

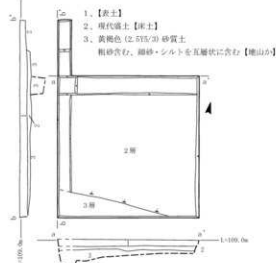
第3トレンチ 顕著な遺構・遺物は検出されなかった。第3層は、粘質土をブロック状に含む砂質土の層であり、地山と判断した。第1トレンチ第3層と同一層と考えられる。

第4トレンチ 表土直下で、近世遺物を含む砂質土層を検出した。第2層直上で耕作に伴うかく乱を複数確認したのみで、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

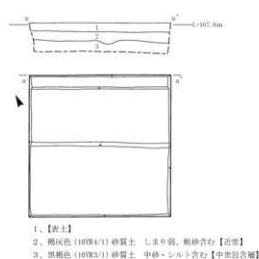
第5トレンチ 表土直下で、中世の土師器の細片を含む遺物包含層である第2層を検出した。調査区の西側は、大きく擾乱を受けており、近現代の耕作地整備または、溜池造成に伴う排土が堆積していた。ただし、擾乱内には、土師器や須恵器、瓦器碗等の中世以前の遺物が含まれており、周辺に存在した中世以前の遺物包含層由来の遺物が混ざり込んでいるものと推定する。

第6トレンチ 表土直下の第2層から、近世の遺物に混ざって古代から中世の土器がまぎれあって出土した。遺物の一部はその下層で検出した土器溜まりに由来するものと考えられる。また第2層中から緑釉陶器の破片も出土している。第3層を除去すると、その下層で、黒色及び黒褐色の砂質土と褐色の粘質土の堆積を確認した。トレンチの北側に断割を入れ、堆積状況の確認を行ったところ、褐色の粘質土が地山を形成し、黒色または黒褐色の砂質土は遺構埋土であることが判明した。遺構は、不明遺構S X 340601・340602と土器溜まりS X 340603である。遺構の切り合い関係からS X 340603が最も古く、次にS X 340602、S X 340601の順に形成されたことがわかる。S X 340601から遺物の出土はなく、S X 340602では、割れた0.2m程度の石材と内面にススが付着した土師器皿を確認した⁽⁷⁾。S X 340603の土器溜まりには、土師器皿と瓦器碗が複数含まれおり、土器の周辺には、円礫が数点出土している。石に加工等の痕跡は確認できず自然礫と判断したが、土器の周辺にのみ石が集中することから、人為的に持ち込まれたものと推定する。土師器皿の年代から12世紀後葉から13世紀前葉にかけての鎌倉時代の遺構と判断した。なお、S X 340601の遺物については、調査の目的を考慮し、遺構検出面に露出したもののみを取り上げ、遺構の掘削は行わずに埋め戻した。

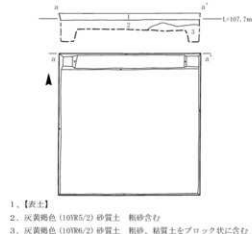
第1トレンチ



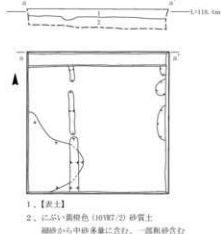
第2トレンチ



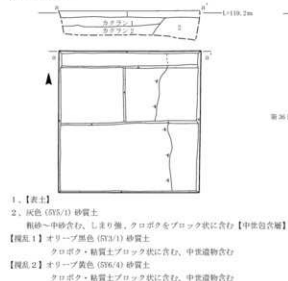
第3トレンチ



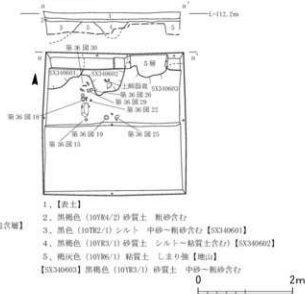
第4トレンチ



第5トレンチ



第6トレンチ



第35図 第1～6トレンチ 平面図・土層断面図 (1/80)

（２）出土遺物

1 は、須恵器杯Bの底部である。底部径が9.9cmと小ぶりである。平安時代のものである。

2・3は第5トレンチの攪乱から出土した土師器皿である。2は、口径10.8cmであり、口縁端部が上方に突出する。3は口径が、12.9cmで口縁端部は丸みを持つ。いずれも中世の土師器皿とみられ、2は12世紀後葉、3はおおよそ13世紀後葉から14世紀初頭と考える。

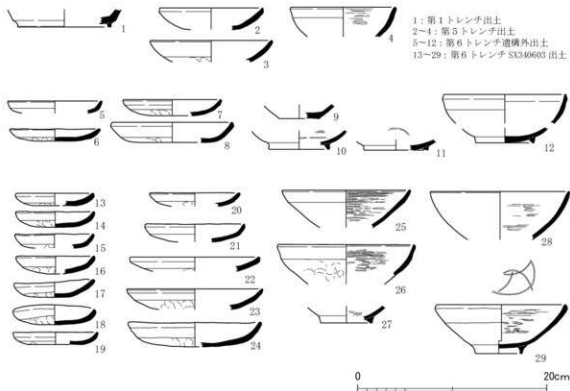
4は瓦器碗の口縁部である。口径は11.0cmと小さく、小径化の進んだ13世紀後半から14世紀前半とみられる。

5から29はいずれも第6トレンチからの出土遺物である。このうち5から12は第2層及び遺構面精査時に出土したものであり、13から29は土器溜まりSX340603から出土した土器である。

5から9は、土師器であり、5から8が皿、9が碗である。5は口径9.8cm、6は口径9.4cmと口径が近似し、器高は低い。7と8は、5・6に比べて口径が大きく、7の口径が10.3cm、8の口径が12.3cmである。7・8はいずれも共通して口縁端部が上方に突出する。いずれも12世紀後葉に属するものとする。9は、底部のみが残存しており、底部には、糸切り痕が残る。

10から12は瓦器碗である。10・11は底部のみが残存する。12は底部と口縁部が接合しないものの胎土や調整から同一個体と判断した。口径は12.9cmである。口縁端部より0.5cm程度下の部分がやや肥厚しており、丹波型瓦器碗とみてよい。12は、12世紀後葉から13世紀前半頃のものとする。

13から24は、SX340603から出土した土師器皿である。出土した土師器皿は、おおまかに大小の3群に分類できる。13から19は、いずれも口径が8cm台に収まる小型の一群である。20・21は、



第36図 第34次調査出土遺物（1/4）

口径が9から10cm 台に収まる中型の一群とし、22 から 24 は口径 13cm 台後半から 14cm 台となる大型の一群とする。外面の調整は、17・18 を除き、底部付近に指おさえの痕跡が残り、口縁部に強いナデ調整を施す傾向がみられる。一方、17 と 18 に関しては口縁部のナデ調整が甘く、口縁部形態が不整形である。口縁端部は、丸く収めるものと、上方に突出するものの2種が確認され、上方に突出するタイプは 13・21 から 23 である。時期は、12 世紀後葉から 13 世紀前葉と考えられる。

25 から 29 は瓦器碗である。25・26・28・29 は丹波型瓦器碗である。口径は、13.4 から 14.6cm に範囲に収まる。口縁部の調整は 26 が口縁部に対して強いナデ調整を施すのに対して、28 は口縁部のナデ調整はあまり目立たない。26 と 29 に関してはその中間といった様相である。内面の調整はいずれも横方向のみがきであり、29 のみ内面見込みに暗文を有する。いずれも 12 世紀後葉と判断した。

（3）小結

今回の調査で注目すべき遺構は、第6トレンチの土器溜まりである。土器溜まりの遺物は、土師器皿と瓦器碗であり、土師器皿は 12 世紀後葉から 13 世紀前葉、瓦器碗は 12 世紀後葉に位置付けられる。土師器皿は、やや年代に幅があるものの、およそ鎌倉時代初頭の遺構と推定することができる。限られた調査範囲では、遺構の全容を明らかにすることは叶わなかったが、中世の遺構が周辺に広がっている可能性は高い。ただし、京都縦貫自動車道を挟んだ東側に位置する第4・5トレンチでは、攪乱土や表土・床土の中に古代から中世の遺物が含まれていることから、中世以降の地形の改変の影響も少なくないものと判断できる。

5 千代川遺跡第 33・34 次調査のまとめ

当教育委員会が国営ほ場整備事業にあたって実施してきたグリッド調査は、過去の第 28・31 次調査を含めると、千代川遺跡北半の耕作地の大部分に及んでいる。これまでの調査歴については、第 31 次調査報告で詳細な検討が行われており^⑧、今回はその成果を参照した上で、新たな調査成果の位置付けを行う。まとめにあたっては、地形及び調査成果から、近接する任意の調査区を I からⅧ地区に分け、地区ごとに一括して記述する（第 34 図）。

まず、I 地区は千原安田・宮ノ本周辺にあたる。この範囲では、藤越神社の周辺で遺構が検出された。遺構のベースとなるのは、しまりの良い黄褐色の砂質土であり、神社の周辺及び神社北側の広範囲で検出した。しかし、中世以前の遺構は神社周辺でのみ検出され（第 33 次第 6・7 トレンチ）、北側では近世以降の耕作に伴うと推定される溝の検出が目立った。その一方、神社の南側については、神社に近い第 33 次第 7 トレンチを除いて、遺構面は検出できなかった。第 33 次第 9 トレンチ以南では、排水用暗渠の設置が目立つことから、神社を境に南に向かって地形が傾斜しているものと推定する。このことから、I 地区の神社周辺は、地形改変の影響が少なく遺構も残存している。一方標高の高い神社の北側は、近世以降の耕作に伴う削平を受けているか、もともと遺構が少なく想定できる。神社の南側は、地形が南に傾斜することから、遺構面が更に深い位置にある可能性を想定する。

性が高いものの、傾斜の強い斜面地であることから、後世の地形改変の影響も少なくないと推定する。

Ⅳ地区は、北ノ庄堂ノ後・桑寺周辺にあたる。ここでは、第33次第35トレンチを除き、遺構はほとんど検出されなかった。しかし第33次第37から第41トレンチの範囲で古代瓦の出土が目立った。この場所は、桑寺廃寺推定地の北側にあたり、瓦葺の寺院関連施設が存在した可能性がある。また遺物の出土が希薄な谷地形の東側に位置する第33次第47トレンチからも古代瓦が出土している点は、桑寺廃寺の寺域を検討する上で注目すべき成果と考える。

V地区は北ノ庄宮ノ前周辺にあたる。この範囲では、縄文時代及び中世の遺構が検出された。特に第33次第53トレンチSX335303が縄文時代の墓であれば、亀岡盆地では、大淵遺跡で検出された縄文時代晩期の土器棺墓に続く2例目の発見である。また、縄文時代・中世の遺構面については、第33次第49トレンチから第53トレンチの間に一定の広がりが見込めることから、この場所が、これまでほとんど実態のわからなかった千代川遺跡における縄文時代の集落域にあたる可能性が高い。

Ⅵ地区は、亀岡市立千代川小学校を中心とする範囲に当たり、千々川の北岸に位置する。小学校の北側と南側では出土する遺構・遺物に若干の違いがあり、北側に位置する第33次第59トレンチでは中世以前の柱穴が検出され、第33次第61トレンチで古代の石製丸靱が出土した。一方、小学校の南側では、弥生土器の出土が顕著である。遺構は中世・古代以前と考えられる柱穴・土坑・溝が主であったが、第33次第65・66トレンチでは、弥生時代の遺物包含層を検出している。千々川に近く比較的低標高の低い範囲に弥生時代の遺構が存在する可能性がある。

Ⅶ地区は、北ノ庄下河原・荒牧周辺にあたる。千々川の北岸に位置し、標高の高い北側から南の千々川に向かって地形が傾斜している。現在は、荒牧と下河原を隔てる段丘の縁に沿って農道が東西方向に走っている。荒牧は下河原に比べて標高が2から3mほど高くなっており、遺構・遺物は荒牧側に集中する傾向にある。荒牧に設定した第33次第74から79トレンチでは、古代・中世の遺物が豊富であり、中世とみられる溝が複数検出されている。またこの範囲からも古代瓦の出土が確認されている。ただし、出土数はⅣ地区の桑寺周辺に比べると少なく、各トレンチで1から2点あるかないかといった程度であり、現状で瓦葺の建物が確実に存在したとは言い難い。ただし、千代川遺跡全体で見ても、荒牧の遺物包含層は良好な1次包含層であり、遺跡内でも遺構密度の高い地点と考えられる。その一方、千々川に接する下河原では、最も標高の高い第33次第70トレンチで帰属時期不明の溝を検出したのみで、遺構・遺物とも希薄である。このことから、現在の農道がⅦ地区における中世以前の集落と千々川流域を隔てる境目であり、荒牧が千々川以北の遺構群の南限であると評価できる。

Ⅷ地区は北ノ庄井根口・砂子田・惣堂周辺にあたる。この地区は行者山から延びる尾根の先端とその周辺に遺構・遺物が集中する傾向にある（第33次第83から第85・89・95トレンチ）。一方、千々川南岸の低地部で遺構は一切検出できなかった。尾根の先端部では弥生時代の遺構が確認され、尾根の北側では、古墳時代及び中世の溝が検出された。一方尾根の南側の谷部では古代から中世の遺物が出土し、時期ごとに土地利用の範囲が異なっていた可能性を示している。また遺構が検出されなかった、千々川に近接する低地部でもわずかに遺物が出土するが、いずれも摩滅が著しく遺存状態が悪いことから、中世以前における千々川南岸の低地部の利用は低調であったものと考えられる。

第33・34次調査では、調査面積が限られることから、具体的な遺跡の性格にまで言及できる遺構の検出は少なかったものの、一定の調査範囲内における、遺構及び遺物包含層の検出状況の傾向をつかむことができたため、概ね調査の目的は達したと評価できる。遺構・遺物の出土状況については、調査地点ごとに多少の違いが見られるものの、千代川遺跡内における遺構及び遺物包含層の密度は総じて高く、埋蔵文化財の保護にあたっては慎重な判断を要するものと考えられる。

（川崎雄一郎）

（注）

- (1) 歴史的環境の執筆には主に以下の文献を参考にした。

石崎善久・小池 寛 2013『池尻廃寺とその周辺』『第19 回京都府埋蔵文化財研究会発表資料集 古代寺院と律令体制下の京都府へなせ寺はそこにあるのか〜』京都府埋蔵文化財研究会
 亀岡市史編纂委員会 1985『亀岡市史』亀岡市
 亀岡市史編纂委員会 2000『新修亀岡市史 資料編』第1巻
 桐井理揮 2017『南丹地域における縄文・弥生移行期の様相』『第24 回京都府埋蔵文化財研究会発表資料集 弥生文化出現期前後の集落について』京都府埋蔵文化財研究会
 木下 良 1964『丹波国府址新考』『史明』4
 木下 良 1966『丹波国府址—亀岡市千代川町に想定する—』『古代文化』第16巻第2号 古代学協会
 高橋誠一 1986『亀岡盆地の条里と丹波国府』『人文地理学の視図』
 高橋照彦・中久保辰雄編 2012『篠栗跡群大谷3号室の研究』大阪大学文学研究科考古学研究報告第5
 大阪大学考古学研究室篠栗調査団
 水谷壽克・引原茂治・田代 弘・森下 衛 1985『千代川遺跡第6、7次発掘調査概要』『京都府遺跡調査概報』第14冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財センター

- (2) バレオ・ラボ辻 康男氏のご教示による。

- (3) 平尾政幸 2019『土師器再考』『洛史研究紀要』第12号（公財）京都市埋蔵文化財研究所

桐井理揮 2022『（1）丹波型瓦器について』『京都府遺跡調査報告集』第185冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

- (4) SX 335303に類似する遺構としては、長岡京市長岡京路右京第941次（7AN00D-5・01R-7・NTT-4地区）・友岡遺跡・伊賀寺遺跡の調査で検出された、土坑から焼骨片と磁器が出土したSK 540が挙げられる。同遺跡では縄文時代中期から後期にかけて墓とみられる遺構群が検出されており、SK 540は縄文時代後期と比定されている。土坑上部に配石を伴う墓の事例としては、隣接する兵庫県に所在する佐用町上三河遺跡（鍋倉地区）で縄文時代中期の配石を伴う墓の事例がある。

増田孝彦・黒坪一樹 2010『長岡京市長岡京路右京第941次（7AN00D-5・01R-7・NTT-4地区）・友岡遺跡・伊賀寺遺跡』『京都府遺跡調査報告集』第137冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

兵庫県立考古博物館 2019『特別展縄文土器とその世界—兵庫の一万年—』兵庫県立考古博物館

- (5) 水谷壽克・森下 衛・鶴島三壽・中川和哉・榮 暁彦 1992『京都府遺跡調査報告書』第16冊 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

- (6) 桐井理揮 2019『（1）旧地形の復元について』『京都府埋蔵文化財調査報告書（平成30年）』京都府教育委員会

- (7) 土師器皿と石材は、遺構検出中に偶発的に露出した遺物である。遺構埋土の深い位置に埋まっており、そのまま埋戻しても、遺物の保護に影響は無いと考え、今回は取り上げを行わなかった。

- (8) 中居和志・桐井理揮・北山大照『「1」平成27～29年度の調査（千代川遺跡28・29・31次）』『京都府埋蔵文化財調査報告書（平成30年）』京都府教育委員会

- (9) 前掲注（5）

付表5 千代川遺跡第33次調査 トレンチャー観

トレン チ番号	小字	主な検出遺構	出土遺物					その他
			弥生土器	土師器	須恵器	瓦器	陶磁器	
1	千原安田	溝	●	●	●			
2	千原安田	柱穴、列石		●	●	●		
3	千原安田	溝	●	●	●	●		
4	千原安田	近世溝						
5	千原安田	-						
6	千原安田	不明遺構（SX）	●	●	●			
7	千原宮ノ本	不明遺構（SX）			●	●	●	銅片
8	千原宮ノ本	-	●	●			●	
9	千原宮ノ本	-	●	●	●	●	●	
10	千原宮ノ本	-	●	●	●		●	
11	千原宮ノ本	-		●	●	●		
12	千原大門	柱穴		●	●	●	●	緑釉陶器
13	千原大門	-	●	●	●	●		銭貨（寛永通宝）
14	千原大門	-			●		●	
15	千原大門	-	●		●		●	青磁
16	千原西齊ノ本	-						
17	拝田勝林寺坊ノ下	溝	●	●	●	●		瓦質羽釜
18	拝田勝林寺坊ノ下	-				●		
19	拝田国司牧	-	●	●	●	●	●	白磁
20	拝田国司牧	-		●	●	●	●	
21	拝田長繩手	-	●	●	●		●	
22	拝田長繩手	耕作土（攪乱）		●	●		●	白磁
23	拝田長繩手	-	●	●	●		●	石製品
24	拝田長繩手	-	●	●	●	●		
25	拝田長繩手	溝、土坑	●	●	●	●	●	古代瓦
26	拝田長繩手	-	●	●	●	●	●	
27	拝田長繩手	-	●			●	●	
28	拝田長繩手	-						
29	拝田登井谷	土坑、柱穴		●	●	●		
30	拝田登井谷	溝	●	●	●		●	鉄滓
31	拝田登井谷	-		●	●	●	●	土製品
32	拝田登井谷	-		●	●	●	●	青磁、土製品
33	拝田登井谷	土坑、溝、柱穴		●	●	●	●	埴輪
34	拝田長繩手			●		●	●	
35	拝田野羅田	柱穴、溝						
36	北ノ庄堂ノ後	-		●	●		●	
37	北ノ庄堂ノ後	-		●	●		●	
38	北ノ庄堂ノ後	-		●	●	●	●	
39	北ノ庄堂ノ後	-		●	●	●	●	
40	北ノ庄堂ノ後	-		●	●	●	●	
41	北ノ庄堂ノ後	-		●	●	●	●	
42	北ノ庄堂ノ後	-		●		●		
43	北ノ庄堂ノ後	-		●	●			
44	北ノ庄堂ノ後	-		●	●		●	

トレンチ番号	小字	主な検出遺構	出土遺物					その他
			弥生土器	土師器	須恵器	瓦器	陶磁器	
45	千原清草	-		●		●		
46	千原清草	-		●	●	●	●	
47	北ノ庄委寺	-		●	●	●	●	古代瓦・石器
48	千原大門	-						
49	北ノ庄宮ノ前	-						骨?
50	北ノ庄宮ノ前	-		●	●	●	●	
51	北ノ庄宮ノ前	-		●	●	●		
52	北ノ庄宮ノ前	-		●			●	
53	北ノ庄宮ノ前	土坑、柱穴、不明遺構		●	●	●	●	縄文土器、骨
54	北ノ庄宮ノ前	-						
55	北ノ庄中ノ町	不明遺構		●	●	●	●	
56	北ノ庄相寄	-	●	●	●	●	●	
57	北ノ庄相寄	-	●	●		●	●	
58	北ノ庄相寄	-	●	●		●	●	
59	北ノ庄相寄	柱穴	●	●	●	●	●	
60	北ノ庄相寄	-		●	●	●	●	
61	北ノ庄相寄	-	●	●	●	●	●	石製丸柄
62	北ノ庄国ヶ森	-		●	●		●	
63	北ノ庄国ヶ森	柱穴		●	●		●	
64	北ノ庄国ヶ森	-	●	●	●		●	
65	北ノ庄国ヶ森	柱穴	●	●				
66	北ノ庄国ヶ森	不明遺構	●		●	●		
67	北ノ庄国ヶ森	-	●				●	青磁
68	北ノ庄国ヶ森	溝、土坑	●	●	●	●	●	銅片
69	北ノ庄国ヶ森	-		●	●		●	
70	北ノ庄荒牧	溝	●	●			●	
71	北ノ庄下河原	-		●				
72	北ノ庄下河原	-					●	
73	北ノ庄下河原	-						
74	北ノ庄荒牧	溝	●	●	●		●	古代瓦、鉄滓、瓦質羽釜
75	北ノ庄荒牧	柱穴、溝	●	●	●	●		古代瓦、鉄製品
76	北ノ庄荒牧	溝	●	●	●	●		古代瓦、石片
77	北ノ庄荒牧	溝	●	●	●	●		古代瓦、石片
78	北ノ庄荒牧	溝	●	●	●	●		古代瓦、石片
79	北ノ庄荒牧	土坑	●	●	●	●		
80	北ノ庄井根口	-						
81	北ノ庄井根口	-	●	●				骨
82	北ノ庄井根口	-		●				
83	北ノ庄井根口	-	●	●	●	●	●	緑釉陶器
84	北ノ庄井根口	溝			●			
85	北ノ庄惣堂	柱穴、溝	●	●			●	
86	北ノ庄惣堂	-	●	●	●	●	●	青磁、近世瓦
87	北ノ庄惣堂	-	●	●	●		●	瓦
88	北ノ庄惣堂	-	●	●	●		●	銅片、近世瓦

トレンチ番号	小字	主な検出遺構	出土遺物					
			弥生土器	土師器	須恵器	瓦器	陶磁器	その他
89	北ノ庄井根口	溝	●	●	●	●		炭
90	北ノ庄井根口	-					●	
91	北ノ庄井根口	-						
92	北ノ庄井根口	-		●			●	
93	北ノ庄井根口	-					●	
94	北ノ庄井根口	-		●			●	煉瓦
95	北ノ庄井根口	土坑、不明遺構	●	●	●		●	
96	北ノ庄砂子田	-		●	●			
97	北ノ庄砂子田	-		●			●	
98	北ノ庄砂子田	-		●			●	
99	北ノ庄砂子田	-						

付表6 千代川遺跡第34次調査 トレンチ一覧

トレンチ番号	小字	主な検出遺構	出土遺物					
			弥生土器	土師器	須恵器	瓦器	陶磁器	その他
1	北ノ庄井根口	-	●	●	●	●	●	青磁
2	北ノ庄井根口	-		●	●		●	瓦質土器
3	北ノ庄井根口	-	●		●			
4	坪田登井谷	-		●	●		●	
5	坪田登井谷	-		●	●	●	●	
6	坪田長者垣内	溝、土坑、土器溜まり		●	●	●	●	緑釉陶器

付表7 千代川遺跡第33次調査 遺物観察表

掲載番号	種類	器種	地区	出土地点・層位	法量 (cm)			残存率	胎土	焼成	色調		備考
					口径	器高	底径 (高台)				外面	内面等	
1	縄文	鉢	53tr	2層 (遺構精査)	-	4.0	-	1/12	粗	やや軟	7.5YR5/3 にぶい褐	2.5YR5/8 明赤褐	
2	弥生	壺	65tr	4層断割	20.1	6.1	-	1/12	やや粗	軟	7.5YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白	
3	弥生	壺	95tr	SX339502 断割	-	5.5	-	1.5/12	やや密	やや軟	10YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白	
4	弥生	壺	95tr	SX339502 断割	-	5.0	-	1/12	やや粗	やや軟	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	
5	土師器	甕	89tr	4層断割	16.4	4.0	-	1/12	やや密	良	10YR6/2 灰黄褐	5YR5/6 にぶい赤褐	
6	須恵器	杯	89tr	4層断割	10.7	2.8	-	1/12	密	良	5PB6/1 青灰	5PB6/1 青灰	
7	陶器	壺	33tr	SX333301	10.9	2.9	-	2/12	密	やや軟	2.5YR4/3 にぶい赤褐	10Y5/2 オリーブ灰	
8	須恵器	甕	9tr	4層	21.2	6.0	-	1/12	密	堅緻	5PB5/1 青灰	5B5/1 青灰	

掲載 番号	種類	器種	地区	出土地点・ 層位	法量 (cm)			残存率	胎土	焼成	色調		備考
					口径	器高	底径 (高台)				外面	内面等	
9	土師器	皿	75tr	SD337502	7.2	0.9	—	3/12	密	良	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	
10	土師器	皿	75tr	SD337502	7.5	1.1	—	11/12	密	良	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	
11	土師器	皿	75tr	SD337502	8.0	0.9	—	4/12	密	良	10YR8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	
12	土師器	皿	75tr	SD337502	9.2	1.0	—	2/12	密	良	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	
13	土師器	皿	75tr	SD337502	8.7	1.3	—	9/12	密	良	5YR7/6 橙	10YR8/2 灰白	
14	土師器	皿	75tr	SD337502	6.3	1.1	—	2.5/12	密	やや軟	10YR8/2 灰白	10YR8/1 灰白	
15	土師器	皿	75tr	SD337502	7.9	1.5	—	1.5/12	密	良	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	
16	土師器	皿	78tr	4層上面	8.9	1.1	—	2/12	密	良	2.5Y8/2 灰白	10YR8/2 灰白	
17	土師器	皿	33tr	SX333301	8.5	2.0	—	6/12	密	良	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/2 灰白	
18	土師器	碗	26tr	3層断面割	11.2	4.0	—	2/12	密	軟	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	
19	土師器	碗	75tr	SD337502	11.9	4.4	—	1/12	密	やや軟	2.5Y7/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	
20	瓦器	碗	75tr	SD337502		2.2	4.1	3/12	密	やや軟	N4/0 灰	N3/0 暗灰	
21	瓦器	碗	75tr	SD337502	13.0	3.9	—	2/12	密	やや軟	N3/0 暗灰	N2/0 黒	
22	瓦器	碗	75tr	SD337502	12.5	4.9	—	7/12	密	やや軟	N4/0 灰	N4/0 灰	
23	須恵器	鉢	33tr	SX333301	25.2	3.6	—	1/12	密	良	5PB4/1 暗青灰	5PB4/1 暗青灰	
24	瓦器	羽釜	75tr	SD337505	(17.3)	6.3	—	1/12	やや密	やや軟	N3/0 暗灰	2.5Y8/2 灰白	
25	青磁	碗	53tr	東断削延 長区2層	14.2	4.3	—	1.5/12	密	良	7.5GY6/1 緑灰	7.5GY6/1 緑灰	
26	石器	凹石	65tr	4層断面割	7.8 × 7.5 × 5.4			—	—	—	—	—	502 g
27	石製品	丸鋸	61tr	3層	4.0 × 2.6 × 0.75			—	—	—	—	—	15.0 g

付表8 千代川遺跡第34次調査 遺物観察表

掲載 番号	種類	器種	地区	出土地点・ 層位	法量 (cm)			残存率	胎土	焼成	色調		備考
					口径	器高	底径 (高台)				外面	内面等	
1	須恵器	杯身	1tr	表土	—	1.9	9.9	1.5/12	良	やや密	5PB5/1 青灰	5PB5/1 青灰	
2	土師器	皿	5tr	攪乱	10.8	2.3	—	1.5/12	やや軟	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	
3	土師器	皿	5tr	攪乱	12.9	2.3	—	1.5/12	良	やや密	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙	
4	瓦器	碗	5tr	攪乱	11.0	3.1	—	1.5/12	やや軟	密	N3/0 暗灰	N3/0 暗灰	

掲載 番号	種類	器種	地区	出土地点・ 層位	法量 (cm)			残存率	胎土	焼成	色調		備考
					口径	器高	底径 (高台)				外面	内面等	
5	土師器	皿	6tr	遺構精査	9.8	1.3	—	2.5/12	やや軟	やや密	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	
6	土師器	皿	6tr	2層	9.4	1.3	—	2.5/12	やや軟	やや密	10YR8/2 灰白	10YR7/2 にぶい黄橙	
7	土師器	皿	6tr	2層	10.3	1.7	—	1.5/12	良	やや密	2.5Y7/2 灰黄	10YR8/2 灰白	
8	土師器	皿	6tr	2層	12.8	2.1	—	1.5/12	良	やや密	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	
9	土師器	椀	6tr	2層	—	1.5	4.4	4/12	良	密	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白	
10	瓦器	椀	6tr	遺構精査	—	2.0	6.4	2/12	軟	密	2.5Y5/1 黄灰	N4/0 灰	
11	瓦器	椀	6tr	2層	—	1.1	6.8	3/12	やや軟	密	N5/0 灰	N4/0 灰	
12	瓦器	椀	6tr	2層	12.9	3.1	—	1/12	軟	密	N3/0 暗灰		
13	土師器	皿	6tr	SX340603	8.2	1.3	—	2/12	良	密	5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	遺構内
14	土師器	皿	6tr	SX340603	8.2	1.7	—	2.5/12	良	やや密	10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄	取上 6
15	土師器	皿	6tr	SX340603	8.2	1.5	—	2/12	やや軟	やや密	2.5Y7/2 灰黄	10YR7/2 にぶい黄橙	取上 3
16	土師器	皿	6tr	SX340603	8.2	1.9	—	3/12	やや軟	やや密	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	遺構内
17	土師器	皿	6tr	SX340603	8.4	1.9	—	12/12	やや軟	やや密	7.5YR8/1 灰白	7.5YR8/1 灰白	取上 4
18	土師器	皿	6tr	SX340603	8.5	2.1	—	12/12	良	やや密	7.5YR8/1 灰白	7.5YR8/1 灰白	取上 1
19	土師器	皿	6tr	SX340603	8.9	1.3	—	3/12	やや軟	やや密	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	遺構内
20	土師器	皿	6tr	SX340603	9.4	1.4	—	3/12	やや軟	やや密	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	遺構内
21	土師器	皿	6tr	SX340603	10.4	1.9	—	3/12	良	やや密	5YR7/3 にぶい橙	5YR7/4 にぶい橙	取上 9
22	土師器	皿	6tr	SX340603	13.6	1.5	—	1.5/12	良	やや密	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	取上 8
23	土師器	皿	6tr	SX340603	14.2	2.2	—	2/12	やや軟	やや密	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白	取上 14
24	土師器	皿	6tr	SX340603	13.8	2.6	—	6/12	やや軟	やや密	10YR8/1 灰白	7.5YR8/1 灰白	取上 2
25	瓦器	椀	6tr	SX340603	13.4	4.0	—	2/12	軟	密	N3/0 暗灰	N4/0 灰	取上 12
26	瓦器	椀	6tr	SX340603	14.4	4.2	—	2.5/12	やや軟	密	N4/0 灰	N3/0 暗灰	遺構内
27	瓦器	椀	6tr	SX340603	—	1.8	5.8	2/12	軟	やや密	N3/0 暗灰	N3/0 暗灰	取上 13
28	瓦器	椀	6tr	SX340603	14.6	5.1	—	1.5/12	軟	密	N4/0 灰	N3/0 暗灰	取上 11
29	瓦器	椀	6tr	SX340603	13.6	5.2	5.0	2/12	やや軟	密	N3/0 暗灰	N3/0 暗灰	取上 10

[2] 令和4年度の調査

にしがや (西加舎遺跡第8次調査・井手遺跡第8次調査)

1 はじめに

令和4年度の調査は、亀岡市本梅町西加舎地内で実施した。

西加舎遺跡第8次調査では、事業予定地の中で遺跡に影響が及ぶ範囲に4箇所のトレンチを設定し、発掘調査を実施した。調査期間は令和4年8月1日から10月31日で、調査面積は約1,180㎡である。

本梅町西加舎大西で実施した井手遺跡第8次調査では、事業で切土工による遺構面への影響が確実な範囲に、4箇所の小規模調査区を設定し、遺構および遺物包含層の検出を行った。調査期間は令和4年11月1日から令和4年11月30日で、調査面積は約205㎡である。

調査期間・整理期間等の関係から、詳細は次年度以降に報告することとし、今年度の報告では調査の概要のみを記す。

2 調査の概要

(1) 西加舎遺跡第8次調査

西加舎遺跡は、奈良時代から中世にかけての散布地である。今回の調査地は、昨年度、当課が実施した小規模調査によって遺構が確認された調査区を拡張し、本発掘調査を行った。調査区は西加舎遺跡内の南西部にあたる。

調査では4箇所に調査区を設定して行った。耕作土を重機で除去した後、床土以下を人力で掘削し、遺構面の検出を進めた。また、調査区の壁面に沿って、約0.4m幅の断割を行い、さらなる下位の遺構面の有無や層序の把握に努めた。第1調査区では溝、土坑、柱穴を検出した。溝の埋土からは中世とみられる須恵器や土師器などが出土した。土坑、柱穴からは瓦器碗や土師器皿が出土した。第2調査区では柱穴を検出し、瓦器碗や土師器皿が出土している。第3調査区では溝、柱穴を検出した。溝の埋土からは瓦器碗片が出土し、柱穴からは土師器皿が出土している。第4調査区では溝、土坑、柱穴を検出した。各遺構からは土師器皿や瓦器碗が出土している。第2～4調査区で検出した遺構はいずれも中世のものである。

(2) 井手遺跡第8次調査

井手遺跡は、奈良時代から中世にかけての散布地である。今回の調査地は井手遺跡内の北西部にあたる。

調査では4箇所に調査区を設定して行った。耕作土を重機で除去した後、床土以下を人力で掘削し、

遺構面の検出を進めた。第1調査区では溝、土坑を検出した。溝からは瓦器片、土師器皿片が出土し、土坑からは瓦器碗、土師器皿片が出土している。第2調査区では古代から中世にかけての遺物包含層を検出した。須恵器や土師器皿が含まれる。第3調査区では遺物包含層を検出した。遺物包含層には、瓦器碗や土師器皿が含まれる。第4調査区からは溝と柱穴を検出した。遺構からは瓦器碗や土師器皿が出土した。第1・3・4調査区の遺構はいずれも中世である。

3 まとめ

（1）西加舎遺跡

本調査によって、遺跡内でも調査歴が少なく、不明な点が多かった地区において、遺構の性格を明らかにすることができた。西加舎遺跡第5次調査では、遺跡の中央部に中世以前の遺構が存在することが明らかになっており、今回の調査区でも古代の溝が検出され、中世以前の遺構が存在する範囲が広がった。西加舎遺跡は付近に能勢街道が存在することから、交通の要衝の地であったことがうかがえる。周辺の状況を踏まえ、調査成果を検討していきたい。

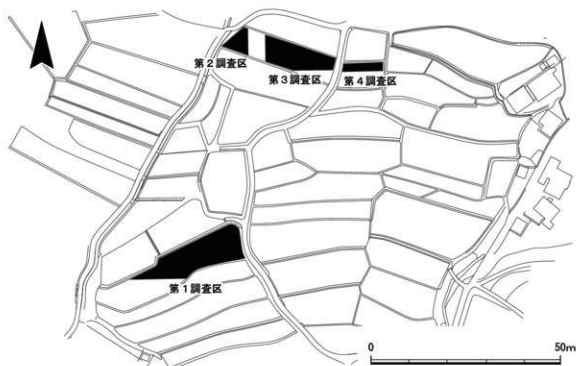
（2）井手遺跡

本調査によって、遺物包含層や溝を確認したが、予定掘削深度が遺構面に達しなかったため、本発掘調査は不要と判断した。井手遺跡は、過去の調査で検出された集落跡は12世紀初頭から前半に比定されており、藤原忠通の娘、皇嘉門院領である賀舎荘の一部であるとされている。今後、遺跡の全体像が解明され、井手遺跡、ひいては本梅町の歴史がさらに明らかになっていくことを期待したい。

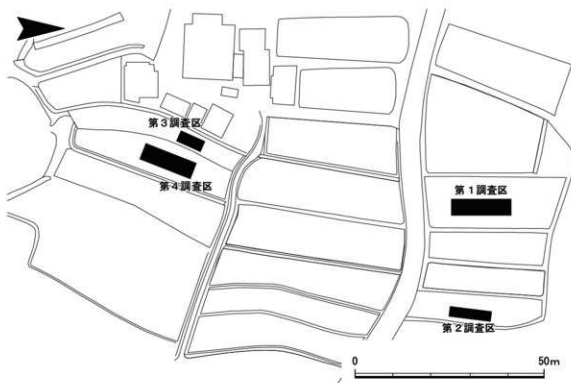
（濱喜和子）

参考文献

- ・亀岡市教育委員会 2018『亀岡市文化財調査報告書 95：市内遺跡発掘調査報告書』
- ・京都府教育委員会 2022『京都府埋蔵文化財調査報告書（令和3年度）』



第 39 図 西加舎遺跡第 8 次調査地点（1/1,000）



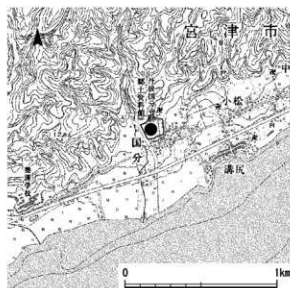
第 40 図 井手遺跡第 8 次調査地点（1/1,000）

3 史跡丹後国分寺跡 第2次調査報告

1 はじめに

史跡丹後国分寺跡は、宮津市国分に位置する寺院跡である。現在、史跡地内には金堂跡および塔跡に基壇が残されており、合計40石の礎石が地表に露出している。また中門とされる位置にも2石の礎石が同様に露出している。これらの礎石は、中世に成立した重要文化財「丹後国分寺再興縁起」の中に見える指図と配置が一致していることから、古代の国分寺に伴うものではなく、中世再建時のものであることが明らかとなっている。

また、16世紀初頭に雪舟により描かれたとされる国宝「天橋立図」の中にも「国分寺」の書き込みがあり、その下に塔や金堂、講堂とみられる建物が描かれている。



第41図 史跡丹後国分寺跡位置図

(国土地理院 1/25,000「宮津」)

以上のように、丹後国分寺に関する研究は文献・絵画資料が中心であった。これまで史跡地内での発掘調査の履歴はなく、隣接する国分遺跡で発掘調査が実施されたのみで、丹後国分寺跡に関する考古学的情報は極めて限られていた。そのような状況に鑑みて、京都府教育委員会では令和3年度から丹後国分寺跡の内容を把握するための発掘調査に着手した。令和3年度の調査では金堂跡・塔跡・中門跡の計9箇所にも小規模な調査区を設定し、発掘調査を実施した。本年度の調査では金堂北側の平場に3箇所の調査区を設定し、調査を行った。調査期間は令和4年10月24日から同12月23日までで、調査面積は310㎡である。

調査・整理期間の関係から、詳細は次年度以降に改めて報告することとし、今年度は概要のみを報告する。

《調査組織》

調査主体 京都府教育委員会

調査責任者 京都府教育庁指導部文化財保護課長 森 正

調査担当者 京都府教育庁指導部文化財保護課記念物係課長補佐兼係長 藤井 整

主 任 桐井理揮

調査協力 宮津市教育委員会、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、
京都府立丹後郷土資料館

2 調査成果

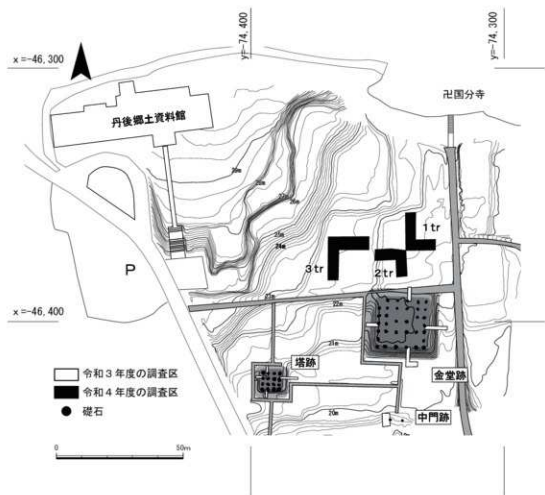
本年度の調査では、現地に残されている金堂基壇の北側に存在する平場に「L」字状の調査区を3箇所を設定し、掘削を行った。東から1tr、2tr、3trと呼称する。

1、2trでは、地表下0.3～1.0mで柱穴や溝などの遺構を検出した。遺構は中・近世の包含層直下で検出しており、いずれも中世に属すると考えられる。

3trでは、表土直下で古代から中世の土器・瓦を大量に含む遺物包含層を検出した。中には古代のものとみられる軒瓦も多く含まれる。この包含層は斜面地を平坦にするように堆積しており、中世の寺院建築に伴う整地土と判断した。この整地土上で、礎石とみられる上面が平らな石材を検出した。

これまで、史跡の範囲内において確実な中世の遺構が検出されたのは初めてで、現存する礎石との関係も含め、中世国分寺の成立を考える上で極めて重要な成果といえる。また、古代の瓦はこれまで採集品が知られるのみであったが、発掘調査で出土したのは今回が初めてとなる。周辺に古代の遺構が展開している可能性も考えられよう。今後も継続して遺跡の内容確認に努めていく必要がある。

（桐井理揮）



第42図 調査地位置図（1/1,500）

4 令和4年府内遺跡試掘・確認調査等報告

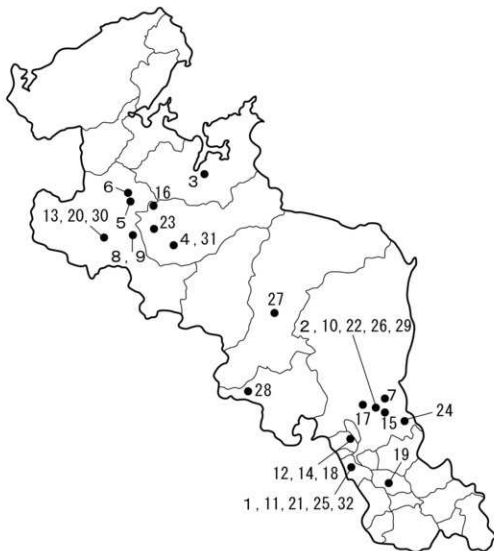
京都府教育委員会では、埋蔵文化財包蔵地における開発事業に伴い、各事業主体者の協力を得ながら、国庫補助事業府内遺跡として、試掘・確認調査、分布調査等を実施している。

令和4年1月から12月にかけて当教育委員会では、第43図、付表9に示すとおり総数32件の試掘・確認調査等、分布調査を実施した。

28の井手遺跡では府道拡幅工事に伴う試掘・確認調査を実施した。29の北野右近馬場城跡では、警察施設解体に伴う試掘・確認調査を実施した。以上2件の試掘調査については、来年度報告予定である。

次項では、特に成果の得られた試掘・確認調査について記載する。

(川崎雄一郎)



第43図 令和4年度試掘・確認調査等位置図（番号は表9に対応）

付表9 令和4年試掘・確認調査等一覧

調査月日	遺跡名称	所在地	概要	調査原因	備考
1 1月11日	木津川河床遺跡	八幡市	顕著な遺構・遺物なし	施設改修	
2 1月24日	平安京跡	京都市	顕著な遺構・遺物なし	施設改修	
3 1月25日	田辺城跡・円満寺遺跡	舞鶴市	顕著な遺構・遺物なし	拘置所改修	
4 2月1日	綾部陣屋跡（前期）	綾部市	顕著な遺構・遺物なし	学校施設改修	
5 2月4日	河守遺跡・河守北遺跡	福知山市	顕著な遺構・遺物なし	道路拡幅	
6 2月17日	二箇遺跡	福知山市	顕著な遺構・遺物なし	道路改修	
7 2月28日・ 3月8日	下鴨半木町遺跡	京都市	顕著な遺構・遺物なし	大学施設解体	
8 3月7日	石原遺跡	福知山市	顕著な遺構・遺物なし	河川改修	
9 6月20日	高津遺跡	綾部市	顕著な遺構・遺物なし	道路拡幅	p.65 参照
10 6月20日	平安京跡	京都市	顕著な遺構・遺物なし	施設設備新設	
11 6月23日	中ノ山遺跡	八幡市	顕著な遺構・遺物なし	施設改修	
12 7月13日	長岡京跡・開田遺跡	長岡京市	顕著な遺構・遺物なし	道路拡幅	
13 7月6日・7日	樋ノ口古墳群	福知山市	顕著な遺構・遺物なし	堤防新築	
14 7月13・19・2日	長岡京跡	長岡京市	顕著な遺構・遺物なし	道路改修	
15 8月2日	伏見城跡	京都市	顕著な遺構・遺物なし	仮設校舎建設	
16 8月22日	石塚遺跡	綾部市	顕著な遺構・遺物なし	道路改修	
17 8月25日	大覚寺古墳群	京都市	顕著な遺構・遺物なし	水道管改修	
18 8月25日	長岡京跡	長岡京市	顕著な遺構・遺物なし	施設改修	
19 9月14日	水主神社東遺跡	城陽市	顕著な遺構・遺物なし	道路新設	
20 10月21日	岡ノ遺跡	福知山市	顕著な遺構・遺物なし	崩落復旧工事	
21 11月2日	木津川河床遺跡	八幡市	顕著な遺構・遺物なし	施設保全工事	
22 11月17日・18日	平安京跡、内膳町跡	京都市	顕著な遺構・遺物なし	交番改修	
23 11月21日	芝原遺跡	綾部市	顕著な遺構・遺物なし	堤防改修	
24 11月24日	中臣遺跡	京都市	顕著な遺構・遺物なし	交番新設	
25 11月25日	木津川河床遺跡	八幡市	顕著な遺構・遺物なし	施設改修	
26 11月28日	寺町田域	京都市	顕著な遺構・遺物なし	警察施設新設	
27 12月5日	園部城跡	南丹市	顕著な遺構・遺物なし	学校施設改修	
28 12月6日～9日	井手遺跡	亀岡市	顕著な遺構・遺物なし	道路拡幅	来年度 報告
29 12月14日	北野右近馬場城跡	京都市	顕著な遺構・遺物なし	建物解体	来年度 報告
30 12月12日～16日	寺浦遺跡・薬師遺跡	福知山市	古墳時代の溝と中世の 建物跡を検出	堤防新築	
31 12月20日	味方遺跡	綾部市	顕著な遺構・遺物なし	道路拡幅	
32 12月23日	木津川河床遺跡	八幡市	顕著な遺構・遺物なし	建物建設	

たかつ [1] 高津遺跡試掘・確認調査

1 はじめに

高津遺跡は、綾部市高津町大橋に所在する弥生時代の散布地である。今回の調査は福知山綾部線府道8号の道路改良工事に伴うものである。調査は令和4年6月20日に実施した。調査面積は約18.5m²である。調査にあたっては、中丹東土木事務所の協力を得た。

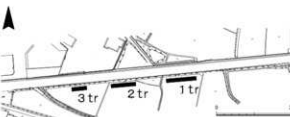
2 調査の成果

工事に伴って地下掘削を行う部分について調査を実施した。調査地点は、1トレンチ(8m×1.5m)、2トレンチ(6.5m×1.5m)、3トレンチ(4m×1.5m)の長方形の調査区を3か所に設定した。すべてのトレンチで厚さ約0.2m程度の近現代の遺物を含む層(第2・3層)を検出し、その下層で洪水による河川堆積層(第4・5・6層)を確認した。河川堆積層では遺物を確認できず、形成時期については不明である。各調査区では、約1m以上の堆積が確認され、さらに下層に安定面があると想定できる。調査区の北に位置する由良川に向かって、河川堆積が厚くなっていくものと考えられる。



第42図 高津遺跡位置図(国土地理院(1/25,000))

電子地形図25,000(国土地理院)を加工して作成



第43図 調査区配置図(1/1,000)

3 おわりに

今回の調査は限られた面積の調査であり、広く河川堆積が堆積していることを確認した。遺構・遺物は認められなかった。調査の結果、当該地における本発掘調査の必要はないと判断した。

(北山大照)



第44図 土層柱状図(1/40)

5 令和4年における埋蔵文化財の発掘

[1] 令和4年の動向

令和3年度の京都府内における周知の埋蔵文化財包蔵地の件数は18,068件（令和4年4月1日）であり、同年度、埋蔵文化財包蔵地内において実施された土木・建築工事等に際して提出された文化財保護法第93・94条に基づく届出・通知は、付表のとおり3,459（令和2年度：3,476）件であった。これは、前年度と比較すると17件の微減（前年比約99.5%）となっている。法第94条に基づく通知が増加となる一方、法第93条に基づく届出は減少しており、昨年度に引き続きわずかながら民間開発の鈍化が認められる状況となっている。

民間の土木・建築工事に伴う法第93条の届出は3,145（令和2年：3,219）件で、減少数は74件（前年比約97.7%）である。内訳件数は、京都市1,463件、乙訓地域784件、山城地域408件とこの3地域が上位を占める状況は例年のとおりである。この3地域での合計は2,655件となり、府内全体の約84%を占める。件数は乙訓地域で94件増加しているが、山城地域では12件、京都市では216件減少しており、京都市の減少は府内でも突出している。この他、丹後・中丹・南丹地域では、わずかであるが増加傾向を示しており、それぞれ49件、221件、220件であった。

一方、公共事業に係る土木・建築工事に伴う法第94条の通知は、平成14年の318件をピークに、平成20年度には177件とおおむね半減した。平成24年度から平成26年度にかけては230件前後で推移していたが、平成27年度に257件とわずかながら増加した。平成28年度には236件と再び減少に転じたが、平成29年度以降、令和元年度にかけ前年比10%程度の増加傾向を示していた。令和2年度には再び減少へと転じたが、令和3年度には314件（前年比約122%）と再び増加に転じた。

府内の埋蔵文化財専門職員（財団法人調査機関の職員含む）は、平成7年の206人をピークに市町村合併や、定年退職に伴う新規採用の抑制等により減少傾向にある。令和3年4月1日における府内の専門職員の配置数は140名（公益財団法人・嘱託職員等含む）であり、配置は24市町（組合）のうち18市町（組合）で、配置率はおおよそ75%である。現状で未配置は6市町（組合）に及んでおり、域内の文化財の保存・活用を適切に行うためにも、未配置を解消し専門職員を配置することは喫緊の課題である。また、未配置の市町（組合）において、埋蔵文化財包蔵地での開発行為が計画される事例が散見され、適切に対応するための方策についても早急に検討する必要がある。

令和4年度に、文化庁の国庫補助を受け、京都府をはじめとして、府内の17市町において発掘調査等事業を実施している。事業内容は、域内の埋蔵文化財の範囲内容を確認する詳細分布調査、開発に対応する緊急発掘調査及び史跡等の保存・整備に伴う調査、出土文化財の保存処理等である。また、同じく国庫補助事業である地域の特色ある埋蔵文化財活用事業については、京都府、向日市、木津川

市において実施されている。京都府では、当課職員の解説により小学校高学年児童を対象に、丹後地域及び山城地域の史跡等を巡る「文化財1day バスツアー」を新型コロナウイルス感染拡大防止対策を万全とすることにより、3年ぶりに実施した。また、国指定史跡恭仁宮跡（山城国分寺跡）の発掘調査50周年の節目を記念して、令和5年2月4日に「恭仁宮フォーラム」を開催した。当日は500名を超える多くの方々の参加を得て、盛況のうちに終了した。2月5日には、「恭仁宮を探検しよう」と題した現地見学を行い、198名の参加を得た。2月18・19日には、イオンモール高の原で瓦作り体験イベントを実施するなど、幅広い層への普及啓発を行った。この他に、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターへの委託事業として、発掘調査による出土文化財の速報展、講演会、体験学習等の普及啓発事業とともに、今後の活用に資することを目的に、出土文化財の再整理事業も実施した。また、同事業を実施している向日市においても、史跡長岡宮跡、市民考古学講座や、発掘調査成果展の開催等の普及啓発事業を実施した。また、木津川市では、市内遺跡巡りの実施に併せて、現地遺跡解説板の多言語化やQRコードの貼付、冊子・パンフレットの作成、ホームページでの情報発信等を実施した。

令和4年7月22日に、文化庁から「これからの文化財保護の在り方について（第一次報告書）」とする報告がなされた。これは、開発事業に先立つ試掘調査に伴って、その存在が確認された高輪築堤跡に係る保存協議と、その後の史跡指定に至る過程において、埋蔵文化財が内包する問題点が顕在化したことが契機となっている。高輪築堤跡は、文献史料や写真等でその重要性が明らかでありながら、その存在が確認されたのは開発事業計画が進行中のことであったため、保護に向けたより実効性を持った取り組みが十分になされるには、時機を逸した可能性も指摘されている。そうした一連の埋蔵文化財を巡る様々な課題を踏まえた対応について、文部科学大臣から文化審議会に対しなされた要請にこたえるものとして取りまとめられた報告である。その中では、①埋蔵文化財包蔵地の把握と調査に係る課題、②指定相当の埋蔵文化財包蔵地の認定と共有に係る課題、③地方公共団体における体制や連携に係る課題、④近世・近代の遺跡の把握に係る課題、と4つの課題が提示されている。これらの課題への対応のひとつとして、国が地方公共団体の協力を得て、重要な埋蔵文化財を可能な限り早期に把握し、その具体的な名称や範囲等を示したリストを作成し、公表すること、そして、国はその保護について、地方公共団体に専門的な指導・助言を行うことが必要であると指摘された。今後、リストの作成及び活用により、埋蔵文化財の適切な保護措置がとられることが望まれる。

京都府が設立した公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターは、設立以来、府内各所で開発事業の施工に先立ち1,000件以上の発掘調査を実施してきており、府内の埋蔵文化財の保存と活用に大きな役割を果たしている。令和4年度は、22件の発掘調査等を実施した。丹後地域では、国土交通省による一般国道312号大宮峰山道路延伸事業や、府丹後土木事務所が実施する府道等の新設、砂防事業に先立つ調査、中丹地域では国土交通省が実施する一般国道9号夜久野改良事業や、府中丹広域振興局が実施する農業基盤整備事業に先立つ調査、南丹地域では農林水産省近畿農政局が進める国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」に伴う調査や、府南丹土木事務所が実施する府道の新設、砂防事業に先立つ調査を実施し、それぞれにおいて重要な成果を得ている。また、乙訓地域では乙訓

土木事務所が実施する府道の拡幅事業に伴う整理等作業を実施し報告書を刊行した。山城地域では、国土交通省による国道24号寺田拡幅事業及び国道163号拡幅事業や、西日本高速道路株式会社が進める新名神高速道路建設事業等の大型公共事業に伴う調査等を実施しており、多くの成果が得られている。発掘調査で得られた成果については、府民に広く還元することを目的に現地説明会を実施するが、今年度についても昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、その時点での状況に応じて開催の可否につき判断せざるを得ず、見送りを決断したものも少なくなかった。しかし、感染状況を勘案しつつ実施することが可能となった亀岡市法貴北古墳群や春日部遺跡、京丹後市佐屋利遺跡では、多くの地元の方々の参加を得ることができた。埋蔵文化財に対する地元の方々の興味・関心の高さを改めて確認することができ、一日も早い従来どおりの対応への復旧が強く望まれる。

また、当教育委員会からの委託による「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」として、令和3年度に府内で実施された発掘調査成果の速報展示「発掘された京都の歴史2022」及び、企画展示「遺跡さんぽに行こう！」を開催した。8月6日から28日にかけて向日市文化資料館、9月6日から19日にふるさとミュージアム山城（京都府立山城郷土資料館）、9月27日から10月10日にふるさとミュージアム丹後（京都府立丹後郷土資料館）にて巡回展示を行い、期間中には1,709名の参加者を得た。また、児童の夏休み期間中に体験学習として勾玉づくりを6回にわたり実施し、計52名の参加が得られた。この他に、発掘調査成果を府民に広く公開し、活用することを目的に埋蔵文化財セミナーを開催しており、令和4年9月に「近年明らかになった南山城の古墳時代」をテーマに城陽市において、令和4年11月に「丹後の古墳時代」をテーマに京丹後市において、また、令和5年2月には「奈良時代創建の大寺院 平手寺と大安寺の様相」と題して京都市で計3回実施され、355名の参加を得た。

ふるさとミュージアム山城・丹後においても、府内の発掘調査の成果についての講演会や展示などを開催している。ふるさとミュージアム山城では、令和4年6月25日から11月28日まで、秋の特別展として「南山城最後の前方後円墳－坊主山古墳、長池古墳とその時代－」を開催した。また、令和4年6月に「史跡高麗寺跡の整備について」、7月に「八幡市木津川河床遺跡－近世御幸道の発掘調査－」と題した文化財講演会を実施した。また、令和4年7月23日から8月20日及び10月22日から11月19日の期間に、小学生・中学生を対象に勾玉製作、和同開珎・ミニ三角縁神獸鏡・ミニ銅鐸の鑄造など、古代のモノづくり体験事業を実施した。一方、ふるさとミュージアム丹後でも、令和4年7月29日から8月10日の期間に、小学生・中学生を対象に勾玉製作、和同開珎・ミニ内行花文鏡の鑄造など、古代のモノづくり体験事業を実施した。

（奈良康正）

〔2〕府内の主な発掘調査

令和4年1月から12月にかけて府内で実施された主な発掘調査について、時代ごとに概観する。

①旧石器時代・縄文時代・弥生時代

宇治市^{あまのふもと}神楽田遺跡では、巨椋池の東岸に立地した弥生時代後期の集落が確認された。遺構からは、弥生土器甕がまとまって出土したことから、祭祀の痕跡と推定されている。

京都市伏見区^{ながおかきょうせき}長岡京跡・^{よだみずたれおしもづりょう}流水垂天下津町遺跡では弥生時代から明治時代にかけての複数の遺構面が確認された。弥生時代の土坑、落込みからは東海地方でつくられた土器や石器の未製品、管玉石材等が出土しており、調査地に所在した弥生時代の集落は、遠隔地と交流があったことが判明した。

②古墳時代

宇治市^{かわらづかこふん}瓦塚古墳では、墳丘を巡る周濠の有無を確認するために発掘調査が行われた。古墳の北側で幅約6m、深さ約0.25mの溝が検出され、溝の北側では地山の高まりが確認された。これらの遺構は古墳の周濠と周堤の可能性がある。溝からは埴輪片が出土している。

亀岡市^{はらうききたこふんぐん}法貴北古墳群では、古墳時代後期の円墳3基、木棺墓1基、小石室1基が見つかった。円墳のうち1基からは、須恵器杯や鉄銚、金銅製の耳環が出土した。古墳群内で異なる複数の形態の墓が見つかったことで、古墳時代後期の多様な墓制の在り方が明らかとなった。



第47図 法貴北5号墳完掘状況

京田辺市^{やまざき}山崎3号墳では、直径約11mの円墳から粘土槨が検出された。粘土槨は、長さ約3m、幅約1.1mであった。粘土槨の調査中に管玉2点が出土している。

京都市伏見区^{ながおかきょうせき}長岡京跡・^{よだみずたれおしもづりょう}流水垂天下津町遺跡では、古墳時代初頭の堅穴建物6棟や落込み、古墳時代後期の溝などが確認された。出土した土器には、現在の大阪府や滋賀県、東海地方でつくられたものが含まれていた。

③飛鳥時代・奈良時代

綾部市^{きたのだい}北野台遺跡では奈良時代の掘立柱建物跡や平安時代以降の河川跡が検出された。掘立柱建物跡は、東西2間、南北8間以上の長大な建物であり、柱根が残存していた。河川跡からは、弥生時代から平安時代にかけての遺物が出土した。出土遺物の中には、複数の墨書土器が含まれていた。調査成果から、官衙等の施設が存在する可能性が推定される。

京丹後市^{つるお}霧尾遺跡では、奈良時代の九九が記された木簡が出土した。長さ約22cm、幅約5cmで、九九は九の段から五の段までの35の数式が記されている。全国で出土している九九木簡のうち、書かれた文字の数は最多である。丹後国が分割される前の丹波国府や、丹後国に所在した官衙の場所を考えるうえでも重要な発見である。丹後国の中心地を特定する手掛りとなる。

長岡京市^{ながおかきょうせき}乙訓寺で、門及び回廊跡が発見された。これまでの調査成果を踏まえると、現在の寺域を

はるかに上回る、広大な境内を有していたことが明らかになった。伝承では、長岡京期に大規模な増築が行われたとされるが、その実態を示す絵図等の資料は確認できていなかった。今回の調査成果は長岡京期の寺の姿を知る上で重要な手がかりとなった。

向日市長岡京跡左京第661次調査では、一条間小路南北側溝が検出された。溝心間の距離は9mであった。

④平安時代

京都市伏見区長岡京跡・淀水垂大下津町遺跡では、川港「淀津」とみられる遺構群が検出された。淀津は平安時代初期の歴史書『日本後記』などに記述があり、平安京における水運の拠点とされる。調査地は桂川西岸にあたり、今回の調査によって、調査地が弥生時代から明治時代までの約2,000年以上にわたり、人々の営みがほぼ途切れることなく続いていた場所であったことが明らかとなった。主な遺構としては、平安時代後期の瓦が出土した井戸や室町時代の大規模な堀、鉄精錬炉が挙げられる。また、柿経や輸入陶磁器などの多種多様な遺物が出土している。水運に適した桂川・宇治川・木津川の合流域に近いという地理的条件や、土地利用の継続性の高さから、淀津の一面であった可能性が高い。



第48図 鶴尾遺跡出土九九木簡

⑤鎌倉時代・室町時代

福知山市段ノ田遺跡では、整地層の可能性ある土層が検出された。主な出土遺物は、中世の土器・陶磁器、瓦などである。調査地は中世寺院である東禪寺跡の境内と伝わる地点であり、今回出土した遺物と寺院との関係がうかがわれる。

京丹後市佐屋利遺跡では、平安時代後期から鎌倉時代にかけての方形居館跡が検出された。丹後地域で同時期の方形居館跡が見つかるのは初めての事例である。溝や自然流路で区画された遺構群は東西約60m、南北約30mの範囲に広がる。L字型とコ字型の溝で囲まれた範囲には、直径0.2から0.3cmの柱穴が密集しており、検出された柱穴の数は200基に及ぶ。今回の調査では、遺構内や自然流路から、渡来銭や白磁皿などが出土している。付近の荘園を管理する荘官に相当する有力者の存在が想定される。



第49図 佐屋利遺跡方形居館跡完掘状況

⑥安土・桃山時代

京都市上京区^{かみぎょう}上京遺跡では、14世紀から16世紀にかけての東西方向の大規模な溝が見つかった。溝は現在の上立売通に並行して延びており、中世の大路の側溝の可能性はある。溝は幅3から4m、深さ約2mを測り、過去の調査と合わせることで延長は70m以上に及ぶ。室町時代の上京の中心地における街区の一端が明らかとなった。

京都市下京区^{しもこうじわかやまじょう}塩小路若山城跡では、16から17世紀の南北溝が見つかった。溝は幅約3m、深さ0.7から0.9mを測り、確認された延長は約20mにわたる。溝には流水の痕跡があり、2度の掘り直しが確認された。調査地は東塩小路村の東端にあたっており、江戸時代に村の庄屋を務めた若山家の屋敷地を囲った溝であると考えられる。

京都市伏見区^{ふしみじょう}伏見城跡では、城に伴う造成土や石垣を確認した。石垣の積石の一部には矢穴痕跡があった。石垣に伴う遺物は乏しく、石垣の詳細な構築年代を特定することは困難であったが、伏見城の中枢部に近接している調査地で遺存状況の良い石垣が確認できたことは今後の研究に一石を投じるものである。



第50図 伏見城跡石垣検出状況

⑦近世・近代

京都市東山区^{みやうほういん}妙法院では、国宝建造物である庫裏の建造物修理に伴う発掘調査で、桃山時代から明治時代までの竈跡23基が見つかった。妙法院の庫裏では、文禄4（1595）年に豊臣秀吉が千僧供養を行った際に、僧侶の食事を準備したという記録が残る。今回見つかった竈は、この際に使用されたものである可能性があり、庫裏の創建時期を考古学的に確認することができた。

京都市伏見区^{ふしみじょう}淀城跡では、淀藩の家老屋敷跡とされる地点で調査が行なわれ、礎石建物4棟が見つかった。見つかった建物跡は18世紀中頃から後半のものと18世紀末から幕末のものがあり、地盤を0.7mほどかさ上げして同じ配置で再建されていたことがわかった。その際に、元の礎石の上に蛸燭石を乗せ、その上に新しい礎石を据える蛸燭基礎という工法が用いられていることが確認された。また、調査では、幕末の鳥羽・伏見の戦いの際の火災の痕跡も見つかった。淀城跡で火災痕跡が確認されたのは初めてである。



第51図 妙法院庫裡下層竈跡検出状況

(濱喜和子・岡田健吾)

付表 10 平成31・令和元～3年度埋蔵文化財専門職員及び埋蔵文化財包蔵地数市町村別一覧

（令和3年4月1日現在）

市町村	年度等	1				2				3				周知の 埋蔵文化財 包蔵地
		職員	嘱託	財団職員	小計	職員	嘱託	財団職員	小計	職員	嘱託	財団職員	小計	
京 都 府		10		32	42	10		32	42	10		32	42	
京 都 市		12		37	49	12		37	49	12		31	43	1,415
丹 後 市	京 丹 後 市	3			3	3			3	4			4	6,279
	伊 根 町				0				0				0	19
	与 謝 野 町	1	1		2	1	1		2	1	1		2	1,716
	宮 津 市	3			3	3			3	2			2	334
中 丹 市	舞 鶴 市	2			2	2			2	2			2	875
	福 知 山 市	2			2	2			2	2			2	1,721
	綾 部 市	1			1	1			1	1			1	1,379
南 丹 市	亀 岡 市	2			2	2			2	2			2	1,261
	南 丹 市	1			1	1			1	1			1	884
	京 丹 波 町				0				0				0	130
乙 訓 市	向 日 市	1	1	5	7	1	1	5	7	1	1	5	7	95
	長 岡 京 市	1	1	8	10	2	1	8	10	2	1	7	10	170
	大 山 崎 町	2			2	2			2	2			2	33
山 城 市	宇 治 市	3	4		7	3	4		7	3	3		6	305
	久 御 山 町				0				0				0	9
	城 陽 市	1	1		2	1	1		2	2			2	231
	八 幡 市	3	1		4	3	1		4	4	2		6	169
	京 田 辺 市	3			3	3			3	2			2	263
	宇治田原町				0				0				0	87
	井 手 町				0				0				0	103
	木 津 川 市	3			3	3			3	3			3	457
	精 華 町				0				0		1		1	105
	和 束 町				0				0				0	23
	笠 置 町				0				0				0	9
	南 山 城 村				0				0				0	10
合 計		54	9	82	145	54	9	82	145	56	9	75	140	18,068

※周知の埋蔵文化財包蔵地の件数については、公開された道路地図により把握したものである。

※各市町村欄には、市町村単位での周知の埋蔵文化財包蔵地数を示し、合計欄にその総計を示している。

※埋蔵文化財専門職員とは埋蔵文化財に関する専門的な知識や経験をもって、埋蔵文化財行政に係る職務に従事するものを示している。

付表 11 令和3年度埋蔵文化財関係届出・通知件数市町村別一覧

市町村		土木工事による発掘			埋蔵文化財発掘調査			文化財認定
		届出	通知	計	届出	報告	計	
丹後	京丹後市	23 (1)	2	25 (1)	6	4	10	8
	宮津市	16 (1)	0	16 (1)	0	2	2	0
	与謝野町	10 (2)	3 (1)	13 (3)	0	0	0	1
	伊根町	0	0	0	0	0	0	0
	小計	49 (4)	5 (1)	54 (5)	6	6	12	9
中丹	舞鶴市	60 (2)	5 (1)	65 (3)	1	0	1	2
	福知山市	134 (17)	12 (5)	146 (22)	2	15	17	7
	綾部市	27 (4)	7 (1)	34 (5)	0	3	3	2
	小計	221 (23)	24 (7)	245 (30)	3	18	21	11
南丹	亀岡市	174 (17)	4 (1)	178 (18)	6	5	12	7
	南丹市	44 (4)	2 (1)	46 (5)	0	3	3	1
	京丹波町	2	1	3	0	0	0	0
	小計	220 (21)	7 (2)	227 (23)	6	8	15	8
乙訓	向日市	231 (9)	18 (1)	249 (10)	17	14	31	30
	長岡京市	403 (13)	26 (5)	429 (18)	20	0	20	24
	大山崎町	150 (2)	10	160 (2)	0	4	4	2
	小計	784 (24)	54 (6)	838 (30)	37	18	55	56
山城	宇治市	104 (11)	11 (1)	115 (12)	1	2	3	2
	久御山町	13 (1)	0	13 (1)	0	0	0	0
	城陽市	52 (3)	1	53 (3)	2	4	6	8
	八幡市	79 (2)	31 (3)	110 (5)	2	10	12	5
	京田辺市	76 (10)	5 (1)	81 (11)	0	9	9	0
	宇治原町	12 (1)	0	12 (1)	0	0	0	1
	井手町	0	0	0	1	1	2	1
	木津川市	59 (4)	11	70 (4)	0	3	3	1
	精華町	13 (2)	0	13 (2)	0	1	1	0
	和東町	0	0	0	0	0	0	0
	笠置町	0	0	0	0	0	0	0
	南山城村	0	0	0	0	0	0	0
	小計	408 (34)	59 (5)	467 (39)	6	30	36	18
京都市		1,463 (153)	165 (13)	1,628 (166)	33	133	166	39
合計		3,145 (259)	314 (34)	3,459 (293)	91	213	305	141

※ () 内は発掘調査を指示した件数である。

付表 12 土木工事等による発掘届出・通知件数一覧

地域 \ 年度	30	1			2			3		
		届出	通知	小計	届出	通知	小計	届出	通知	小計
丹 後	38	43	10	53	33	3	36	49	5	54
中 丹	183	207	49	256	202	27	229	221	24	245
南 丹	298	198	11	209	195	5	200	220	7	227
乙 訓	909	810	45	855	690	42	732	784	54	838
山 城	423	451	44	495	420	52	472	408	59	467
京都市	1,836	1,582	139	1,721	1,679	128	1,807	1,463	165	1,628
合 計	3,691	3,291	298	3,589	3,219	257	3,476	3,145	314	3,459

付表 13 埋蔵文化財発掘調査届出・報告件数一覧

地域 \ 年度	30	1			2			3		
		届出	報告	小計	届出	報告	小計	届出	報告	小計
丹後	12	4	10	14	6	5	11	6	6	12
中丹	17	4	14	18	2	8	10	3	18	21
南丹	8	3	4	7	4	1	5	6	8	15
乙訓	30	40	9	49	34	18	52	37	18	55
山城	30	4	22	26	5	14	19	6	30	36
京都市	220	43	144	187	31	115	146	33	133	166
合計	317	98	203	301	82	161	243	91	213	305

付表 14 埋蔵文化財認定件数一覧

地域 \ 年度	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3
丹 後	3	3	2	3	2	6	8	10	13	10	9
中 丹	2	5	2	7	5	2	13	4	12	6	11
南 丹	8	5	6	11	4	4	4	2	8	2	8
乙 訓	42	38	46	32	46	35	36	27	35	42	56
山 城	25	23	25	21	13	18	26	28	26	12	18
京都市	53	61	63	41	39	37	31	44	50	24	39
合計	133	135	144	115	109	102	118	115	144	96	141

付表 15 令和4年度埋蔵文化財国庫補助事業一覧

事業主体	発掘調査等		地域の特色ある埋蔵文化財 活用事業
	事業名	内容等	事業内容等
京 都 府	府内調査	各種開発確認、農業基盤整備本調査、詳細分布調査等、出土遺物保存処理	バスツアー、講演会、展覧会、体験学習、普及啓発紙作成
京 都 市	市内調査	各種開発確認、個人住宅、零細企業、保存目的、史跡内容確認、詳細分布調査等	
向 日 市	市内調査	各種開発確認、個人住宅、史跡内容確認、詳細分布調査等、出土遺物保存処理	体験学習、市民考古学講座、講演会、石室公開
長岡京市	市内調査	各種開発確認、保存目的、史跡内容確認、詳細分布調査等、出土遺物保存処理	
大山崎町	町内遺跡	各種開発確認、保存目的、詳細分布調査等	
宇 治 市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的	
城 陽 市	市内遺跡	各種開発確認、史跡内容確認、詳細分布調査等	
八 幡 市	市内遺跡	各種開発確認、史跡内容確認	
京田辺市	市内遺跡	各種開発確認、個人住宅	
木津川市	市内遺跡	各種開発確認、史跡現状変更判断	パンフレット作成、遺跡巡り、解説板QRコード（多言語化対応）作成
井 手 町	町内遺跡	各種開発確認、詳細分布調査等	
亀 岡 市	市内遺跡	各種開発確認、農業基盤整備本調査	
南 丹 市	市内遺跡	各種開発確認	
綾 部 市	市内遺跡	各種開発確認、農業基盤整備本調査、保存目的	
福知山市	市内遺跡	各種開発確認、出土遺物保存処理	
舞 鶴 市	市内遺跡	各種開発確認、農業基盤整備本調査	
宮 津 市	市内遺跡	保存目的	
京丹後市	市内遺跡	各種開発確認、保存目的	
与謝野町	町内遺跡	各種開発確認、保存目的	

付表 16 令和4年度（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター委託事業一覧

【発掘調査・委託事業】

番号	遺跡名	所在地	委託者	関連工事名
1	芝山遺跡ほか	城陽市	西日本高速道路株式会社	道路建設事業
2	小樋尻遺跡ほか	城陽市	国土交通省京都国道事務所	道路建設事業
3	宇治市街遺跡	宇治市	京都府警察本部	施設建設事業
4	木津川河床遺跡	八幡市	府流域下水道事務所	水道施設事業
5	法貴古墳群ほか	亀岡市	府南丹土木事務所	道路建設事業
6	井手遺跡ほか	亀岡市	農林水産省近畿農政局	ほ場整備事業
7	佐屋利遺跡	京丹後市	府丹後土木事務所	道路建設事業
8	栢ノ木遺跡	井手町	井手町	施設建設事業
9	カンジョガキ遺跡ほか	京丹後市	国土交通省福知山河川国道事務所	道路建設事業
10	稚見野遺跡	福知山市	国土交通省福知山河川国道事務所	道路建設事業
11	長岡京跡ほか	長岡京市	府乙訓土木事務所	道路建設事業
12	木津川河床遺跡	八幡市	府山城北土木事務所	道路建設事業
13	犬飼遺跡	亀岡市	府南丹土木事務所	河川改修事業
14	鶴尾遺跡ほか	京丹後市	府丹後土木事務所	道路建設事業
15	北野台遺跡	綾部市	府中丹広域振興局	ほ場整備事業
16	平遺跡	京丹後市	府丹後土木事務所	道路建設事業
17	立山古墳群	京丹後市	府丹後土木事務所	道路建設事業
18	女布遺跡	舞鶴市	府中丹広域振興局	ほ場整備事業
19	平野古墳群	亀岡市	府南丹土木事務所	砂防施設事業
20	幾地城跡	与謝野町	府丹後土木事務所	砂防施設事業
21	栢榴川原遺跡	精華町	国土交通省京都国道事務所	道路建設事業
22	小樋尻遺跡	城陽市	府山城北土木事務所	道路建設事業
23	出土文化財再整理事業	－	府教育委員会	
24	普及啓発事業	－	府教育委員会	

【普及啓発】

1 刊行図書

『京都府遺跡調査報告書』第186・187・188・189・190・191冊

『京都府埋蔵文化財情報』第143・144号

『もっと知りたい 京都の遺跡』第11・12号

2 埋蔵文化財セミナー・シンポジウム

第149回「近年明らかになった南山城の古墳時代」

令和4年9月17日（日） 於：文化バルク城陽

浅井猛宏 「久津川車塚古墳の発掘調査」

上野あさひ 「京田辺市天理山古墳群の発掘調査」

小泉裕司 「城陽市小樋尻遺跡の発掘調査」

第150回「古墳時代の丹後」

令和4年11月23日（水） 於：アグリセンター大宮

肥後弘幸 「この40年の発掘調査で明らかになった丹後の歴史－三大古墳誕生の背景－」

新谷勝行 「網野銚子山古墳の発見とその後の展開－丹後郷土史研究の幕開け－」

高橋克謙 「丹後三大古墳の時代」

第151回「奈良時代創建の大寺院 井手寺と大安寺」

令和5年2月25日（土） 於：京都市呉竹文化センター

福山博章 「橘諸兄建立の大寺院 井手寺塔跡の発掘調査」

原田憲二郎 「平城京の大寺院 大安寺の発掘調査」

上原眞人 「橘諸兄と井手寺」

3 展覧会・体験講座

発掘された京都の歴史 2022

令和4年8月6日～28日 於：向日市文化資料館

令和4年9月6日～19日 於：府立山城郷土資料館

令和4年9月27日～10月10日 於：府立丹後郷土資料館

夏休み考古学体験教室「勾玉をつくろう」

令和4年8月16日～18日 於：公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター研修室

4 共同研究

面 将道・中川和哉「瀬戸内技法の流入時期について」

加藤雅士「木津川流域における文化的景観の現状調査」

加藤雄太「中世丹後の土器・陶磁器」

付表 17 令和3年度発掘調査報告書等刊行状況

【報告書等】

- ・『臨喜古墳群調査報告書』 京都府教育委員会 令和4年3月（京都府八幡市・京田辺市内の首長墓等 30基）
- ・『京都府埋蔵文化財調査報告書（令和3年度）』 京都府教育委員会 令和4年3月（恭仁宮跡、梅ノ木原遺跡、北野台遺跡、余部遺跡、西加舎遺跡、千代川遺跡、坪田14号墳、丹後国分寺跡、鶴尾遺跡、佐屋利遺跡、小倉田遺跡隣接地、福知山城跡、光明寺境内、八木城跡、平安京跡、栢ノ木遺跡）
- ・『山科本願寺跡 発掘調査総括報告書』 京都市文化市民局 令和4年3月
- ・『京都市内遺跡発掘調査報告』 京都市文化市民局 令和4年3月（平安宮内裏内郭回廊跡、平安京左京三条四坊十三町跡、山科本願寺南殿跡第9次・10次・下三橋城跡・周山城跡）
- ・『京都市内遺跡試掘調査報告 令和3年度』 京都市文化市民局 令和4年3月（平安京左京北辺四坊六町跡、平安京左京一条四坊十町跡、平安京左京六条一坊十町跡、平安京右京三条一坊十四町跡、平安京右京四条一坊十町跡、平安京右京四条三坊十四町跡、平安京右京六条三坊十二町跡、史跡仁和寺御所跡、大覚寺古墳群、室町殿跡、山科本願寺南殿跡、長岡京左京二条四坊五町跡、長岡京左京二条四坊十一町跡、史跡・特別名勝西方寺庭園）
- ・『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和3年度』 京都市文化市民局 令和4年3月（平安宮左馬寮・朝堂院・典藥寮・農樂院跡／聚樂遺跡／史跡平安宮跡（内裏跡・朝堂院跡・農樂院跡）、平安京左京二条三坊八町跡／旧二条城跡、平安京左京二条三坊八町跡／旧二条城跡／烏丸九太町遺跡、平安京左京二条四坊七町跡／烏丸九太町遺跡／京都新城跡、平安京左京四條二坊十三町跡、平安京左京六条三坊二町跡／烏丸綾小路遺跡、平安京右京五條三坊四町跡／西院遺跡、上総町遺跡、北山蓮台寺境内・如意寺跡、安祥寺下寺跡、大宅院寺瓦窯跡、烏部（辺）野・史跡隨心院境内・山田板谷古墳群、愛宕山遺跡隣接地）
- ・『史跡 旧二条離宮（二条城） 平安京左京三条二坊一・八町跡 堀川御池遺跡発掘調査報告書』 京都市文化市民局 令和4年3月（史跡旧二条離宮（二条城）、平安京左京三条二坊一・八町跡、堀川御池遺跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2020-7 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 令和3年4月（平安京左京九条三坊八町跡、烏丸町遺跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2020-8 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 令和3年6月（平安京右京六条一坊三町跡、御土居跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2020-9 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 令和3年8月（平安京右京三条二坊十四町跡、西ノ京遺跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2020-10 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 令和3年9月（平安京右京三条一坊六・七町跡、壬生遺跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2020-11 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 令和3年10月（室町遺跡、上京遺跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2020-12 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 令和3年12月（白河街区跡、吉田上大路町遺跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2021-1 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 令和3年7月（平安京左京四条一坊跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2021-2 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 令和3年8月（史跡賀茂別雷神社境内）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2021-3 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 令和3年10月（平安宮中和院跡、聚樂遺跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2021-4 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 令和3年11月（日野谷寺町遺跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2021-6 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 令和4年2月（山城本願寺跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2021-9 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 令和4年3月（伏見城跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2021-10 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 令和4年3月（平安京右京四條三坊三町跡）
- ・『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2021-11 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 令和4年3月（平安京左京八条四坊八町跡、御土居跡）
- ・『京都府遺跡調査報告集』 第182冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 令和3年8月（平安京跡（左京一条三坊三町））
- ・『京都府遺跡調査報告集』 第183冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 令和3年10月（美濃山遺跡 第5

- ～9次)
- ・『京都府道跡調査報告書』第184冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 令和4年3月 (川向道跡第3次・川向南古墳群、葛藤谷口道跡第1・2次、桶泉道跡第1・2次、別当桶泉道跡、堂後道跡、大岩原道跡)
 - ・『京都府道跡調査報告書』第185冊 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 令和4年3月 (大阿道跡第2・3次・春日部道跡第2次)
 - ・『向日市埋蔵文化財調査報告書』第119集 公益財団法人向日市埋蔵文化財センター 令和4年3月 (長岡京跡 西小路古墳)
 - ・『向日市埋蔵文化財調査報告書』第121集 向日市教育委員会 令和4年3月 (長岡京跡左京第602次、第606次、右京第1174次、第1190次、笹屋道跡第14次)
 - ・『向日市埋蔵文化財調査報告書』第122集 向日市教育委員会 令和4年3月 (長岡京跡第535次、第536次、第537次、長岡京跡左京第631次、第633次、第644次、第647次、第648次、第658次、第659次、右京第1216次、第1225次、第1238次、笹屋道跡第15次、久々相道跡第14次、寺戸大塚古墳第12次、中海道道跡第77次、78次)
 - ・『(公財)向日市埋蔵文化財センター年報域』33 令和3年12月 公益財団法人向日市埋蔵文化財センター 令和2年度の組織及び事業概要、長岡京跡第533次調査、南垣内道跡と寺戸城跡の再検討―長岡京跡第106・535次調査を中心に―
 - ・『長岡京市文化財調査報告書』第78冊 長岡京市教育委員会 令和4年3月 (長岡京跡右京第1244次、第1251次、乙調寺第29次(右京第1252次))
 - ・『長岡京市文化財調査報告書』第79冊 長岡京市教育委員会 令和4年3月 (伊賀寺道跡、長岡京跡右京第975次、第1016次、第1033次、第1078次)
 - ・『長岡京市埋蔵文化財センター年報』令和2年度 公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター 令和4年3月 (長岡京跡右京第1205次、第1213次、第1215次、第1217次、第1219次、第1220次、第1221次、第1223次、第1224次、第1227次、第1228次、第1229次、第1231次、第1235次、第1237次、第1239次、第1240次、長岡京跡左京第632次、下海印寺道跡第46次、奥海印寺道跡第29次)
 - ・『大山崎埋蔵文化財調査報告書』62集 大山崎町教育委員会 令和3年10月 (長岡京跡右京第1234次)
 - ・『大山崎埋蔵文化財調査報告書』63集 大山崎町教育委員会 令和3年10月 (山崎城跡第3次)
 - ・『大山崎埋蔵文化財調査報告書』64集 大山崎町教育委員会 令和3年10月 (長岡京跡右京第1226次)
 - ・『大山崎埋蔵文化財調査報告書』66集 大山崎町教育委員会 令和4年3月 (長岡京跡右京第1242次、大山崎町第79次道跡確認、山城国府跡第79次、第80次)
 - ・『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第80集 城陽市教育委員会 令和4年3月 (久津川車塚古墳・横道道跡)
 - ・『京田辺市埋蔵文化財調査報告書』第43集 京田辺市 令和4年3月 (北ノ谷古墳群・奥山田池道跡)
 - ・『天理山古墳群発掘調査報告書』京田辺市 令和4年3月 (天理山古墳群)
 - ・『八幡市埋蔵文化財発掘調査報告』第69集 八幡市教育委員会 令和4年3月 (史跡石清水八幡宮境内大塔跡第3次、女郎花道跡第19次、橋本陣屋第2次、西車塚古墳第6次)
 - ・『八幡市埋蔵文化財発掘調査報告』第70集 八幡市教育委員会 令和4年3月 (上奈良道跡第7次第7・2次)
 - ・『令和3年度本津川市内道跡発掘調査報告書』(本津川市埋蔵文化財調査報告書第26集) 本津川市委員会 令和4年3月 (橋井大塚山古墳、本津道跡第18次)
 - ・『史跡高麗寺跡整備報告書』(本津川市埋蔵文化財調査報告書第27集) 本津川市委員会 令和4年3月 (史跡高麗寺跡)
 - ・『和束町史編さん事業資料調査報告書』第2号 和束東部広域連合教育委員会 令和4年3月
 - ・『亀岡市文化財調査報告』第101集 亀岡市教育委員会 令和4年3月 (井手道跡第5次)
 - ・『亀岡市文化財調査報告』第102集 亀岡市教育委員会 令和4年3月 (篠栗生産道跡群)
 - ・『福知山市文化財調査報告』第74集 福知山市教育委員会 令和4年3月 (段ノ田道跡(伝東禅寺跡))
 - ・『綾部市文化財調査報告』第46集 綾部市教育委員会 令和4年3月 (山家城址周辺史跡)
 - ・『綾部市文化財調査報告』第47集 綾部市教育委員会 令和4年3月 (北野台道跡第2次、4次)
 - ・『令和3年度与謝野町国庫補助事業発掘調査報告書』与謝野教育委員会 令和4年3月 (地蔵山道跡発掘調査第10次、日吉ヶ丘道跡発掘調査第8次)
 - ・『京丹後市文化財調査報告書』第24集 京丹後市教育委員会 令和4年3月 (浜詰道跡第5～7次、東風ヶ奥道跡第1次)
 - ・『平安京右京六条三坊二町跡・西院道跡』イビソク京都市内道跡調査報告書第25巻 株式会社イビソク 令和3年6月
 - ・『平安京右京九条二坊八町跡発掘調査報告書』安西工業株式会社 令和3年6月
 - ・『平安京右京六条三坊一町跡・西院道跡』(文化財サービス発掘調査報告書第16集) 株式会社文化財サービス 令和3年5月

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和4年度）

- ・「平安京右京八条二坊七町跡・衣田町遺跡（文化財サービス発掘調査報告書第17集）」株式会社文化財サービス 令和3年5月
- ・「一ノ井遺跡（文化財サービス発掘調査報告書第18集）」株式会社文化財サービス 令和3年6月
- ・「平安京右京六条三坊一町跡・西院遺跡（文化財サービス発掘調査報告書第19集）」株式会社文化財サービス 令和3年10月
- ・「平安京左京四条四坊一町跡・烏丸御池遺跡（文化財サービス発掘調査報告書第20集）」株式会社文化財サービス 令和3年10月
- ・「平安京左京三条四坊一町跡（文化財サービス発掘調査報告書第21集）」株式会社文化財サービス 令和3年12月
- ・「平安京左京四条二坊十五町跡・本能寺城跡（文化財サービス発掘調査報告書第22集）」株式会社文化財サービス 令和4年3月
- ・「上京遺跡・寺ノ内旧城（文化財サービス発掘調査報告書第23集）」株式会社文化財サービス 令和4年3月
- ・「平安京左京七条二坊十五町跡 国際文化財株式会社 令和3年12月 下京区西洞院町における埋蔵文化財発掘調査
- ・「亀岡盆地における群集Ⅱ 法貴峠古墳 法貴古墳群 宮家古墳群 宮家南古墳群」6 龍谷大学文学部文化財学考古学研究会 令和4年3月
- ・「同志社大学歴史資料館館報」第24号 同志社大学歴史資料館 令和3年6月
- ・「相国寺旧城内・公家町遺跡発掘調査報告書」第19集 同志社大学歴史資料館 令和4年3月

【雑誌等】

- ・「京都府埋蔵文化財情報」第140号 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 令和3年9月
「令和元年度における京都府内の埋蔵文化財調査」（簡井崇史）／研究ノート「上京警察署と府廳のうつわ」（加藤雄太）「共同研究40年」（小池寛）／令和2年度発掘調査略報「平ヶ岡古墳群第2次」名村成彦「新町遺跡第2次」（竹原一彦）「権見野遺跡第3次」（黒坪一樹）「水主神社東遺跡第14次」（岩松保）「小槌尻遺跡第10次」（小泉裕司・中尾真琴）「小槌尻遺跡第10次（C5区）第11次（C6区）」（福山博章）「芝山遺跡・芝山古墳群第21次」（菅博絵）「堂後遺跡第1次・大岩原遺跡第1次」（加藤雅士）「長岡京跡調査だより・136」（肥後弘幸）
「現地公開（令和3年2月～令和3年7月）」（簡井崇史）「普及啓発事業（令和3年2月～令和3年7月）」（簡井崇史）「センターの動向」（令和3年2月～令和3年7月）
- ・「京都府埋蔵文化財情報」第141号 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 令和3年12月
「令和2年度における京都府内の埋蔵文化財調査」（肥後弘幸）「観音郡井手町榎木道跡第13次調査－井手寺塔跡の発見－」（福山博章）／研究ノート「横式石室導入前後の須恵器高杯に関する一考察」（野島悠之）
研究ノート「初出考古資料「司馬温公案」伏見人形とその周辺」（加藤雄太・小池 寛）／令和3年度発掘調査略報「下木主道跡第12次」（加藤雅士）「金生寺遺跡第9次」（荒木瀬奈）「長岡京跡（石京第1233・1241次）・間田遺跡」（松井 忍）
「葛瀬谷口遺跡第2次」（竹原一彦）「長岡京跡調査だより・137」（肥後弘幸）「現地公開（令和3年8月～令和3年11月）」「普及啓発事業（令和3年8月～令和3年11月）」「センターの動向（令和3年8月～令和3年11月）」
- ・「京都府埋蔵文化財情報」第142号 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 令和4年3月
／研究ノート「城陽市芝山遺跡・芝山古墳群の土地利用について」（菅博絵）／研究ノート「京都府庁の焼瓦建物について（上）」（井飯良太・加藤雄太）／研究ノート「発掘調査からみた近世民家成立に関わる事例紹介」（桐井理輝）／研究ノート「城陽市芝山遺跡からみた久津川古墳群」（小池寛）／令和3年度発掘調査略報「上野遺跡第4次」（加藤雄太）「外村遺跡」（輪山正人）「権見野遺跡第4次」（黒坪一樹）「金生寺第10次」（引原茂治）「犬飼遺跡第10次（L地区）」（菅博絵）「木津川河床第37次」（大石雅典）「長岡京調査だより・138」（肥後弘幸）「現地公開（令和3年12月～令和4年2月）」「普及啓発事業（令和3年12月～令和4年2月）」「センターの動向（令和3年12月～令和4年2月）」
- ・「京都市埋蔵文化財研究所 2022 研究紀要 13」京都市埋蔵文化財研究所 令和4年3月福徳院の跡地に関する一考察（松永修平） 北山七重大塔（特別史跡・特別名勝金閣寺庭園内）土壇（亀腹）毀損問題について（東洋一） 令和2年度25次調査の問題点－「資料紹介」一乗寺向畑町遺跡出土、縄文時代後期の土偶（高橋薫）「資料紹介」最勝寺推定地出土瓦の再検討（上村和直）

【図録等】

- ・「京都遺跡さんぽ」公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 令和4年3月

付表 18 令和3年度埋蔵文化財発掘調査届出・報告一覧

(92 条に基づく届出)

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	着手時期
1	長岡京跡・雲宮遺跡	長岡京市馬場六ノ坪1-4	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	中島啓夫・山下研・大高義寛、原秀樹、山本輝雄、岩崎誠	令和3年4月5日～ 令和3年11月10日
2	稚児野遺跡	福知山市夜久野町井田	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川和哉・黒坪一樹	令和3年4月20日～ 令和3年10月30日
3	平安京跡	京都市中京区西ノ京壺ノ内町8-1	学校法人花園学園	高橋克壽	令和3年2月8日～ 令和3年10月30日
4	平安京跡・烏丸御池遺跡	京都市中京区高倉通三条下る丸屋町160番2ほか	株式会社文化財サービス	辰巳陽一	令和3年4月1日～ 令和3年7月13日
5	平安京跡	京都市下京区油小路四条下る石井筒町536-1番地	関西文化財調査会	平尾政幸	令和3年4月16日～ 令和3年8月3日
6	平安京跡	京都市下京区観音寺町8-11ほか	国際文化財株式会社	河野凡洋	令和3年4月5日～ 令和3年6月9日
7	水主神社東遺跡・小樋尻遺跡	城陽市寺田大坪・富野久保田・小樋尻・荒見田地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川和哉・小泉裕司・岩松保	令和3年4月26日～ 令和4年2月25日
8	下水主遺跡	城陽市水主大將軍・倉貝、寺田金尾	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	中川和哉・加藤雅士	令和3年5月10日～ 令和3年8月27日
9	别当福泉遺跡	福知山市夜久野町今西中	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	吹田直子・嶋山正人	令和3年5月10日～ 令和3年7月15日
10	大剣遺跡・法貴北古墳群	亀岡市曾我部町大剣地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	村田和弘・竹村亮仁・清水真好	令和3年5月18日～ 令和3年10月28日
11	幾坂古墳群ほか	京丹後市大宮町周知地先	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	高野陽子・増田孝彦・名村威彦	令和3年5月10日～ 令和4年2月28日
12	佐屋利遺跡・三分井根遺跡	京丹後市峰山町新町・荒山地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	吹田直子・三好博喜・面将道・野島悠之	令和3年5月17日～ 令和4年1月27日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和4年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	着手時期
13	植物園北遺跡	京都市北区上賀茂梅ヶ辻町7・7-1～3・5、30-3、31-7・8、上賀茂岡本町36	株式会社四門京都支店	日紫喜壽重	令和3年5月10日～ 令和3年5月31日
14	長岡京路・更ノ町遺跡・今里遺跡	長岡京市今里更ノ町32ほか6筆	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	山下研	令和3年5月10日～ 令和3年8月27日
15	長岡京路・間田遺跡	長岡京市神足地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	高野陽子・岡崎研一	令和3年4月26日～ 令和3年9月16日
16	菖蒲谷口遺跡	舞鶴市万願寺地先	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	高野陽子・竹原一彦	令和3年5月10日～ 令和3年7月28日
17	平安京路・御土居跡	京都市下京区郷之町153-7ほか	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	岡田麻衣子・南孝雄・小楢山一良	令和3年4月26日～ 令和3年9月24日
18	平安京路・二条殿御池城跡・烏丸御池遺跡	京都市中京区両替町通押小路下る金吹町454、455、457-5	株式会社アルケス	石井明日香	令和3年5月6日～ 令和3年7月31日
19	長岡京路・羽東師志水町遺跡	京都市伏見区羽東師志水町61-2ほか	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	布川豊治	令和3年5月6日～ 令和3年10月29日
20	大岡遺跡	亀岡市曾我部町大岡	公益財団法人京都市埋蔵文化財調査研究センター	村田和弘、引原茂治、中尾真琴	令和3年6月1日～ 令和3年9月30日
21	金生寺遺跡・井手遺跡	亀岡市曾我部町中中小路ほか	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	村田和弘、山本梓、荒木瀬奈	令和3年5月27日～ 令和4年1月31日
22	長岡京路・神足遺跡・中世勝龍寺城跡	長岡京市東神足二丁目223	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	原秀樹	令和3年5月24日～ 令和3年6月18日
23	長岡京路・間田古墳群	長岡京市間田一丁目140-1、146-1の一部	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	大高義寛	令和3年6月1日～ 令和3年7月26日
24	長岡京路・間田城ノ内遺跡	長岡京市天神一丁目415番4ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	岩崎 誠	令和3年6月3日～ 令和3年7月21日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	着手時期
25	山科本願寺跡	京都市山科区西野山階町11番地の2	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	鈴木康高	令和3年5月10日～ 令和3年7月20日
26	平安京跡・妙満寺の構え跡	京都市下京区堀川通四条下る四条堀川町257ほか	古代文化調査会	小松武彦	令和3年5月25日～ 令和3年7月7日
27	上京遺跡・新町校地遺跡	京都市上京区西大路町	学校法人同志社	若林邦彦・浜中邦弘	令和3年6月7日～ 令和3年6月11日
28	平安京跡・西院遺跡	京都市右京区西院西寿町24番1、23番、23番1	株式会社文化財サービス	山内伸浩	令和3年6月26日～ 令和3年8月4日
29	吉田本町遺跡	京都市左京区吉田本町	京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター	千葉 豊	令和3年7月28日～ 令和3年7月31日
30	日野谷寺町遺跡	京都市伏見区日野谷寺町81-1、82-1	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	松永修平	令和3年5月17日～ 令和3年6月11日
31	稻ノ木遺跡	井手町大字井手小字東高月地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	村田和弘・福山博章	令和2年12月17日～ 令和3年2月25日
32	長岡京跡・岸ノ下遺跡・森本遺跡	向日市寺戸町東野辺60番1、60番5の一部	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	梅本康広・田原葉月	令和3年6月17日～ 令和3年6月30日
33	長岡京跡・鶏冠井遺跡	向日市鶏冠井町西金村5番、19番、20番	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	梅本康広・田原葉月	令和3年6月24日～ 令和3年7月16日
34	長岡京跡・御屋敷遺跡・内裏下層遺跡	向日市鶏冠井町東井戸1番1ほか	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	中島信親	令和3年6月28日～ 令和3年7月9日
35	上野遺跡	京丹後市丹後町上野440番地北西隣接地、444番地、451番地	南山大学考古学研究室人文学部人類文化学科	南山大学考古学研究室（人文学部人類文化学科）上峯 篤史	令和3年8月16日～ 令和3年9月5日
36	長岡京跡・今里遺跡	長岡京市今里彦井31、31-7の一部ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	原 秀樹	令和3年7月26日～ 令和3年8月4日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和4年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	着手時期
37	長岡京跡	京都市伏見区羽束師菱川町544番1	株式会社地域文化財研究所	福永信雄・江崎周二郎	令和3年7月26日～ 令和3年8月11日
38	長岡京跡	向日市森本町野田25	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	梅本康広・田原兼月	令和3年8月17日～ 令和3年9月30日
39	長岡京跡	向日市森本町上町田16-1	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	梅本康広・田原兼月	令和3年8月17日～ 令和3年9月30日
40	長岡京跡	向日市上植野町尻尻15ほか4筆	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	梅本康広	令和3年8月24日～ 令和3年9月17日
41	長岡京跡・井ノ内遺跡	長岡京市井ノ内南内畑1、1-1、1-2、1-3	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	大高義寛	令和3年9月1日～ 令和3年10月19日
42	平安宮跡・聚楽遺跡	京都市上京区小山西町899ほか2筆	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	南孝雄・中谷俊哉	令和3年8月2日～ 令和3年8月30日
43	伏見城跡	京都市伏見区桃山町鍋島、立売ほか（JR桃山駅前広場）	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	柏田有香・渡邊季哉	令和3年8月17日～ 令和3年11月29日
44	音羽・五条取置跡・藤平宮	京都市東山区六波羅裏門通東入竹村町151-1ほか	立命館大学文学部考古学・文化遺産専攻	木立雅郎	令和3年8月16日～ 令和3年9月10日
45	春日部遺跡	亀岡市曾我部町中伏使・前通	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	村田和弘・荒木蘭奈	令和3年9月1日～ 令和4年2月28日
46	上野遺跡	京丹後市丹後町上野地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	吹田直子・面将道・加藤雄太・野島悠之	令和3年8月25日～ 令和3年12月24日
47	平安京跡	京都市中京区間之町通二条下る鍵屋町488番、492番、中京区押小路通高倉西入左京町135番	株式会社文化財サービス	大西晃晴	令和3年8月20日～ 令和3年9月30日
48	白河街区跡	京都市左京区聖護院山王町44ほか	関西文化財調査会	小田桐 淳	令和3年9月1日～ 令和4年2月28日
49	長岡京跡・御屋敷遺跡、内裏下層遺跡	向日市鶏冠井町東戸1番1ほか	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	中島信親・八軒かほり	令和3年8月23日～ 令和3年9月30日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	着手時期
50	長岡京跡	長岡京市友岡二丁目126-1、128、430の各一部	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	山下 研	令和3年9月6日～ 令和3年9月20日
51	長岡京跡・井ノ内遺跡	長岡京市粟生川久保地内	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	原 秀樹	令和3年9月2日～ 令和3年9月29日
52	長岡京跡・神足遺跡・中世勝龍寺城跡	長岡京市東神足二丁目215-6・7	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	中島晋夫	令和3年9月27日～ 令和3年10月1日
53	金生寺遺跡	亀岡市曾我部町法貴深町ほか	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	村田和弘・引原茂治	令和3年10月4日～ 令和4年2月25日
54	笹屋遺跡	向日市寺戸町向畑45番1(一部)、45番2(一部)、49番1、49番2、52番17、52番18	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	梅本康広・八軒かほり	令和3年7月12日～ 令和3年7月27日
55	久々相遺跡	向日市寺戸町瓜生19番1、22番6	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	八軒かほり	令和3年9月13日～ 令和3年10月5日
56	長岡京跡	長岡京市神足掛樋9-1の一部、9-5ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	山下 研	令和3年10月4日～ 令和3年10月15日
57	長岡京跡・雲宮遺跡	長岡京市神足ミドロ12-2、13-2、13-4	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	原 秀樹	令和3年10月18日～ 令和3年11月25日
58	笹屋遺跡	向日市寺戸町向畑45番1(一部)、45番2(一部)、49番1、49番2、52番17、52番18	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	梅本康広・八軒かほり	令和3年9月27日～ 令和3年10月15日
59	外村遺跡	京丹後市弥栄町溝谷地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	吹田直子・崎山正人	令和3年10月27日～ 令和4年2月28日
60	長岡京跡・今里遺跡・乙訓寺跡	長岡京市今里三丁目120、120-1、120-2、120-3の一部	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	中島晋夫	令和3年11月1日～ 令和3年12月17日
61	木津川河床遺跡	八幡市八幡地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	高野陽子・大石雅興	令和3年6月1日～ 令和3年9月29日
62	木津川河床遺跡	八幡市八幡焼木	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	高野陽子・竹原一彦	令和3年11月8日～ 令和4年2月25日
63	龜尾遺跡	京丹後市峰山町矢田から丹波地内	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	吹田直子・三好博喜・大石雅興	令和3年11月27日～ 令和4年2月28日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和4年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	着手時期
64	長岡京路・友岡遺跡	長岡京市友岡一丁目2-4 地内	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	山下 研	令和3年11月1日～ 令和3年11月25日
65	奥海印寺遺跡・ 海印寺跡	長岡京市奥海印寺大見坊6 -1、6-2、6-3	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	大高義寛	令和3年11月4日～ 令和3年11月19日
66	長岡京路・淀水 垂大下津町遺跡	京都市伏見区淀水垂町地先	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	鈴木康高・松 永修平・伊藤 潔	令和3年11月4日～ 令和4年3月31日
67	平安京路・本能 寺城跡	京都市中京区西洞院通六角 下る池須町415ほか	株式会社文化財サービス	菅田 薫・早 見由槻	令和3年10月11日～ 令和3年12月7日
68	吉田橋町遺跡	京都市左京区吉田橋町	京都大学大学院文学研究科	内記 理	令和3年12月13日～ 令和4年4月12日
69	久々相遺跡	向日市寺戸町瓜生19番1、 22番6	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	八軒かほり	令和3年11月4日～ 令和3年11月26日
70	長岡京路・開田 城ノ内遺跡	長岡京市長岡二丁目434番 2、434番4、436番8、 450番2	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	大高義寛	令和3年12月6日～ 令和4年1月14日
71	大例遺跡	亀岡市曾我部町法貴中溝、 茶屋下又	公益財団法人京都市埋蔵文化財調査研究センター	村田和弘・引 原茂治	令和3年12月13日～ 令和4年2月25日
72	宇治市街遺跡(川 西地区)	宇治市宇治宇文字	公益財団法人京都市埋蔵文化財調査研究センター	高野陽子・加 藤雅士	令和3年12月6日～ 令和4年2月25日
73	寺戸大塚古墳	向日市寺戸町芝山2番3ほ か3筆	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	梅本康広・田 原葉月・八軒 かほり	令和3年10月18日～ 令和4年3月31日
74	長岡京路・淀城 跡	京都市伏見区淀池上町128	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	中谷俊哉・小 樽山一真	令和3年11月22日～ 令和3年2月18日
75	新町校地遺跡・ 上京遺跡	京都市上京区西大路町	学校法人同志社	若林邦彦・浜 中邦弘・佐伯 公子・森川美 香	令和3年12月6日～ 令和4年6月30日
76	平安京路	京都市下京区西酢屋町16番	学校法人龍谷大学	國下多美樹・ 木許 守	令和4年1月10日～ 令和4年3月31日
77	長岡京路・開田 遺跡	長岡京市開田三丁目616、 620、620-4、620-7ほか	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	山下 研	令和4年1月6日～ 令和4年3月31日
78	上京遺跡・寺ノ 内旧城	京都市上京区寺之内通新町 西入妙顕寺前町515番地14	株式会社文化財サービス	田邊貴教	令和4年1月5日～令 和4年3月31日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	着手時期
79	中海道遺跡	向日市物集女町中条23番1、23番4	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	田原素月	令和3年11月24日～ 令和3年12月17日
80	中海道遺跡	向日市物集女町中条50-1	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	八軒かほり	令和3年12月15日～ 令和3年12月17日
81	長岡京跡	長岡京市間田一丁目地内	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	原 秀樹	令和4年1月17日～ 令和4年3月31日
82	平安京跡	京都市右京区山ノ内苗町37番地 京都外大西高等学校	学校法人京都外国語大学	南 博史	令和4年1月5日～ 令和4年4月30日
83	平安京跡	京都市南区八条寺内町28、28-1	古代文化調査会	小松武彦	令和4年1月6日～ 令和4年3月26日
84	長岡京跡・石田遺跡	向日市森本町石田25番2の一部	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	中島信親	令和4年1月12日～ 令和4年1月14日
85	長岡京跡・円山遺跡・西小路遺跡	向日市上植野町円山1番	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	田原素月	令和4年1月12日～ 令和4年1月14日
86	長岡京跡・円山遺跡・西小路遺跡	向日市上植野町円山1番	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	田原素月	令和4年1月27日～ 令和4年2月18日
87	六波羅政庁跡・法住寺殿跡・方広寺跡	京都市東山区茶屋町527 京都国立博物館内	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	小僧山一良	令和4年1月17日～ 令和4年3月18日
88	平安京跡・御土居跡	京都市下京区中堂寺南町130番1の一部	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	松吉祐希・布川豊治	令和4年1月18日～ 令和4年3月31日
89	平安京跡	京都市下京区堺町通松原下る鍛冶屋町254番地	株式会社アルケス	石井明日香	令和4年2月7日～ 令和4年4月29日
90	長岡京跡・下海印寺遺跡	長岡京市下海印寺北条40-1ほか4筆、市有地	公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター	大高義寛	令和4年3月1日～ 令和4年5月9日
91	平安京跡	京都市右京区花園蔵ノ下町9番地	株式会社地域文化財研究所	影山美智子、江崎周二郎、福永信雄	令和4年2月21日～ 令和4年3月22日

(99条に基づく報告)

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
1	平安京跡・烏丸御池遺跡	京都市中京区高倉通三条下る丸尾町160番地ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年1月26日～ 令和3年1月26日
2	大塚遺跡	京都市山科区大塚野溝町86～2、86～3、86～21、86～50、86～103、86～104、89～3、102	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年2月16日～ 令和3年2月16日
3	鳥羽離宮跡	京都市伏見区竹田真幡木町91、92	京都市文化市民局	清水早織	令和3年1月28日～ 令和3年1月28日
4	山科本願寺南殿跡	京都市山科区音羽伊勢宿町32～54、32～85	京都市文化市民局	清水早織	令和3年1月29日～ 令和3年1月29日
5	聚楽第跡・上京遺跡	京都市上京区一条通松原町西入鏡石町1番1、1番2	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年2月9日～ 令和3年2月9日
6	一ノ井遺跡	京都市右京区太秦垣内町3～7ほか	京都市文化市民局	清水早織	令和3年2月8日～ 令和3年2月8日
7	鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	京都市伏見区中島御所ノ内町20、21、22	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和3年3月3日～ 令和3年3月3日
8	山科本願寺南殿	京都市山科区音羽伊勢宿町26～5	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和3年1月25日～ 令和3年2月15日
9	平安京跡	京都市下京区機喜寺町8～118～19、821、8～40、8～41	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和3年3月4日～ 令和3年3月5日
10	長岡京跡	京都市伏見区久我西出町10～4、10～5	京都市文化市民局	新田和央	令和3年2月24日～ 令和3年2月25日
11	平安京跡・烏丸御池遺跡	京都市下京区石井筒町536～1	京都市文化市民局	熊井亮介	令和3年2月17日～ 令和3年2月17日
12	平安京跡	京都市南区東九条南河原町5～1ほか	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年3月8日～ 令和3年3月8日
13	平安京跡	京都市下京区正面通西洞院西入植松町344～1ほか	京都市文化市民局	新田和央	令和3年10月19日～ 令和3年10月19日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
14	伏見城跡・桃陵遺跡	京都市伏見区片桐町1	京都市文化市民局	鈴木久史	令和2年10月26日～ 令和2年12月15日
15	平安京跡	京都市下京区川端町、下之町、東之町、西之町、上之町	京都市文化市民局	奥井智子	令和2年7月28日～ 令和3年3月10日
16	山科本願寺跡	京都市山科区西野山階町11-2	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年3月12日～ 令和3年3月12日
17	平安京跡・二条殿御池城跡・烏丸御池遺跡	京都市中京区西替町通押小路下る金吹町454、455、457-5	京都市文化市民局	新田和央	令和3年2月26日～ 令和3年2月26日
18	植物園北遺跡	京都市北区上賀茂梅ヶ辻町7、7-1、7-2（一部）、7-3（一部）、7-5、27-2（一部）、30-3、31-7（一部）、31-8、上賀茂岡本町36	京都市文化市民局	清水早織	令和3年3月22日～ 令和3年3月22日
19	日野谷寺町遺跡	京都市伏見区日野谷寺町81-1、82-1	京都市文化市民局	清水早織	令和3年3月25日～ 令和3年3月25日
20	平安京跡・公家町遺跡・京都新城跡	京都市上京区京都御苑2番地の一部	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年3月23日～ 令和3年3月24日
21	橋本陣屋跡	八幡市橋本焼野7-2の一部	八幡市教育委員会	太田喬士・川崎文子	令和3年1月12日～ 令和3年3月10日
22	瓜生野古墳群	南丹市園部町瓜生野	京都府教育委員会	中居和志・北大山大照・川崎雄一郎・岡田健吾	令和2年6月4日～ 令和3年3月31日
23	上ヶ市遺跡	福知山市川北ほか	京都府教育委員会	中居和志・北大山大照・川崎雄一郎	令和2年7月27日～ 令和3年3月31日
24	福知山城跡	福知山市字内記	京都府教育委員会	中居和志・岡田健吾	令和2年9月1日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和4年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
25	矢田遺跡	亀岡市下矢田町正清ほか	京都府教育委員会	北山大照	令和2年11月1日～ 令和2年12月24日
26	千代川遺跡	亀岡市千代川町千原ほか	京都府教育委員会	北山大照・川崎雄一郎・岡田健吾	令和2年12月1日～ 令和3年3月31日
27	北野台遺跡・梅ノ木原遺跡	綾部市位田町北野台ほか	京都府教育委員会	中居和志・北山大照・川崎雄一郎	令和2年11月2日～ 令和3年3月31日
28	寺町旧城	京都市中京区榎木町451-1ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年3月16日～ 令和3年3月16日
29	長岡京跡	京都市伏見区羽束師菱川町544-1	京都市文化市民局	黒須重希子	令和3年4月5日～ 令和3年4月5日
30	平安宮跡	京都市上京区下長者町通土屋町西入二本松町2	京都市文化市民局	黒須重希子	令和3年4月6日～ 令和3年4月6日
31	貞観寺跡・深草坊町遺跡	京都市伏見区深草僧坊町93-1、93-4、94の一部、95-1、110-1、111-1の一部	京都市文化市民局	黒須重希子	令和3年4月9日～ 令和3年4月9日
32	平安京跡	京都市右京区山ノ内苗町37番地	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年3月17日～ 令和3年3月19日
33	大覚寺4号墳・大覚寺古墳群	京都市右京区嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-1、10-4	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和3年1月5日～ 令和3年2月3日
34	長岡京跡	京都市伏見区久我西出町13-6	京都市文化市民局	新田和央	令和3年4月19日～ 令和3年4月19日
35	平安京跡	京都市下京区高辻通大宮西入坊門町843-1、843-2	京都市文化市民局	新田和央	令和3年4月20日～ 令和3年4月20日
36	平安宮跡・繁楽遺跡	京都市上京区小川町899ほか2筆	京都市文化市民局	黒須重希子	令和3年4月7日～ 令和3年4月8日
37	大蔵道跡・大蔵城跡	京都市南区久世大蔵町377-1、377-2、378、380の一部、384の一部、386-1の一部、389-1の一部、392-2の一部	京都市文化市民局	新田和央	令和3年4月21日～ 令和3年4月21日
38	大蔵道跡・下久世構跡・中久世道跡	京都市南区久世殿城町518	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年5月6日～ 令和3年5月6日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
39	平安京跡	京都市南区吉祥院中河原里北町11ほか	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年4月27日～ 令和3年4月27日
40	平安京跡・壬生遺跡	京都市中京区西ノ京小倉町3-8、3-9	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年4月26日～ 令和3年4月26日
41	深草寺跡・真観寺跡・深草坊町遺跡・安楽行院跡	京都市伏見区深草僧坊町46番1、46番8、51番、54番3、56番3	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年5月7日
42	平安京跡・旧本能寺の構え跡	京都市中京区大宮通六角下る六角大宮町217、219、219-1	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和3年4月15日
43	長岡京跡・東土川遺跡	京都市南区久世東土川町243、575	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和3年4月16日
44	白河北殿跡・白河街区跡	京都市左京区九太町通川端東入東九太町23-4	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年4月28日
45	寺田城跡	城陽市寺田中大小114番地	城陽市教育委員会	浅井猛宏	令和3年4月2日
46	杉谷遺跡	京田辺市大住池平88	京田辺市長	吉兼千陽・上野あさひ	令和3年3月25日
47	天理山古墳群	京田辺市藪山垣外1番3ほか	京田辺市長	上野あさひ	令和3年4月7日～ 令和3年5月31日
48	長岡京跡・宮脇遺跡	大山崎町字下植野小字梅ヶ畑24番3	大山崎町教育委員会	古閑正浩	令和3年4月26日～ 令和3年6月20日
49	浜詰遺跡	京丹後市網野町浜詰672番地	京丹後市教育委員会	岡林峰夫・奥勇介	令和3年5月6日～ 令和3年6月30日
50	森垣外遺跡	精華町大字南稲八妻小字藪山51番地	精華町教育委員会	大竹 素	令和3年5月11日
51	立石遺跡	福知山市字私市小字上り立1	福知山市教育委員会	松本学博・鷺田紀子	令和3年4月5日～ 令和3年5月10日
52	前田遺跡	福知山市字前田小字山ノコシ1391番地2ほか	福知山市教育委員会	鷺田紀子	令和3年4月14日～ 令和3年4月22日
53	石本東遺跡	福知山市字下天津	福知山市教育委員会	松本学博	令和3年5月6日～ 令和3年5月11日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和4年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
54	河守遺跡	福知山市字河守	福知山市教育委員会	鷲田紀子	令和3年5月17日～ 令和3年6月30日
55	福知山城跡	福知山市字内記57番14	福知山市教育委員会	鷲田紀子	令和3年5月21日～
56	篠尾遺跡	福知山市字篠尾小字大道830番地1ほか	福知山市教育委員会	鷲田紀子	令和3年5月25日
57	伏見城跡	京都市伏見区桃山町鍋島7-1 桃山町立売1-5ほか	京都市文化市民局	清水早織	令和3年5月18日
58	平安京跡・西院遺跡	京都市右京区西院西寿町23-1、23、24-1	京都市文化市民局	清水早織	令和3年5月21日
59	平安京跡	京都市中京区西ノ京新堀町7	京都市文化市民局	熊井亮介	令和3年5月14日
60	法性寺跡	京都市東山区本町十五丁目787番1	京都市文化市民局	熊井亮介	令和3年5月10日
61	平安京跡	京都市中京区西ノ京西月光町1-13ほか	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和3年6月7日
62	法性寺跡	京都市東山区福福上高松町60	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和3年6月10日
63	長岡京跡	京都市伏見区久我御旅町9-8ほか11筆	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年6月2日～ 令和3年6月9日
64	伏見城跡	京都市伏見区桃山町本田上野74番1・2・3	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和3年5月26日
65	伏見城跡	京都市伏見区西大手町318-5、318-6	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和3年5月28日
66	嵯峨遺跡	京都市右京区嵯峨天龍寺若宮町24の一部、24-2の一部	京都市文化市民局	新田和央	令和3年6月16日
67	平安京跡	京都市中京区西ノ京永本町14-59、14-60	京都市文化市民局	新田和央	令和3年6月17日
68	平安京跡・三条せと物や町跡	京都市中京区弁慶石町63	京都市文化市民局	新田和央	令和3年6月18日
69	長岡京跡	京都市南区久世壱山町313、314	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年6月28日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
70	上賀茂中山町遺跡	京都市北区上賀茂中山町 12、13、14 - 2、15、87 - 6	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和3年6月21日
71	山科本願寺南殿跡	京都市山科区宮羽伊勢宿町 33 - 43	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和3年6月23日
72	平安京跡	京都市右京区西京極中沢町 9 番 1 の一部、18 番、18 番 5、19 番 1、73 番、74 番	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年6月30日
73	伏見城跡	京都市伏見区桃山町永井久太郎 63 番 4 はか地内	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年7月1日
74	平安京跡	京都市中京区間之町通二条下る鍵屋町 488 番・492 番、同区押小路通高倉西入左京町 135 番	京都市文化市民局	清水早織	令和3年7月5日
75	平安京跡	京都市右京区西院太田町 60 番 1、60 番 2	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年7月8日
76	平安京跡・御土居跡	京都市下京区朱雀分木町 80 番地の一部	京都市文化市民局	清水早織	令和3年7月6日
77	平安京跡	京都市中京区西ノ京上平町 55	京都市文化市民局	清水早織	令和3年7月9日
78	白河街区跡	京都市左京区聖護院山王町 44	京都市文化市民局	新田和央	令和3年6月24日
79	大深町須恵器窯跡	京都市北区西賀茂大深町 20 - 1	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和3年7月26日
80	平安京跡	京都市下京区中堂寺柳筒町 7 - 9、36 - 1	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和3年7月24日～ 令和3年7月27日
81	鳥羽離宮跡	京都市伏見区中島前山町 117、118	京都市文化市民局	新田和央	令和3年8月2日
82	室町殿跡・上京道跡	京都市上京区烏丸通今出川上る岡松町 255	京都市文化市民局	清水早織	令和3年6月14日～ 令和3年6月25日
83	植物園北遺跡・芝本瓦窯跡	京都市左京区松ヶ崎東池ノ内町 2 はか	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和3年7月28日～ 令和3年7月29日
84	平安京跡	京都市下京区西酢屋 16	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年7月12日～ 令和3年7月13日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和4年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
85	伏見城跡	京都市伏見区銀座三丁目309番1の一部	京都市文化市民局	新田和央	令和3年8月5日
86	平安京跡	京都市中京区壬生仙念町2-1、3-2、1-1の一部	京都市文化市民局	新田和央	令和3年8月6日
87	法住寺殿跡	東山区今熊野北日吉町17	京都市文化市民局	清水早織	令和3年8月10日～ 令和3年8月11日
88	平安京跡・壬生遺跡	京都市中京区壬生神明町1-3	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年8月18日
89	鳥羽離宮跡	京都市伏見区中島秋ノ山町102番1	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年8月19日
90	伏見城跡	京都市伏見区福島太夫北町52（呉竹総合支援学校）	京都市文化市民局	新田和央	令和3年8月3日
91	平安京跡・公家町遺跡	京都市上京区京都御苑	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年7月14日～ 令和3年8月24日
92	平安京跡・三条せと物や町跡	京都市中京区弁慶石町55番	京都市文化市民局	熊井亮介	令和3年6月16日～ 令和3年8月4日
93	平安京跡・妙圓寺城跡	京都市中京区二条西洞院町637-1ほか	京都市文化市民局	清水早織	令和3年9月1日
94	北野台遺跡	綾部市位田町野本ほか	綾部市教育委員会	廣富亮太	令和3年6月1日～ 令和3年7月30日
95	寺山古墳	城陽市平川東垣外24-1、23-4	城陽市教育委員会	浅井猛宏・能勢麻由佳	令和3年6月8日
96	久津川車塚古墳・横道遺跡	城陽市平川山道15番地1	城陽市教育委員会	浅井猛宏・能勢麻由佳	令和3年8月16日～ 令和3年8月27日
97	長岡京跡	向日市森本町上町田21-2、21-3、22、22-1、23、23-2	向日市教育委員会	渡部 博・勝本健次・橋本雅俊	令和3年4月2日～ 令和3年4月16日
98	長岡京跡	向日市森本町上町田17、18、19	向日市教育委員会	渡部 博・勝本健次・橋本雅俊	令和3年4月16日～ 令和3年4月28日
99	長岡京跡	向日市森本町上町田25、26、26-3、27-1、27-5、33-1、33-3	向日市教育委員会	渡部 博・勝本健次・橋本雅俊	令和3年4月30日～ 令和3年7月15日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
100	長岡京跡	向日市森本町上町田 23	向日市教育委員会	渡部 博・勝本健次・橋本雅俊	令和3年4月12日～ 令和3年5月14日
101	長岡京跡	向日市森本町上町田 27 - 2、 27 - 5	向日市教育委員会	渡部 博・勝本健次・橋本雅俊	令和3年5月12日～ 令和3年5月12日
102	長岡京跡	向日市森本町東ノ口 40 - 1	向日市教育委員会	渡部 博・勝本健次・橋本雅俊・田邊貴教	令和3年4月2日～ 令和3年5月7日
103	長岡京跡	向日市森本町東ノ口 1 - 1、 1 - 2、2 - 3、2 - 4、2 - 7、 2 - 8、3 - 1、4 - 4	向日市教育委員会	渡部 博・勝本健次・橋本雅俊	令和3年4月2日～ 令和3年5月7日
104	長岡京跡	向日市森本町上町田 15	向日市教育委員会	渡部 博・勝本健次・橋本雅俊	令和3年6月21日～ 令和3年7月21日
105	備前遺跡	八幡市八幡備前 19、20 - 1、 20 - 4、31 - 18、八幡南山 39 - 1、66、80、85、87、107 - 5	八幡市教育委員会	太田喬士・川崎文子	令和3年5月11日～ 令和3年7月9日
106	梅井遺跡	木津川市山城町梅井西垣内 4 番・5番合併	木津川市教育委員会	大坪州一郎	令和3年9月1日～ 令和3年9月10日
107	幸水遺跡	八幡市美濃山幸水 22 - 4 ほか	八幡市教育委員会	吉田芽依・宇治原靖泰	令和3年6月24日
108	木津川河床遺跡	八幡市八幡沢 7 番、7 番 1	八幡市教育委員会	太田喬士・吉田芽依	令和3年7月5日～ 令和3年7月6日
109	備前遺跡	八幡市八幡備前 19、20 - 1、 20 - 4、31 - 18、八幡南山 39 - 1、66、80、85、87、107 - 5	八幡市教育委員会	太田喬士・川崎文子	令和3年7月7日～ 令和3年8月31日
110	東風ヶ岡遺跡	京丹後市大宮町河辺 1895 番地 ほか	京丹後市教育委員会	岡林峰夫・奥勇介	令和3年6月29日～ 令和3年7月30日
111	長田段遺跡	福知山市字長田小字市場 447 番 1、448 番 1、448 番 2、 449 番 1	福知山市教育委員会	鷺田紀子	令和3年5月26日～ 令和3年5月26日
112	福知山城跡	福知山市字内記 45 番 10 ほか 4 筆	福知山市教育委員会	鷺田紀子	令和3年7月5日～ 令和3年7月5日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和4年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
113	前田遺跡	福知山市市前田小字岩畑 1354 番 16 の一部	福知山市教育委員会	鷺田紀子	令和3年7月15日
114	草地遺跡	福知山市宇堀小字西山 1784 ほか 5 筆	福知山市教育委員会	鷺田紀子	令和3年8月17日
115	木津遺跡	木津川市木津町打垣外 89	木津川市教育委員会	大坪州一郎	令和3年7月26日～ 令和3年7月30日
116	百々遺跡	大山崎町字円明寺小字百々 23、25、26、26-1、27	大山崎町教育委員会	古閑正浩	令和3年8月4日
117	大山崎遺跡群	大山崎町字大山崎小字水福寺 7	大山崎町教育委員会	古閑正浩	令和3年8月5日
118	門田遺跡	京田辺市大住門田、辻ノ垣内地内	京田辺市	吉兼千陽・上野あさひ	令和2年11月24日～ 令和2年11月30日
119	門田遺跡	京田辺市大住門田・辻ノ垣内地内	京田辺市	吉兼千陽・上野あさひ	令和2年11月17日～ 令和2年12月10日
120	桶栗遺跡	京田辺市田辺池ノ尻・草屋・柿ノ内・石塚地内	京田辺市	吉兼千陽・上野あさひ	令和2年12月1日～ 令和3年1月20日
121	天理山古墳群	京田辺市薪山垣外1番3ほか	京田辺市	上野あさひ	令和3年6月23日～ 令和3年8月3日
122	門田遺跡	京田辺市大住辻ノ垣内地内	京田辺市	吉兼千陽	令和3年8月2日～ 令和3年11月12日
123	平安京跡・公家町遺跡・公家町遺跡・京都新城跡	京都市中京区関東屋町	京都市文化市民局	清水早織	令和3年9月3日～ 令和3年9月6日
124	平安京跡	京都市下京区大宮通綾小路下る綾大宮町 41	京都市文化市民局	清水早織	令和3年9月13日
125	長岡京跡	京都市伏見区久我森ノ宮町 14-19、14-20	京都市文化市民局	清水早織	令和3年9月16日
126	平安京跡	京都市下京区j西七条掛崎町 56	京都市文化市民局	清水早織	令和3年9月15日
127	鳥羽離宮跡	京都市伏見区竹田真幡木町 85	京都市文化市民局	清水早織	令和3年9月14日
128	吉祥院竹尻城跡	京都市南区吉祥院西ノ内町 37 番 1、39 番、40 番 1、40 番 2	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和3年9月7日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
129	淀城跡・長岡京跡	京都市伏見区淀池上町128	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年8月30日～ 令和3年8月31日
130	山科本願寺跡	京都市山科区西野山階町44	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年8月30日～ 令和3年9月29日
131	平安京跡	京都市上京区新町通上長者町 下る元頂妙寺町302ほか	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和3年9月27日
132	平安京跡	京都市右京区山ノ内赤山町7 -1、7-2、8、39-1	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和3年9月30日
133	園部城跡	南丹市園部町小桜町29-1	南丹市教育委員会	辻健次郎	令和3年4月26日～ 令和3年10月5日
134	平安京跡・平安宮跡・聚楽遺跡	京都市上京区中務町486-9	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年9月3日～ 令和3年10月6日
135	平安京跡・平安宮跡	京都市上京区浄福寺通一条下 る東西俣屋町662-1	京都市文化市民局	清水早織	令和3年10月20日
136	平安京跡・妙顕寺城跡	京都市中京区御池通西洞院西 入石橋町438-5ほか1筆	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和3年10月13日
137	長岡京跡	京都市伏見区羽東師古川町49 -1	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和3年10月18日
138	平安京跡・平安宮跡・聚楽遺跡	京都市上京区千本通二条下 る聚楽町850番ほか3筆	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和3年10月19日
139	平安京跡	京都市南区東九条東岩本町19 番1、21番5、25番21	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年10月25日～ 令和3年10月27日
140	旭山古墳群	京都市山科区花山旭山町地先	京都市文化市民局	熊井亮介	令和3年5月11日～ 令和3年5月13日
141	下三栖城跡	京都市伏見区横大路下三栖梶 原町65番地	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和3年7月7日～ 令和3年8月6日
142	平安京跡・西ノ京道跡	京都市中京区西ノ京春日町16 -1	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年11月12日～
143	平安京跡・内膳町道跡	京都市上京区室町通中立下 る花立町469	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年11月5日
144	柳林寺境内	京都市左京区永観堂町48、41 の一部、41-1、42、43、46 の一部、59、51-9、58	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和3年11月1日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和4年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
145	白河街区跡	京都市左京区聖護院山王町 44	京都市文化市民局	新田和央	令和3年10月4日～ 令和3年11月16日
146	平安京跡・烏丸 綾小路遺跡	京都市下京区油小路通仏光寺 下る太子山町 602 番地の 1	京都市文化市民局	鈴木久史	令和3年11月10日～ 令和3年11月11日
147	平安京跡	京都市下京区鍛冶屋町 254	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和3年11月8日～ 令和3年11月9日
148	上京遺跡・寺ノ 内旧城	京都市上京区寺ノ内通新町西 入妙顕寺前町 515 番地 14	京都市文化市民局	熊井亮介	令和3年11月19日～ 令和3年11月19日
149	平安京跡	京都市下京区五条通堺町東入 る塩竈町 377 ほか	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年12月1日
150	芝町遺跡	京都市山科区四ノ宮芝畑町 15 番地ほか	京都市文化市民局	清水早織	令和3年10月21日～ 令和3年12月17日
151	法性寺跡	京都市東山区本町 11 丁目 208 - 1、209 - 1、209 - 2、 725 - 3	京都市文化市民局	新田和央	令和3年12月13日
152	平安京跡・御土 居跡	京都市下京区朱雀分木町 80 番 地の一部	京都市文化市民局	熊井亮介	令和3年11月16日～ 令和3年11月17日
153	平安京跡	京都市右京区花園藪ノ下町 9 番	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和3年12月20日
154	伏見城跡	京都市伏見区桃山水野左近東 町 76 - 4、76 - 5	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和3年12月15日
155	白河南殿跡	京都市左京区聖護院蓮草蔵町 31 番地	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年12月22日～ 令和3年12月24日
156	西牟塚古墳	八幡市八幡大芝 17 番地ほか	八幡市教育委員会	吉川芽依・川 崎文子	令和3年11月19日～ 令和3年12月24日
157	段ノ田遺跡	福知山市宇川北ほか	福知山市教育委員会	鷺田紀子	令和3年11月17日～ 令和4年1月31日
158	安国寺遺跡	宮津市宇中野タギ所 177 番ほ か	宮津市教育委員会	河守一浩	令和3年10月11日～ 令和3年12月24日
159	興戸遺跡	京田辺市興戸小モ詰 7 番 3	京田辺市	吉兼千陽・上 野あさひ	令和3年12月6日～ 令和4年2月28日
160	瓦塚古墳	宇治市五ヶ庄瓦塚 31・32	宇治市教育委員会	大野壽子・岡 紗佑里・松 村 真・浅田 洋輔	令和3年12月24日～ 令和4年3月31日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
161	長岡京跡	向日市森本町春日井 36 - 2、 37 - 1、38、39、40	向日市教育委員会	渡部 博・山 田久美子・橋 本雅俊	令和3年11月2日～ 令和3年12月10日
162	長岡京跡	向日市森本町春日井 34、35	向日市教育委員会	渡部 博・山 田久美子・橋 本雅俊	令和3年11月2日～ 令和3年12月10日
163	長岡京跡	向日市森本町上町田 16 - 1、 16 - 2	向日市教育委員会	渡部 博・山 田久美子・橋 本雅俊	令和3年11月26日～ 令和3年12月10日
164	平安京跡	京都市下京区八百屋町 264 は か	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和4年1月4日～ 令和4年1月5日
165	北野遺跡・北野 庵寺	京都市北区北野上白梅町 35 - 1	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和4年1月6日
166	平安京跡	京都市右京区西院西久掛町 10 番、11 番の一部	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和4年1月12日
167	平安宮跡	京都市中京区西ノ京内畑町 1、 1 - 16、1 - 17の一部	京都市文化市民局	清水早織	令和4年1月11日
168	平安京跡	京都市右京区西院南高田町 1 番地、2 番地の一部	京都市文化市民局	熊井亮介	令和4年1月7日
169	平安京跡・鳥丸 織小路遺跡	京都市下京区四条通西洞院東 入郭巨山町 31 番地	京都市文化市民局	熊井亮介	令和3年11月29日～ 令和3年12月24日
170	山科本願寺南殿 跡	京都市山科区音羽伊勢宿町 26 - 5	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和3年11月29日～ 令和3年12月23日
171	長岡京跡・岩見 城跡	京都市西京区大原野岩見町 330	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和3年11月29日～ 令和3年12月23日
172	伏見城跡	京都市伏見区桃山町正宗 39 - 6、36 - 42、51 - 4、51 - 5	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年12月3日～ 令和4年2月25日
173	白川街区跡	京都市左京区聖護院山王町 44、44 - 1、44 - 2、44 - 3、44 - 4、44 - 5、44 - 6、44 - 7、44 - 8、44 - 9、 44 - 10	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和3年4月12日～ 令和3年5月24日
174	平安京跡	京都市南区東九条上殿田町 48 番 2	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和4年1月13日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和4年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
175	平安京跡	京都市中京区釜座通丸太町下 ル俣屋町 155 - 2 ほか	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和4年1月14日
176	平安京跡・公家 町通跡・京都新 城跡・寺町旧城	京都市中京区関東屋町	京都市文化市民局	赤松佳奈	令和4年1月24日～ 令和4年1月31日
177	平安京跡・二条 城北遺跡	京都市上京区猪熊通丸太町下 る仲之町 519 ほか	京都市文化市民局	新田和央	令和4年2月8日～ 令和4年2月10日
178	鳥羽離宮跡・鳥 羽遺跡	京都市伏見区竹田中殿町 95、103	京都市文化市民局	熊井亮介	令和4年2月28日
179	法界寺旧境内	京都市伏見区日野西大同町9 - 1、10 - 1、(一部)、82 - 1	京都市文化市民局	清水早織	令和4年1月17日～ 令和4年1月18日
180	大宅院寺・大宅 院寺境内瓦窯 跡・大宅遺跡	京都市山科区大宅井脇町6 - 1～大宅山田5 - 1	京都市文化市民局	鈴木久史	令和4年2月1日～ 令和4年2月4日
181	醍醐ノ森瓦窯跡	京都市北区西賀茂中川上町70 - 1	京都市文化市民局	熊井亮介	令和4年2月18日
182	上京遺跡	京都市上京区今出川通新町西 入弁財天町 326 - 2、328、 331 - 1、上京区新町通今出 川上る元新在家町 179、181 - 3	京都市文化市民局	熊井亮介	令和4年2月16日
183	法性寺跡	京都市東山区福福上高松町5 番2、5番4	京都市文化市民局	熊井亮介	令和4年2月17日
184	長岡京跡	向日市森本町東ノ口 41 - 3、 41 - 4	向日市教育委員会	渡辺 博、山 田久美子、橋 本雅俊	令和4年3月14日～ 令和4年3月31日
185	備前遺跡・南山 古墳群	八幡市八幡備前 19、20 - 1、 20 - 4、31 - 18、八幡南山 39 - 1、66、80、85、87、107 - 5	八幡市教育委員会	大田喬士、茨 木敏仁	令和4年1月17日～ 令和4年1月21日
186	清水井遺跡	八幡市八幡清水井 30 番 1、67 番 3 の一部	八幡市教育委員会	大田喬士、茨 木敏仁	令和4年2月14日～ 令和4年2月28日
187	神楽田遺跡	宇治市小倉町神楽田 46 番 1	宇治市教育委員会	大野壽子・松 村 真・岡紗 佐里・浅田洋 輔・荒川 史・ 久後千穂・橋 本拓也	令和4年2月1日～ 令和4年2月28日
188	稲葉遺跡	京田辺市田辺池ノ尻・草屋・ 柿ノ内・石塚地内	京田辺市	吉兼千陽	令和4年1月31日～ 令和4年2月18日

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
189	木津遺跡	木津川市木津小川19-1ほか	木津川市教育委員会	大坪州一郎	令和4年2月14日～ 令和4年3月31日
190	平安京跡	京都市上京区下立売通新町西 入藪ノ内町ほか	京都府教育委員会	中居和志・梶 井理揮・北山 大照・川崎雄 一郎	令和4年3月18日～ 令和4年3月31日
191	法住寺殿跡・妙 法院境内	京都市東山区妙法院前側町 447番地	京都府教育委員会	古川 匠	令和4年1月24日～ 令和4年7月31日
192	栢ノ木遺跡	井手町大字井手小字宮ノ前ほ か	京都府教育委員会	北山大照	令和3年7月14日～ 令和4年3月31日
193	矢田遺跡	亀岡市矢田ほか	京都府教育委員会	北山大照	令和3年9月6日～ 令和4年3月31日
194	千代川遺跡・拝 田14号墳	亀岡市千代川町地内	京都府教育委員会	梶井理揮・北 山大照・川崎 雄一郎	令和3年12月1日～ 令和4年1月21日
195	西加舎遺跡	亀岡市本梅町西加舎地内	京都府教育委員会	川崎雄一郎	令和3年9月15日～ 令和4年3月31日
196	八木城跡	南丹市八木ほか	京都府教育委員会	北山大照	令和3年4月28日～ 令和4年3月31日
197	北野台遺跡	綾部市位田町北野台ほか	京都府教育委員会	川崎雄一郎	令和3年5月24日～ 令和4年3月31日
198	小倉田遺跡隣接 地	福知山市夜久野町今西中小倉 田	京都府教育委員会	岡田健吾	令和3年10月27日
199	丹後国分寺跡	宮津市国分ほか	京都府教育委員会	中居和志・北 山大照	令和3年11月8日～ 令和4年3月31日
200	鶴尾遺跡	京丹後市峰山町丹波	京都府教育委員会	梶井理揮	令和3年6月14日～ 令和4年3月31日
201	佐屋利遺跡	京丹後市峰山町荒山・新町地 内	京都府教育委員会	梶井理揮	令和3年10月21日～ 令和4年3月31日
202	長岡京跡	向日市森本町41-1	向日市教育委員会	渡辺 博・勝 本健次・橋本 雅俊	令和3年9月13日～ 令和3年10月31日
203	長岡京跡	向日市森本町東ノ口2-3、 2-4、2-7	向日市教育委員会	渡辺 博・勝 本健次・橋本 雅俊	令和3年9月13日～ 令和3年10月31日

京都府埋蔵文化財調査報告書（令和4年度）

番号	遺跡名称	所在地	調査主体	発掘担当者	調査期間
204	大山崎遺跡群	大山崎町字大山崎小字谷田 31	大山崎町教育委員会	古閑正浩	令和3年10月4日
205	水主遺跡	城陽市水主南垣内8番1（一部）、8番6	城陽市教育委員会	浅井猛宏	令和3年9月21日
206	新田遺跡	八幡市内里東山川1～1番地	八幡市教育委員会	吉田芽衣・茨木敏仁	令和3年8月23日～ 令和3年9月10日
207	橋本陣屋跡	八幡市橋本焼野1番1の一部、2番3、2番5、3番6、3番4の一部、堂ヶ原3番1の一部、2番6	八幡市教育委員会	太田喬士・茨木敏仁	令和3年10月20日～ 令和3年12月10日
208	伏見城跡・指月城跡	京都市伏見区桃山町立売4-7、桃山町泰長老13-3	京都市文化市民局	黒須亜希子	令和3年9月29日
209	平安京跡・安井馬塚町古墳群	京都市右京区太秦安井馬塚町10番2	京都市文化市民局	熊井亮介	令和3年10月4日
210	上京遺跡	京都市上京区今出川通大宮西入元北小路町146-1、150、151、大宮通五辻下る親世町135	京都市文化市民局	清水早織	令和3年10月11日
211	平安京跡	京都市右京区西京極北庄境町31	京都市文化市民局	奥井智子	令和3年11月1日～ 令和3年11月12日
212	石原遺跡	福知山市石原2丁目128番の一部	福知山市教育委員会	鷲田紀子	令和3年10月4日～ 令和3年10月8日
213	平安宮跡・鳳瑞遺跡	京都市中京区聚楽廻西町186-20	京都市文化市民局	清水早織	令和3年10月14日

図 版

図版第1 府営農業農村整備事業関係遺跡
北野台遺跡（第6次調査）



(1) 調査区遠景(南西から)



(2) 調査区遠景(南から)

図版第2 府営農業農村整備事業関係遺跡
北野台遺跡（第6次調査）

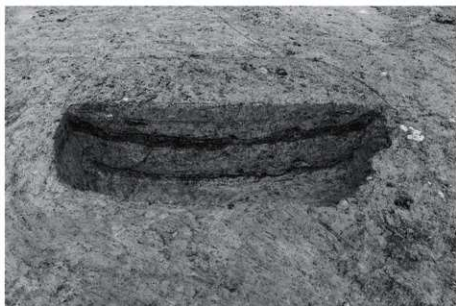


(1) 調査区全景(北東から)



(2) 調査区東壁断面(南西から)

図版第3 府営農業農村整備事業関係遺跡
北野台遺跡（第6次調査）



(1) 土坑 S K01断面(西から)



(2) 土坑 S K02断面(南西から)



(3) 溝 S D03完掘(南西から)

図版第4 府営農業農村整備事業関係遺跡
北野台遺跡（第6次調査）



図 9-3



図 9-7



図 9-5



図 9-6



図 9-2



図 11-5



図 9-9

図 9-10



図 11-9



図 11-7



図 11-9 底部



図 11-3



図 11-6



図 11-1



図 11-6 底部

図版第 5 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(千代川遺跡第 33 次調査)



(1) 調査区遠景(垂直)



(2) 調査区遠景(南東から)



(3) 第 6 トレンチ全景(東から)

図版第6 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(千代川遺跡第33次調査)



(1) 第12トレンチ全景(南から)



(2) 第25トレンチ全景(南から)



(3) 第29トレンチ全景(南から)

図版第7 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(千代川遺跡第33次調査)



(1) 第33トレンチ全景(南から)



(2) 第35トレンチ(西から)



(3) 第35トレンチ全景(北から)

図版第8 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(千代川遺跡第33次調査)



(1) S X335303半截(南東から)



(2) 第61トレンチ全景(北から)



(3) 第66トレンチ全景(東から)

図版第9 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(千代川遺跡第33次調査)



(1) 第75トレンチ全景(南から)

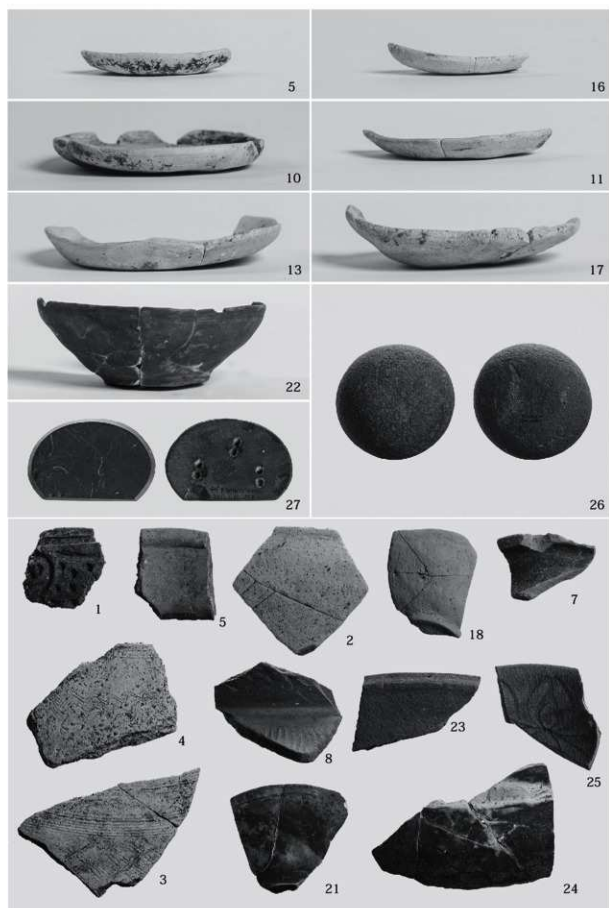


(2) 第89トレンチ全景(南から)



(3) 第95トレンチ全景(南から)

図版第 10 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(千代川遺跡第 33 次調査)



出土遺物

図版第 11 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(千代川遺跡第 34 次調査)



(1) 調査地遠景
(北東から、第 1～3 トレンチ))



(2) 調査地遠景
(南東から、第 6 トレンチ)



(3) 第 1 トレンチ全景(南から)

図版第 12 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(千代川遺跡第 34 次調査)



(1) 第 4 トレンチ全景(南から)

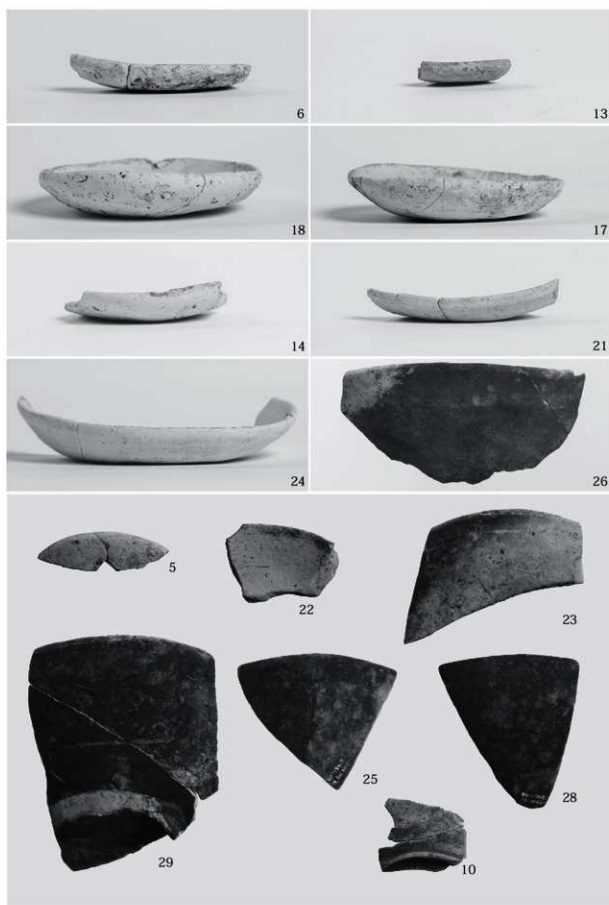


(2) 第 6 トレンチ全景(南から)



(3) 第 6 トレンチ遺構検出状況
(北東から)

図版第 13 国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡
(千代川遺跡第 34 次調査)



報告書抄録

書名	巻次	シリーズ名	シリーズ番号	編著者	編集機関	所在地	発行年月日	
京都府埋蔵文化財調査報告書（令和4年度）								
京都府教育委員会								
〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入敷ノ内町 075-414-5903								
西暦2023年3月31日								
所収道路名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	道路番号					
北野台道路	綾部市北野台	26303	A118	35度18分47秒	135度14分02秒	20200601-0629	196	農楽関連（府営農業農村整備事業に伴う事前調査）
女布道路	舞鶴市女布	2620	211	35度35分31秒	135度19分13秒	20200809-0930	113	調査
千代川道路	亀岡市千代川町	26306	22	35度03分09秒	135度32分26秒	20201201-20210226 20211201-1217	945	農楽関連（国営農業農村整備事業に伴う事前調査）
西加舎道路	亀岡市本郷町西加舎	26306	148	35度00分14秒	135度28分48秒	20200801-1031	1180	農楽関連（国営農業農村整備事業に伴う事前調査）
井手道路	亀岡市本郷町西加舎	26306	27	35度00分46秒	135度28分45秒	20221101-1130	205	
丹後国分寺跡	宮津市国分	26305	54	35度34分39秒	135度10分44秒	20210204-1223	310	保存目的
高津道路	横部市高津町大横	26306	D13	35度18分13秒	135度11分56秒	20200620	18.5	府道拡張
所収道路名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
北野台道路	散布地	古代～中世	掘立柱建物、溝、土坑	土師器、須恵器			奈良時代の掘立柱建物、溝等を確認	
女布道路	集落	古墳～古代	柱穴、溝、溝	土師器、須恵器			区画溝、溝を確認	
千代川道路	集落	縄文～中世	柱穴、溝、土坑	弥生土器、土師器、須恵器、石製品			弥生～中世の遺構を確認	
西加舎道路	散布地	奈良～中世	柱穴、溝、土坑	土師器、瓦器			中世の土坑、溝等を確認	
井手道路	散布地	奈良～中世	柱穴、溝、土坑	土師器、須恵器、瓦器			中世の溝を確認した	
丹後国分寺跡	寺院	奈良～中世	柱穴、溝	土師器、須恵器、瓦			礎石とみられる石材を確認	
高津道路	散布地	—	—	—			—	
要約	・北野台道路では、奈良時代の掘立柱建物や溝を検出した。							
	・千代川道路では、縄文時代から中世にかけての遺構を検出した。							
	・西加舎道路では、中世の溝や土坑を検出した。							
	・井手道路では、古代及び中世の溝や土坑を検出した。							
	・丹後国分寺跡では、礎石とみられる石材を検出するとともに古代瓦が出土した。							

報告書抄録（英文）

Title	Kyoto Pref. Cultural Properties Report (Reiwa 4)					
Writer	Yasumasa Nara, Kengo Okada, Riki Kirii, Daiki Kitayama, Yuichiro Kawasaki, Kiwako Hama					
Copyright	Kyoto Prefectural Board of Education 〒 602-8570 Yabunouchicho Shinmachi-nishiru Shimodachiuri-tori Kamigyo-ward Kyoto-city Japan					
The date of issue	31.Mar.2023					
Site	Location	North latitude	East latitude	Excavated term	Excavated area (㎡)	Origin of excavation
Kitanodai site	Kitanodai Iden-town Ayabe-city Kyoto-pref	35° 18' 47"	135° 14' 02"	20220601-0629	196	Pref-managed im-provement in abicultural infrastructure for raising an agriculture man-ager
Nyo site	Nyo Mainuru-city Kyoto-pref	35° 35' 31"	135° 19' 13"	20220809-0930	113	
Chiyo-kawa site	Chiyo-kawa-town Kameoka-city Kyoto-pref	35° 03' 09"	135° 32' 26"	20201201-20210226 20211201-1217	945	The government-managed Kameoka agricultural land reorganization consolidation project
Nishigaya site	Nishigaya Honme-town Kameoka-city Kyoto-pref	35° 00' 14"	135° 28' 48"	20220801-1031	1180	
Ide site	Nishigaya Honme-town Kameoka-city Kyoto-pref	35° 00' 46"	135° 28' 45"	20221101-1130	205	Investigation for preservation and applicatio
Tango kokubunji temple	Kokubu Miyazu-city Kyoto-pref	35° 34' 39"	135° 10' 44"	20221024-1223	310	
Takatsu site	Oohashi Takatsu-town Ayabe-town Kyoto-pref	35° 18' 13"	135° 11' 56"	20190408	18.5	Road construction
Site	Sort (class)	Period	Features	Artificial description		
Kitanodai site	the distribution area of relics	ancient-medieval times	posthole,ditch,hole	haji ware,sue ware		
Nyo site	dwelling cluster	kofun-medieval times	posthole,fence,ditch	haji ware,sue ware		
Chiyo-kawa site	dwelling cluster	jomon-medieval times	posthole,ditch,hole	yayoi ware,haji ware,sue ware,stone tool		
Nishigaya site	the distribution area of relics	nara-medieval times	posthole,ditch,hole	haji ware, gaki ware		
Ide site	the distribution area of relics	nara-medieval times	posthole,ditch,hole	haji ware,sue were, gaki ware		
Tango kokubunji temple	temple	nara-medieval times	posthole,ditch	haji ware,sue ware,roof tile		
Takatsu site	the distribution area of relics	-	-	-		

KYOTO PREF. CULTURAL PROPERTIES REPORT

COPYRIGHT ©Kyoto Prefectural Board of Education, 2023

Kyoto Prefectural Board of Education

Shinmachi Shimodachiuri Kamigyo-ward Kyoto 602-8570, Japan

edited by Cultural Properties Division Department of Guidance

Kyoto Prefectural Department of Education

Published by Kyoto Prefectural Board of Education

No Parts of this publication may be reproduced or by any means Without prior
permission of copyright owner

京都府埋蔵文化財調査報告書

(令和4年度)

発行 令和5年3月31日

編集 京都府教育庁指導部

文化財保護課

発行 京都府教育委員会

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

印刷 三星商事印刷株式会社

〒602-8358 京都府京都市上京区七本松通下長者下る三

番町273番

KYOTO PREF.
CULTURAL PROPERTIES REPORT

KYOTO PREFECTURAL BOARD OF EDUCATION
JAPAN